

TR3XM-C106 シリーズ

通信プロトコル説明書

発行日 2026 年 3 月 5 日

Ver 1.06

◆本通信プロトコル説明書の対象機器

製品型式	インターフェース
TR3XM-C106/TR3XM-C106-MFC/TR3XM-C106-ILT	UART (CMOS レベル シリアル)
TR3XM-C106-2CH/TR3XM-C106-MFC-2CH/TR3XM-C106-ILT-2CH	
TR3XM-C106-A4247/TR3XM-C106-MFC-A4247/TR3XM-C106-ILT-A4247	
TR3XM-C106-A2424/TR3XM-C106-MFC-A2424/TR3XM-C106-ILT-A2424	
TR3XM-C106-A3540	
TR3XM-C106F	

※：製品型式ごとに対応タグ規格が異なります。「表 1：製品型式とタグ規格対応」をご参照ください。

◆動作確認済タグ

規格	動作確認済タグ
ISO/IEC15693 ISO/IEC18000-3(Mode1) (※2)	Tag-it HF-I Plus/Tag-it HF-I Standard/Tag-it HF-I Pro
	ICODE SLI/ICODE SLI-S/ICODE SLI-L
	ICODE SLIX/ICODE SLIX-S/ICODE SLIX-L
	ICODE SLIX2/NTAG5 (※3)
	SRF55V10P my-d vicinity plain SRF55V02P my-d vicinity plain SRF55V01P my-d Light
	MB89R118C/MB89R119B/MB89R112
ISO/IEC14443 TypeA	M24LR04E-R/M24LR16E-R/M24LR64E-R/LRIS64K ST25DV04K/ST25DV16K/ST25DV64K
	MIFARE Ultralight/MIFARE Ultralight EV1 MIFARE Classic/MIFARE DESFire (※3)(※4)
	my-d move
	NTAG203/NTAG213/NTAG215/NTAG216/NTAG213TT
	SIC43NT
ISO/IEC14443 TypeB	NFC Forum Type2 Tag (※3)
	IC 運転免許証/マイナンバーカード
	その他ファイルフォーマットが分かる TypeB カード
ISO/IEC18092 (212kbps,Passive Mode)	FeliCa (※3)
	FeliCa Lite/FeliCa Lite-S
	NFC Forum Type3 Tag (※3)
ISO/IEC18000-3(Mode3)	ICODE ILT-M

※1：製品型式ごとに対応タグ規格が異なります。「表 1：製品型式とタグ規格対応」をご参照ください。

※2：RF タグのカスタムコマンドについては別紙「カスタムコマンド通信プロトコル説明書 (ISO15693ThroughCmd 編)」をご参照ください。

※3：セキュリティ機能は上位側の処理で対応可能なはずだが動作未確認

※4：一部のコマンドのみ確認済み。（リード、ライト、鍵認証（上位処理）等）

タカヤ株式会社

マニュアル番号：TDR-MNL-PRC-C106-106

表1：製品型式とタグ規格対応

製品型式 アンテナ 接続仕様			対応規格					
			ISO/IEC 15693 ISO/IEC 18000-3 (Mode1) (※1)	ISO/IEC14443 TypeA		ISO/IEC 14443 TypeB	ISO/IEC 18092	ISO/IEC 18000-3 (Mode3)
				ISO/IEC 14443 関連 コマンド	MIFARE Classic用 コマンド (※2)			
TR3XM-C106-								
-	-	1CH型	○	○	×	○	○	×
	2CH	2CH型						
	A4247	一体型						
	A2424	一体型						
	A3540	一体型						
MFC	-	1CH型	○	○	○	×	×	×
	2CH	2CH型						
	A4247	一体型						
	A2424	一体型						
ILT	-	1CH型	○	×	×	×	×	○
	2CH	2CH型						
	A4247	一体型						
	A2424	一体型						
TR3XM-C106F		-	○	○	○	○	○	○

※1：TR3XM-C106シリーズでは、

符号化方式（リーダライタ→RFタグ）が1/4のみ、

サブキャリア設定（RFタグ→リーダライタ）はシングルサブキャリア（ASK）のみの対応となります。

※2：MIFARE Classic用コマンドとは、「6.1.4 ISO/IEC 14443 TypeA通信コマンド」に記載の

「MIFARE Classic用コマンド」の対応可否を示しています。コマンドの詳細は別紙「TR3XM通信プロトコル説明書(MifareClassicコマンド編)」をご参照ください。

MIFARE Classic用コマンド非対応製品は「7.12.14 TypeAThroughCmd」を使用したMifareClassicタグとの交信もできません。

はじめに

このたびは、弊社製品「RFIDリーダライタモジュール TR3XM-C106シリーズ」をご利用いただき、誠にありがとうございます。

本書は、リーダライタと上位機器間の通信インターフェース、リーダライタの動作モード、リーダライタを制御するための各種コマンドについて記載しています。

上位アプリケーションを開発する際は、下記資料をご参照ください。

本書は TR3XM-C106 シリーズ共通の通信プロトコル説明書となりますが、機種により対応 RF タグ、専用機能などが存在するため、機能毎の個別資料としているものもあります。

- ・ TR3XM-C106 シリーズ通信プロトコル説明書（本書）
- ・ カスタムコマンド通信プロトコル説明書[ISO15693ThroughCmd 編]
- ・ TR3XM 通信プロトコル説明書（MifareClassic コマンド編）
- ・ ISO14443 TypeB 通信プロトコル説明書
- ・ ISO18000-3M3 通信プロトコル説明書
- ・ 各種製品の取扱説明書
- ・ 各種 RF タグの仕様書/データシート
- ・ ISO14443 規格書（ISO/IEC14443-3/JISX6322-3、ISO/IEC14443-4/JISX6322-4）
- ・ IC カード実装仕様（JISX6319-3）

また、ユーティリティソフト（TR3RWManager.exe）を使用することで本書に記載のコマンドを実行することができ、コマンド、レスポンスのログも参照することができますので合わせてご活用ください。なお、上位 PC と対象機器との接続には、別途 IF 基板が必要となります。

各種通信プロトコル説明書、各種製品の取扱説明書、ユーティリティソフトは以下の URL よりダウンロードすることができます。

ただし、本製品専用のドキュメントなど、一部の資料は WEB 公開していないものもありますので、購入先までお問い合わせください。

<https://www.product.takaya.co.jp/rfid/products.html>

RFID リーダライタモジュール TR3XM-C106 シリーズは以下の国際標準規格に対応した製品です。

- ・ ISO/IEC 15693
- ・ ISO/IEC 18000-3 (Mode1)
- ・ ISO/IEC 14443TypeA
- ・ ISO/IEC 14443TypeB
- ・ FeliCa (ISO/IEC 18092 212kbps PassiveMode)
- ・ ISO/IEC 18000-3 (Mode3)

上記規格以外の RF タグ、IC カードには対応しておりませんのでご注意ください。

ご注意

- ・ 改良のため、お断りなく仕様変更する可能性がありますのであらかじめ御了承ください。
- ・ 本書の文章の一部あるいは全部を、無断でコピーしないでください。
- ・ 本書に記載した会社名・商品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標になります。
Tag-it HF-I シリーズは Texas Instruments 社、my-d シリーズは Infineon Technologies 社、ICODE SLI シリーズ、Mifare、Mifare Ultralight は NXP Semiconductors 社、MB89R シリーズは富士通セミコンダクター社、FeliCa はソニー株式会社の商標、または登録商標です。
また、本書に記載した会社名・商品名などは、各社の商標または登録商標になります。

ROM バージョン情報

TR3XM-C106シリーズのROMバージョン別に更新情報を記載します。

ROMバージョンはユーティリティソフト (TR3RWManager.exe) およびコマンド (7.8.7 ROMバージョンの読み取り) にてご確認いただけます。

<TR3XM-C106-2CH>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STV00	2022年5月～	新規リリース
1.001STV00	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STV00	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STV00	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STV01	2022年5月～	新規リリース
1.001STV01	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STV01	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STV01	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106-A4247>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STV02	2022年5月～	新規リリース
1.001STV02	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STV02	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STV02	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106-A2424>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STV03	2022年5月～	新規リリース
1.001STV03	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STV03	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STV03	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106-A3540>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STV03	2022年5月～	新規リリース
1.001STV03	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STV03	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STV03	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106-MFC-2CH>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STA00	2022年5月～	新規リリース
1.001STA00	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STA00	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STA00	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106-MFC>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STA01	2022年5月～	新規リリース
1.001STA01	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STA01	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STA01	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106-MFC-A4247>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STA02	2022年5月～	新規リリース
1.001STA02	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STA02	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STA02	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106-MFC-A2424>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STA03	2022年5月～	新規リリース
1.001STA03	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STA03	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STA03	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106-ILT-2CH>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STI00	2022年5月～	新規リリース
1.001STI00	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STI00	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STI00	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106-ILT>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STI01	2022年5月～	新規リリース
1.001STI01	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STI01	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STI01	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106-ILT-A4247>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STI02	2022年5月～	新規リリース
1.001STI02	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STI02	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STI02	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106-ILT-A2424>

バージョン	更新時期	更新内容
1.000STI03	2022年5月～	新規リリース
1.001STI03	2023年2月～	・リーダライタ起動時パワー制御処理を修正 ・カードディテクション及びパワーダウン復帰後の処理を修正
1.010 STI03	2025年5月～	・ISO15693ThroughCmdにて要求フラグ最上位ビット(bit7)のフラグ操作に対応
1.020 STI03	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

<TR3XM-C106F>

バージョン	更新時期	更新内容
1.010STF00	2024年9月～	新規リリース
1.020STF00	2025年6月～	・前回と規格が異なるRFタグコマンドを実行する際の内部処理を最適化

目次

第 1 章	通信インターフェース.....	1
1.1	リーダライタモジュールの通信インターフェース.....	2
第 2 章	リーダライタの動作モード.....	4
2.1	リーダライタの動作モード概要.....	5
2.2	リーダライタの動作モード遷移.....	9
2.3	コマンドモード.....	10
2.4	連続インベントリモード.....	11
2.5	RDLOOP モード.....	12
2.6	オートスキャンモード.....	13
2.7	トリガーモード.....	14
2.8	ポーリングモード.....	15
2.9	EPC インベントリモード.....	16
2.10	EPC インベントリリードモード.....	17
2.11	カードディテクションモード.....	18
2.12	設定パラメータ.....	20
第 3 章	リーダライタの機能.....	21
3.1	リーダライタの状態遷移.....	22
3.1.1	RF 送信信号設定「起動時 ON」.....	23
3.1.2	RF 送信信号設定「起動時 OFF（コマンド受付以降 ON）」.....	24
3.1.3	RF 送信信号設定「コマンド実行時以外常時 OFF」.....	25
3.2	リトライ処理.....	26
3.3	アンチコリジョンモード.....	30
3.4	RF 送信信号設定.....	31
3.5	S6700 互換モード設定.....	35
3.5.1	ベリファイ処理.....	35
3.5.2	必ず NACK 応答のコマンド.....	35
3.5.3	リトライ処理.....	35
3.5.4	レスポンス仕様.....	36
3.5.5	ISO15693ThroughCmd について.....	36
3.6	MY-D アクセス方式.....	37
3.6.1	ページアクセス.....	38
3.6.2	ブロックアクセス.....	38
3.7	LED 点灯条件.....	39
第 4 章	RF タグの機能.....	42
4.1	RF タグの状態遷移（ISO15693）.....	43
4.2	RF タグの状態遷移（ISO14443TYPEA）.....	45
4.3	RF タグのメモリ構造.....	46
4.3.1	UID のフォーマット.....	46
4.3.2	RF タグの識別方法.....	47
4.3.3	AFI のコード.....	49
4.3.4	RF タグの AFI 判別フロー.....	50
4.3.5	ユーザメモリ.....	51
4.3.6	ブロックセキュリティステータス.....	52
第 5 章	通信フォーマット.....	53
5.1	コマンド／レスポンスの通信フォーマット.....	54
5.2	通信フォーマットの詳細.....	55

5.3	データ配列.....	56
5.4	SUM の計算方法.....	57
5.5	コマンドレスポンス.....	58
5.5.1	コマンドモードを使用する場合.....	58
5.5.2	コマンドモード以外の動作モードを使用する場合.....	59
第 6 章 コマンド一覧／対応表.....		60
6.1	コマンド一覧.....	61
6.1.1	リーダライタ制御コマンド.....	61
6.1.2	リーダライタ設定コマンド.....	62
6.1.3	RF タグ通信コマンド.....	63
6.1.4	ISO/IEC 14443 TypeA 通信コマンド.....	64
6.1.5	ISO/IEC 14443 TypeB 通信コマンド.....	64
6.1.6	FeliCa 通信コマンド.....	65
6.1.7	EPC 通信コマンド.....	65
6.2	リーダライタ別コマンド対応表.....	66
6.2.1	リーダライタ制御コマンド.....	66
6.2.2	リーダライタ設定コマンド.....	67
6.2.3	RF タグ通信コマンド.....	68
6.2.4	ISO/IEC 14443 TypeA 通信コマンド.....	69
6.2.5	ISO/IEC14443 TypeB 通信コマンド.....	70
6.2.6	FeliCa 通信コマンド.....	70
6.2.7	EPC 通信コマンド.....	71
6.3	RF タグ別コマンド対応表.....	72
6.3.1	動作確認済タグ.....	72
6.3.2	Tag-it HF-I シリーズ.....	74
6.3.3	ICODE SLI シリーズ.....	75
6.3.4	my-d シリーズ.....	77
6.3.5	MB89R シリーズ.....	78
6.3.6	STMicro 社製 RFID.....	80
第 7 章 コマンドフォーマット.....		84
7.1	連続インベントリモード.....	85
7.2	RDLOOP モード.....	86
7.3	オートスキャンモード.....	87
7.3.1	SimpleWrite とオートスキャンモードの関係.....	88
7.3.2	Tag-it HF-I Plus.....	89
7.3.3	Tag-it HF-I Standard／Tag-it HF-I Pro.....	90
7.3.4	ICODE SLI／ICODE SLIX.....	91
7.3.5	ICODE SLI-S／ICODE SLIX-S.....	92
7.3.6	ICODE SLI-L／SLIX-L.....	93
7.3.7	ICODE SLIX2.....	94
7.3.8	my-d SRF55V10P.....	95
7.3.9	my-d SRF55V02P.....	97
7.3.10	my-d Light SRF55V01P.....	99
7.3.11	MB89R118C.....	100
7.4	トリガーモード.....	101
7.5	ポーリングモード.....	102
7.6	カードディテクションモード.....	103
7.7	ノーリードコマンド.....	106
7.8	リーダライタ制御コマンド.....	108
7.8.1	エラー情報の読み取り.....	108
7.8.2	パワー状態の読み取り.....	109
7.8.3	使用アンテナ番号の読み取り.....	110
7.8.4	カレント UID の読み取り.....	111

7.8.5	リーダライタ保存 UID 数の読み取り	112
7.8.6	リーダライタ保存 UID データの読み取り	113
7.8.7	ROM バージョンの読み取り	114
7.8.8	RF 送信信号の制御	116
7.8.9	パワー状態の制御	118
7.8.10	使用アンテナ番号の設定	119
7.8.11	カレント UID の設定	120
7.8.12	LED の制御	121
7.8.13	LED&ブザーの制御	123
7.8.14	リスタート	126
7.8.15	EEPROM 設定の初期化	127
7.8.16	ブザーの制御	128
7.9	リーダライタ設定コマンド	129
7.9.1	リーダライタ動作モードの読み取り	129
7.9.2	RF タグ動作モードの読み取り	132
7.9.3	アンチコリジョンモードの読み取り	134
7.9.4	AFI 指定値の読み取り	135
7.9.5	RF 送信信号設定の読み取り	136
7.9.6	RF タグ通信設定の読み取り	137
7.9.7	S6700 互換モード設定の読み取り	138
7.9.8	汎用ポート値の読み取り	139
7.9.9	拡張ポート値の読み取り	141
7.9.10	EEPROM 設定値の読み取り	142
7.9.11	自動読取モード設定の読み取り	143
7.9.12	カードディテクションモード設定の読み取り	145
7.9.13	カードディテクションモードのチューニング	146
7.9.14	RSSI 値の読み取り	147
7.9.15	リーダライタ動作モードの書き込み	148
7.9.16	RF タグ動作モードの書き込み	151
7.9.17	アンチコリジョンモードの書き込み	153
7.9.18	AFI 指定値の書き込み	154
7.9.19	RF 送信信号設定の書き込み	155
7.9.20	RF タグ通信設定の書き込み	156
7.9.21	S6700 互換モード設定の書き込み	157
7.9.22	汎用ポート値の書き込み	158
7.9.23	拡張ポート値の書き込み	160
7.9.24	EEPROM 設定値の書き込み	162
7.9.25	自動読取モード設定の書き込み	163
7.9.26	カードディテクションモード設定の書き込み	165
7.10	RF タグ通信コマンド	166
7.10.1	オプションフラグ	166
7.10.2	Inventory	168
7.10.3	StayQuiet	171
7.10.4	ReadSingleBlock	172
7.10.5	WriteSingleBlock	174
7.10.6	LockBlock	177
7.10.7	ReadMultiBlock	179
7.10.8	WriteMultiBlock	182
7.10.9	SelectTag	185
7.10.10	ResetToReady	186
7.10.11	WriteAFI	187
7.10.12	LockAFI	189
7.10.13	WriteDSFID	190
7.10.14	LockDSFID	192
7.10.15	GetSystemInfo	193
7.10.16	GetMBlockSecSt	196
7.10.17	Inventory2	197

7.10.18	ReadBytes	200
7.10.19	WriteBytes.....	202
7.10.20	LockBytes.....	205
7.10.21	RDLOOPCmd.....	207
7.10.22	SimpleRead	210
7.10.23	SimpleWrite	212
7.10.24	Write2Blocks	214
7.10.25	Lock2Blocks	215
7.10.26	Kill	216
7.10.27	WriteSingleBlockPwd.....	217
7.10.28	Myd_Read.....	219
7.10.29	Myd_Write.....	220
7.10.30	ISO15693ThroughCmd	222
7.11	RF タグ別 SIMPLEWRITE 仕様	224
7.11.1	Tag-it HF-I Plus.....	225
7.11.2	Tag-it HF-I Standard/Tag-it HF-I Pro.....	226
7.11.3	ICODE SLI/ICODE SLIX.....	227
7.11.4	ICODE SLI-S/ICODE SLIX-S.....	228
7.11.5	ICODE SLI-L/SLIX-L.....	229
7.11.6	ICODE SLIX2	230
7.11.7	my-d SRF55V10P	231
7.11.8	my-d SRF55V02P	233
7.11.9	my-d Light SRF55V01P	235
7.11.10	MB89R118C	236
7.12	ISO/IEC 14443 TYPEA 通信コマンド	237
7.12.1	ActivateIdle.....	237
7.12.2	REQA.....	239
7.12.3	WUPA.....	240
7.12.4	Anticol1	241
7.12.5	Select1	242
7.12.6	Anticol2	243
7.12.7	Select2	244
7.12.8	Anticol3	245
7.12.9	Select3	246
7.12.10	HLTA	247
7.12.11	ReadNFCT2	248
7.12.12	WriteNFCT2.....	249
7.12.13	CompatibilityWrite.....	251
7.12.14	TypeAThroughCmd.....	253
7.13	FELICA 通信コマンド	256
7.13.1	REQC.....	256
7.13.2	FeliCaThroughCmd.....	257
7.14	NACK レスポンスとエラーコード	259
第 8 章	EEPROM	261
8.1	EEPROM アドレス一覧	262
8.2	RDLOOP モード動作時の読み取り範囲	266
8.2.1	読み取り開始ブロック番号.....	266
8.2.2	読み取りバイト数	266
8.3	自動読み取りモード動作時の AFI 指定	267
8.4	リトライ回数	268
8.5	SIMPLEWRITE コマンド実行時の UID 指定	269
8.6	自動読み取りモード動作時のトリガー信号	271
8.6.1	汎用ポートの機能	271
8.6.2	汎用ポートの入出力.....	272
8.6.3	汎用ポートの初期値.....	272
8.6.4	自動読み取りモード動作時のトリガー信号	272
8.7	ノーリードコマンド	273

8.8	自動読み取りモード動作時の読み取りエラー信号	274
8.8.1	汎用ポートの機能	275
8.8.2	汎用ポートの機能詳細	276
8.8.3	汎用ポートの入出力	276
8.8.4	汎用ポートの初期値	276
8.9	RF タグのメモリブロックサイズ	277
8.10	MY-D 自動識別時のアクセス方式	278
8.11	READBYTES/RDLOOP 系の内部処理	279
第 9 章 アンテナ切替		281
9.1	アンテナ切替対応表	282
9.2	1CH 型 [1~8CH まで]	283
9.2.1	汎用ポートの機能	284
9.2.2	汎用ポートの入出力	285
9.2.3	汎用ポートの初期値	286
9.2.4	アンテナ切替に関する各種設定	287
9.3	2CH 型 [1~2CH まで(内蔵 2CH 有効)]	288
9.3.1	アンテナ切替に関する各種設定	289
9.4	2CH 型 [1~8CH まで(内蔵 2CH 無効)]	290
9.4.1	汎用ポートの入出力	291
9.4.2	汎用ポートの初期値	292
9.4.3	アンテナ切替に関する各種設定	293
9.5	2CH 型 [9CH 以上~16CH まで(内蔵 2CH 有効)]	294
9.5.1	汎用ポートの入出力	295
9.5.2	汎用ポートの初期値	296
9.5.3	カスケードポートの接続アンテナ数	297
9.5.4	アンテナ切替に関する各種設定	298
9.6	2CH 型 [9CH 以上 (内蔵 2CH 無効)]	299
9.6.1	汎用ポートの機能	300
9.6.2	汎用ポートの入出力	301
9.6.3	汎用ポートの初期値	302
9.6.4	カスケードポートの接続アンテナ数	303
9.6.5	アンテナ切替に関する各種設定	304
変更履歴		305

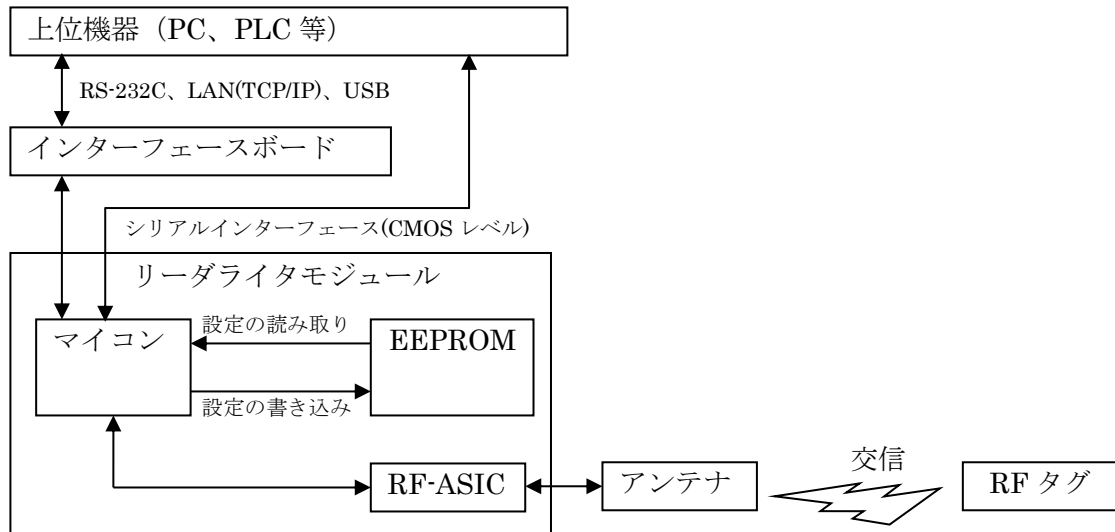
第1章 通信インターフェース

本章では、リーダライタを制御するための通信インターフェースについて説明します。

1.1 リーダライタモジュールの通信インターフェース

リーダライタモジュールはシリアルインターフェース（CMOS レベル）を備えており、装置に組み込む場合は CPU 基板や装置のメインボードと直結することが出来ます。

また、PC や PLC と接続する場合は、専用のインターフェースボードを経由して接続します。



シリアルインターフェースの仕様は以下の通りです。

インターフェース仕様	
通信方式	2 線式半二重シリアル（CMOS レベル）
同期方式	調歩同期式
通信速度	9600／19200 [初期値] ／38400bps ／ 115200bps
データ長	8 ビット
スタートビット	1 ビット
ストップビット	1 ビット
パリティビット	なし
フロー制御	なし
通信中の バイト間隔	バイト間の通信時間が 1 秒以内であること ※バイト間隔が 1 秒より長い場合、別パケットとして扱います

インターフェースボードを使用する場合、RS232C、USB、Bluetooth、LAN (TCP/IP)、Wi-Fi のいずれかのインターフェースで上位機器との通信を行います。

TR3 シリーズの通信フォーマットはすべて共通であり、インターフェースに依存することなく、同じ通信フォーマットで上位機器からリーダーライタを制御することができます。

インターフェースボードを使用することで、リーダーライタモジュールは以下のデバイスとして認識されます。

リーダーライタの インターフェース	上位機器の 認識デバイス	ドライバ	通信インターフェース
RS-232C	COM ポート	不要	- シリアル通信を行います。 - COM ポートをオープンし、バイナリデータのコマンドを送受信することでリーダーライタを制御します。
USB		専用ドライバ 使用	
Bluetooth	SPP	不要	- Bluetooth ネットワーク上で仮想シリアルポートを作りシリアル通信を行います。 - 仮想 COM ポートを使用し、バイナリデータのコマンドを送受信することでリーダーライタを制御します。
LAN (TCP/IP)	ネットワーク アダプタ	不要	- ソケットのメッセージデータとして扱います。 - TCP/IP のコネクション接続後、バイナリデータのコマンドを送受信することでリーダーライタを制御します。
Wi-Fi			

- ※ ターミナルソフト (Windows 付属のハイパーターミナルなど) を使用してリーダーライタと通信することはできません。
- ※ RS232C、USB を使用する場合、シリアル通信の仕様はリーダーライタモジュールの通信インターフェースと同じ仕様となります。

第2章 リーダライタの動作モード

本章では、リーダーライタの動作モードについて説明します。

2.1 リーダライタの動作モード概要

RF タグは、必ずリーダーライタからのコマンドを受信した後でリーダーライタにレスポンスを返す仕様です。

リーダーライタからのコマンドを受信しない限り、RF タグがデータを返すことはありません。
このシーケンスを「RTF : Reader Talk First」と呼びます。

しかし、TR3 シリーズでは上位機器から制御コマンドを送ることなく、RF タグのデータを読み取ることが可能な各種動作モードを準備しています。

コマンドモード以外の動作モードでは、上位機器とは非同期でリーダーライタから RF タグの読み取りコマンドを送信します。

RF タグのデータを受信すると、そのデータを上位機器に返します。

これらの動作モードは TR3 シリーズ独自のモードですが、リーダーライタから RF タグに送信するコマンドは ISO 規格準拠のコマンドです。

自動読み取りモードは、ISO14443TypeA、ISO14443TypeB、FeliCa には対応していません。

動作モードの概要は下表の通りです。

参照項目	動作モード	概要	備考
2.3	コマンドモード	上位機器からのコマンドに従い処理を実行するモードです。 ISO15693,ISO14443TypeA, ISO14443TypeB,FeliCa,ISO18000-3M3 関係のコマンドを実行する場合は、このモードを使用します。	
2.4	連続インベントリモード (※1)	RF タグの UID を読み取るモードです。	TR3 シリーズ独自の自動読み取りモード
2.5	RDLOOP モード (※1)	RF タグの UID と指定したエリアのユーザデータを読み取るモードです。	TR3 シリーズ独自の自動読み取りモード
2.6	オートスキャンモード (※1)	SimpleWrite コマンドで書き込まれた TR3 シリーズ独自フォーマットのデータを読み取るモードです。	TR3 シリーズ独自の自動読み取りモード SimpleWrite コマンドで書き込まれたデータのみ受信可能
2.7	トリガーモード (※1)	外部からのトリガー信号が有効な間、オートスキャンモードと同じ動作を行います。	
2.8	ポーリングモード (※1)	上位機器から指定された時間、オートスキャンモードと同じ動作を行います。	
2.9	EPC インベントリモード (※2)	ISO/IEC18000-3(Mode3)対応 RF タグの、UHF データを読み取るモードです。 UHF データには、2 バイトの StoredPC、可変長の UHF が含まれます。	ISO/IEC18000-3 (Mode3) 対応機種のみがサポートする独自の自動読み取りモード 動作パラメータは事前にリーダーライタに設定する必要があります
2.10	EPC インベントリリードモード (※2)	ISO/IEC18000-3(Mode3)対応 RF タグの、UHF データと指定メモリバンクのデータを読み取るモードです。 UHF データには、2 バイトの StoredPC、可変長の UHF が含まれます。 指定メモリバンクに加えて TID データも読み取ることが可能です。	ISO/IEC18000-3 (Mode3) 対応機種のみがサポートする独自の自動読み取りモード 動作パラメータは事前にリーダーライタに設定する必要があります

※1 : ISO/IEC15693 対応 RF タグのみ読み取り可能な動作モードです。

※2 : ISO/IEC18000-3(Mode3)対応 RF タグのみ読み取り可能な動作モードです。

参照項目	動作モード	概要	備考
2.11	カードディテクションモード	リーダライタが、低消費電力モードで RF タグ（カード）の検出処理を定期的に繰り返す動作モードです。RF タグ検出後に指定のコマンド処理を実行して結果を上位に返します。 バッテリー駆動する場合などに有効な動作モードです。	TR3XM-C106 シリーズ独自の動作モード 動作パラメータは事前にリーダライタに設定する必要があります

< 語句の説明 >

●UID

RF タグのメモリ構造の中のひとつで、RF タグに実装されている IC の製造メーカーが製造時に付与するユニークな ID です。

ISO15693 UID=64bit

ISO14443TypeA UID=32bit、56bit、80bit の想定あり

●AFI

ISO15693 に準拠した RF タグのメモリ構造の中のひとつで、アプリケーションファミリ識別子として規定されています。

AFI は 1 バイトでコード化され、上位 4bit でアプリケーションファミリを規定し、下位 4bit でサブファミリを規定します。

用途に合わせた AFI 値を RF タグに書き込むことで、異なるアプリケーションで使用する RF タグの中から特定の AFI 値をもつタグだけ検知する、という動作が可能となります。

AFI については、「4.3.3 AFI のコード」および「4.3.4 RF タグの AFI 判別フロー」をご参照ください。

●トリガー信号

リーダライタモジュールの汎用ポート 2（信号名：IO2）をトリガー信号として使用します。

この端子は CMOS レベルの入力ポートとなりますので、外部センサー等の出力信号を直接接続することはできません。

また、連続インベントリモード、RDLOOP モードを使用する場合、リーダライタの EEPROM 設定を変更することで、トリガー信号に同期して読み取り動作の ON/OFF を制御することができます。

●EEPROM

リーダライタの各種設定を記憶する不揮発性メモリです。

リーダライタは電源投入後に EEPROM の設定を読み込み、その設定で起動します。

ユーティリティソフト、又はコマンドにより設定変更が可能です。

なお、書き込み回数に制限（10 万回）がありますので、注意が必要です。

●S6700 系リーダーライタ

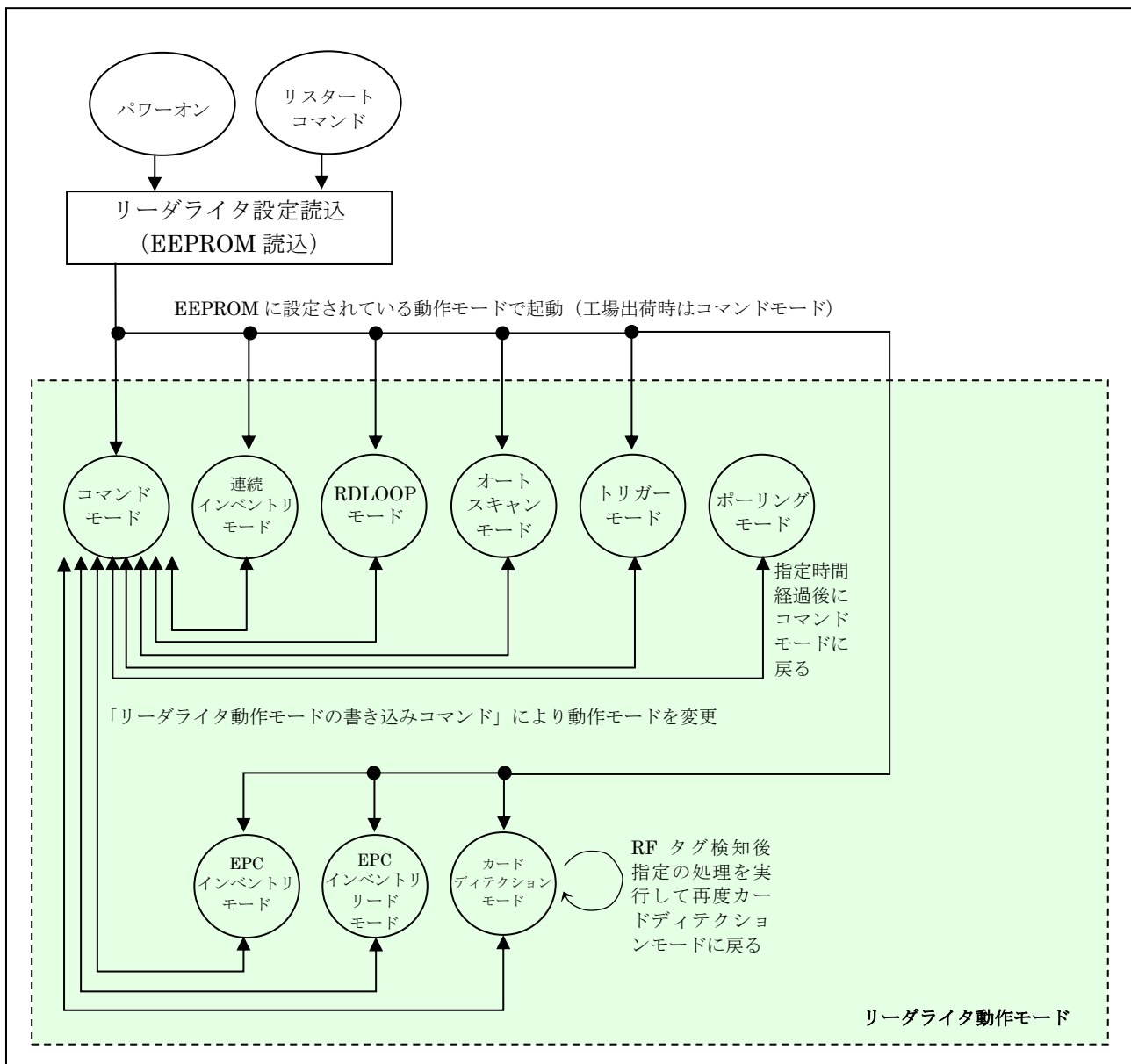
以下の型式のリーダーライタを「S6700 系リーダーライタ」と定義しています。

S6700 系リーダーライタと TR3XM-C106 シリーズでは一部動作が異なるコマンドがありますので、「S6700 互換モード」を準備しています。

詳細は「3.5 S6700 互換モード設定」をご参照ください。

レンジ (出力)	S6700 系リーダーライタ			
	RS-232C	TCP/IP	USB	CF
ショートレンジ (100mW)	TR3-C201			—
	TR3-D002B	TR3-N001E(B)	TR3-U002B	—
	TR3-D002B-C	TR3-N001E(B)-C	TR3-U002B-C	—
	TR3-D002C-8	TR3-N001C-8	TR3-U002C-8	—
ミドルレンジ (300mW)	TR3-L301			—
	TR3-MD001E-L/-S	TR3-MN001E-L/-S	TR3-MU001E-L/-S	—
	TR3-MD001C-8	TR3-MN001C-8	TR3-MU001C-8	—
ロングレンジ (1W)	TR3-LD003C-L/-S	TR3-LN003D-L/-S	—	—
	TR3-LD003D-4 TR3-LD003D-8	TR3-LN003D-8	—	—
ロングレンジ (4W)	TR3-LD003GW4LM-L TR3-LD003GW4P	TR3-LN003GW4LM-L	—	—
ゲートアンテナ (1.2W/4W)	TR3-G001B TR3-G003 TR3-G003A		—	—
CF (45mW)	—	—	—	TR3-CF002

2.2 リーダライタの動作モード遷移

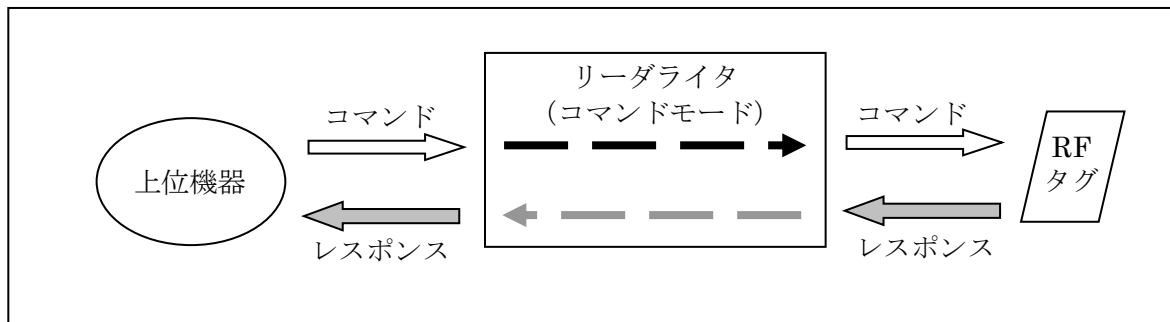


リーダライタは、電源起動後、およびリスタートコマンド受信後にリーダライタ内部に設定されている動作モード（EEPROM 設定）を読み取り、そのモードで起動します。
工場出荷時に設定されている動作モードはコマンドモードです。

起動後は、「リーダライタ動作モードの書き込み」コマンドを実行することで、動作モードを変更することができます。ただし、コマンドモード以外の動作モードに変更する場合、一度コマンドモードに設定してから他のモードに設定してください。

ポーリングモードに設定した場合は、指定時間経過後に自動でコマンドモードに戻ります。

2.3 コマンドモード



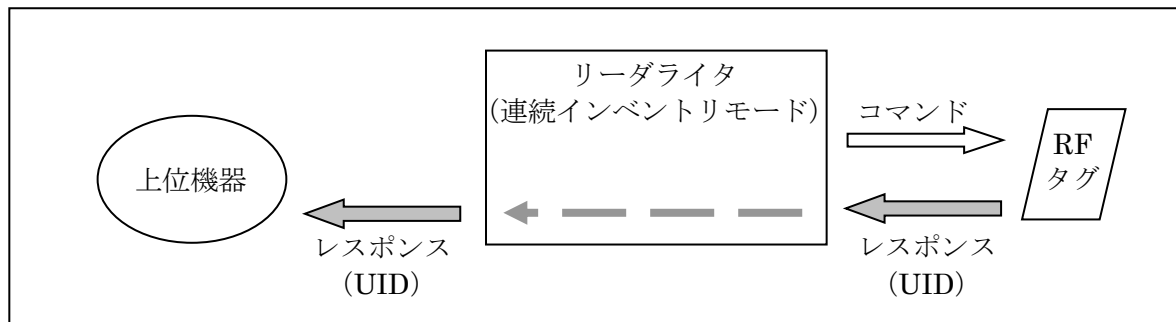
上位機器から送信されるコマンドに従い処理を実行するモードです。

ISO14443TypeA、ISO14443TypeB、および FeliCa に準拠した RF タグは、本モードでのみ使用可能です。

以下の動作を行う場合に使用します。

- ・リーダライタ制御コマンドを実行する場合
- ・リーダライタ設定コマンドを実行する場合
- ・RF タグ通信コマンドを実行する場合

2.4 連続インベントリモード

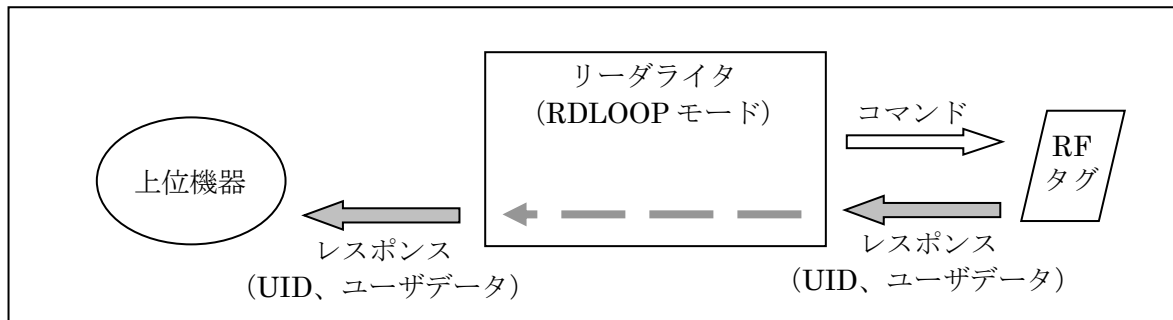


RF タグの UID (ISO15693 準拠の RF タグのみ) を、上位機器とは非同期で繰り返し読み取るモードです。

本モードは、ISO15693 準拠の RF タグのみサポートしています。

リーダライタから RF タグに対して繰り返しコマンドを送信し、UID を受信した場合のみリーダライタから上位機器にレスポンスを返します。

2.5 RDLOOP モード



RF タグの UID (ISO15693 準拠の RF タグのみ) と指定したユーザエリアのデータを、上位機器とは非同期で繰り返し読み取るモードです。

本モードは、ISO15693 準拠の RF タグのみサポートしています。

リーダライタから RF タグに対して繰り返しコマンドを送信し、指定した RF タグのデータをすべて受信した場合のみ、リーダライタから上位機器にレスポンスを返します。

本モードを使用する場合、リーダライタに下記項目を設定することで、読み取り範囲を指定します。設定方法は下記 2 通りになります。

- 1) 専用のユーティリティソフト (TR3RWManager.exe) を使用して設定します。
- 2) 「7.9.23 EEPROM 設定値の書き込み」コマンドおよび「8.2 RDLOOP モード動作時の読み取り範囲」をご参照ください。

項目	設定可能範囲
読み取り開始ブロック	0～255
データ長	1～247 バイト

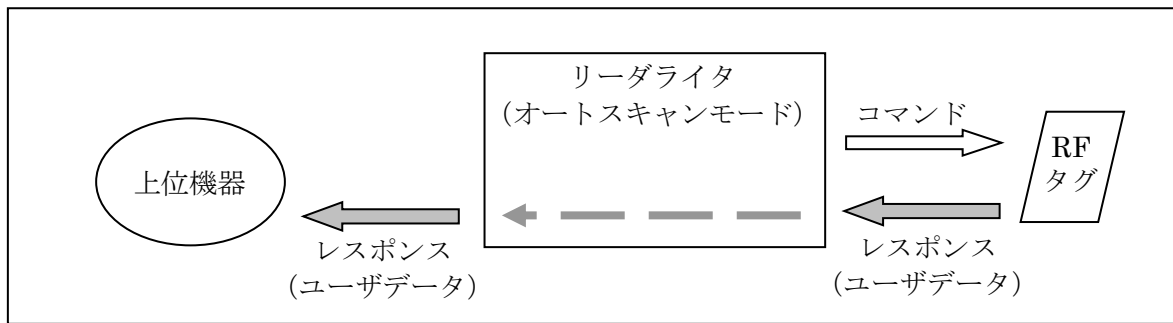
また、本モードを使用する場合、EEPROMの設定 (アドレス49 bit0 : ReadBytes/RDLOOP系の内部処理) により、タグに対して実行されるコマンドが異なるため処理時間も変動します。読み取るデータ長が多くなるほど、[bit0=1 : Read Multi Block] とした方が処理時間は短くなります。

設定方法については、「8.11 ReadBytes/RDLOOP系の内部処理」をご参照ください。

<注意事項>

- ・上記設定項目はリーダライタの EEPROM (メモリ) に保存され、リーダライタの電源を OFF しても保持されますので、同じ設定を何度も行う必要はありません。
- ・RDLOOP モードと同様の動作を、以下の制御でも実現できます。
コマンドモード ⇒ RDLOOPCmd 実行
RDLOOPCmd の詳細は、「7.10.21 RDLOOPCmd」をご参照ください。

2.6 オートスキャンモード



SimpleWrite で書き込まれた TR3 シリーズ独自フォーマットのデータを、上位機器とは非同期で繰り返し読み取るモードです。

本モードは、ISO15693 準拠の RF タグのみサポートしています。

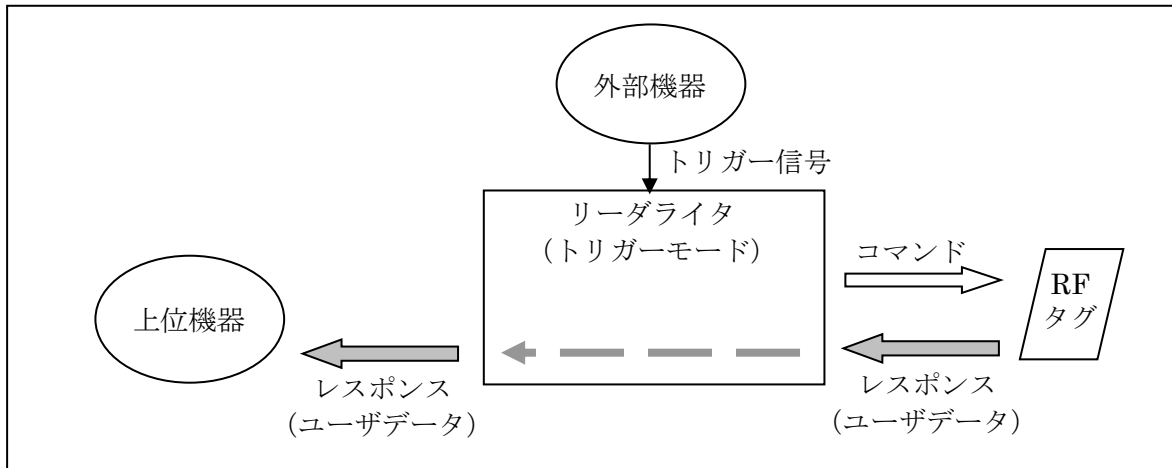
リーダライタから RF タグに対して繰り返しコマンドを送信し、独自フォーマットのデータをすべて受信した場合のみ、リーダライタから上位機器にレスポンスを返します。

SimpleWrite の仕様、およびオートスキャンモードで読み取るデータの詳細については、「7.3 オートスキャンモード」「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

<注意事項>

- SimpleWrite で書き込まれていない RF タグのデータを自動で読み取る場合、他の動作モード (RDLOOP モード等) をご使用ください。
- フォーマットの異なる RF タグのデータは読み取ることができませんのでご注意ください。

2.7 トリガーモード



リーダライタに入力されたトリガー信号が有効な間だけ、SimpleWrite で書き込まれた TR3 シリーズ独自フォーマットのデータを、上位機器とは非同期で繰り返し読み取るモードです。本モードは、ISO15693 準拠の RF タグのみをサポートしています。

トリガー信号が有効な間、リーダライタから RF タグに対して繰り返しコマンドを送信し、独自フォーマットのデータをすべて受信した場合のみ、リーダライタから上位機器にレスポンスを返します。

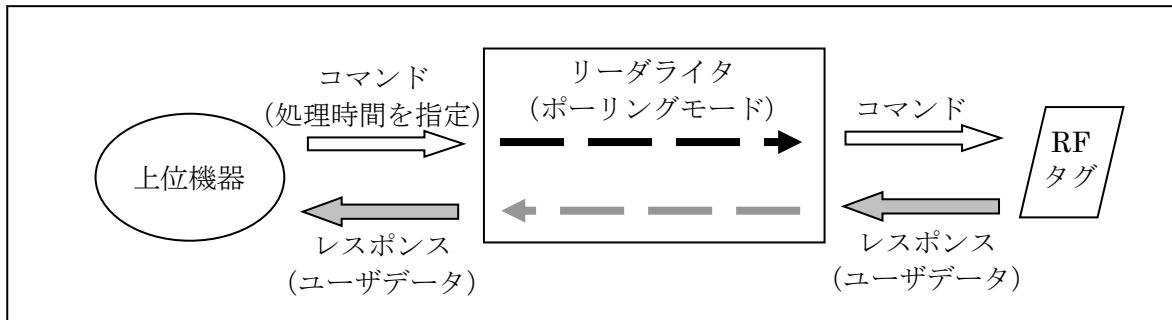
トリガー信号が有効な間は、オートスキャンモードと同じ動作を行います。

SimpleWrite の仕様、読み取るデータの詳細、注意事項については「2.6 オートスキャンモード」「7.3 オートスキャンモード」「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

<注意事項>

- リーダライタモジュールの汎用ポート 2 (信号名：IO2) をトリガー信号として使用します。
この端子は CMOS レベルの入力ポートとなりますので、外部センサー等の出力信号を直接接続することはできません。
- TR3XM-C106 シリーズは製品型式に[-2CH]の記載がある機種を除き、汎用ポート 2 がトリガー信号として機能しませんのでご注意ください。
本モードに設定した場合、トリガー信号が入力されず読み取りができません。

2.8 ポーリングモード



上位機器から指定した時間だけ、SimpleWrite で書き込まれた TR3 シリーズ独自フォーマットのデータを、上位機器とは非同期で繰り返し読み取るモードです。
本モードは、ISO15693 準拠の RF タグのみサポートしています。

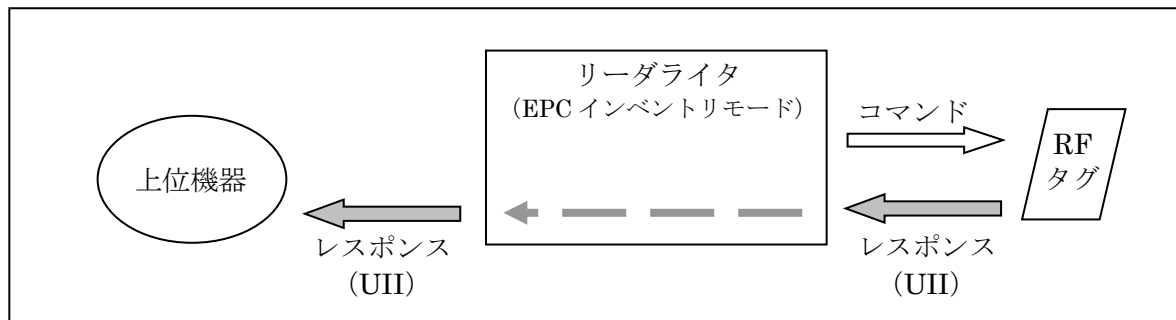
リーダライタをポーリングモードにセットする際、コマンドのパラメータで読み取り時間を指定します。

指定時間が経過するまでの間、リーダライタから RF タグに対して繰り返しコマンドを送信し、独自フォーマットのデータをすべて受信した場合のみ、リーダライタから上位機器にレスポンスを返します。

指定時間が経過するまでの間、オートスキャンモードと同じ動作を行います。
指定時間が経過した後、リーダライタは自動でコマンドモードに遷移します。

SimpleWrite の仕様、読み取るデータの詳細、注意事項については「2.6 オートスキャンモード」「7.3 オートスキャンモード」「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

2.9 EPC インベントリモード

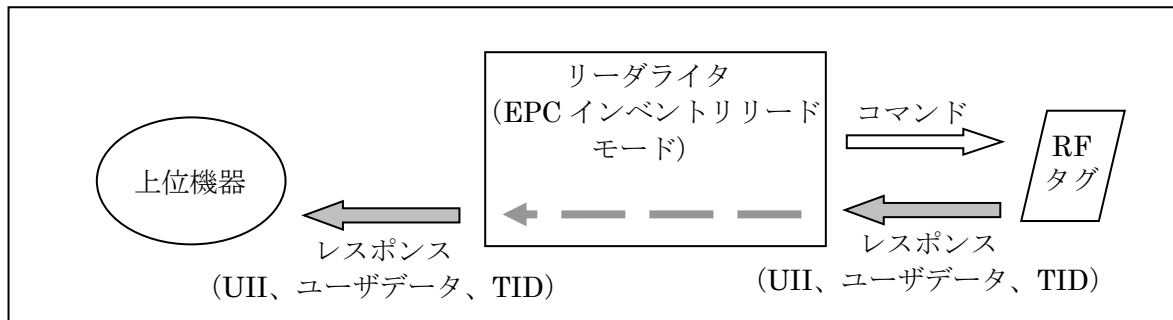


ISO/IEC18000-3(Mode3)対応 RF タグの、UII データを読み取るモードです。
UII データには、2 バイトの StoredPC、可変長の UII が含まれます。

リーダライタから RF タグに対して繰り返しコマンドを送信し、UII を受信した場合のみリーダライタから上位機器にレスポンスを返します。

TR3X シリーズの一部の機種、および TR3XM-C106 シリーズで製品型式に[-ILT]の記載がある機種、および TR3XM-C106F がサポートする独自の自動読み取りモードです。
動作パラメータは事前にリーダライタに設定する必要があります。
詳細は別紙「ISO18000-3M3 通信プロトコル説明書」をご参照ください。

2.10 EPC インベントリリードモード



ISO/IEC18000-3(Mode3)対応 RF タグの、UII データと指定メモリバンクのデータを読み取るモードです。

UII データには、2 バイトの StoredPC、可変長の UII が含まれます。

指定メモリバンクに加えて TID データも読み取ることが可能です。

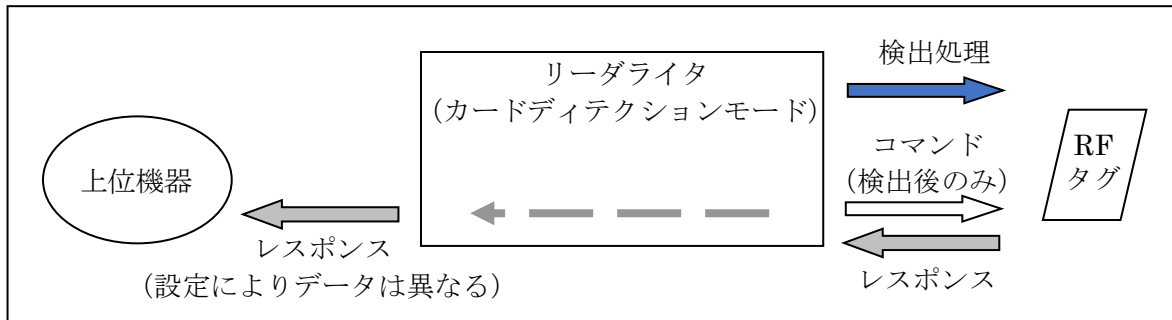
リーダライタから RF タグに対して繰り返しコマンドを送信し、UII を受信した場合のみリーダライタから上位機器にレスポンスを返します。

TR3X シリーズの一部の機種、および TR3XM-C106 シリーズで製品型式に[-ILT]の記載がある機種、および TR3XM-C106F がサポートする独自の自動読み取りモードです。

動作パラメータは事前にリーダライタに設定する必要があります。

詳細は別紙「ISO18000-3M3 通信プロトコル説明書」をご参照ください。

2.11 カードディテクションモード



リーダーライタが、低消費電力モードで RF タグ（カード）の検出処理を定期的に繰り返す動作モードです。RF タグ検出後に指定のコマンド処理を実行して結果を上位に返します。バッテリー駆動する場合などに有効な動作モードです。

なお、本モードはアンチコリジョン処理、および読み取り動作の 1 回読み取りには非対応です。アンチコリジョンや読み取り動作の設定の詳細は、「2.12 設定パラメータ」をご参照ください。

本モードを使用する場合、あらかじめリーダーライタに「カードディテクションモード設定」をおこなう必要があります。

「カードディテクションモード設定」は、専用のユーティリティツール（TR3RWManager.exe）、又は「カードディテクションモード設定の書き込み」コマンドを使用します。コマンドの詳細は、「7.9.26 カードディテクションモード設定の書き込み」をご参照ください。

また、「リーダーライタ動作モードの書き込み」コマンドを実行することで、リーダーライタをカードディテクションモードに遷移させることができます。

カードディテクションモードには、以下 6 種の動作モードがあります。

- ・ 00h : MifareClassic 指定ブロックの読み取り ※製品型式に[-MFC]の記載がある機種、および TR3XM-C106F のみ
- ・ 01h : TypeA UID の読み取り ※ISO14443TypeA 対応機種のみ
- ・ 02h : TypeA(非セキュア) 指定ブロックの読み取り ※ISO14443TypeA 対応機種のみ
- ・ 03h : ISO15693 UID の読み取り [初期値]
- ・ 04h : ISO15693 指定ブロックの読み取り
- ・ FFh : カード検出後コマンドモードに戻る

<内部処理>

カードディテクションモードで動作するリーダーライタは、以下の処理を繰り返しています。

- ① RF タグ検出処理（繰り返し）
- ② 検出後、カードディテクション動作モードにしたがったコマンド処理を実行
- ③ コマンド処理に成功した場合、上位にレスポンスを返し①に戻る
レスポンスフォーマットは「7.6 カードディテクションモード」をご参照ください。

<設定手順>

カードディテクションモードを使用する場合、以下の手順で設定をおこないます。

- ① 「カードディテクションモード設定の書き込み」コマンドを実行
カードディテクションモードの動作設定をおこないます。
本コマンドを実行すると、設定はリーダーライタの **EEPROM** に書き込まれますので、毎回設定する必要はありません。(電源再起動後も設定を保持します)
- ② 「カードディテクションモードのチューニング」コマンドを実行
内部パラメータのチューニングをおこないます。
アンテナ周囲の設置環境に合わせてチューニングが必要です。
初回設置時、および周囲環境が変わった時に実行します。
コマンドの詳細は、「7.9.13 カードディテクションモードのチューニング」をご参照ください。
- ③ 「リーダーライタ動作モードの書き込み」コマンドを実行
リーダーライタの動作モードを「カードディテクションモード」に遷移させます。

<注意事項>

- ・ **TR3XM-C106** シリーズでは、動作モード **00h**(MifareClassic 指定ブロックの読み取り)は製品型式に[-MFC]の記載がある機種、および **TR3XM-C106F** のみサポートしております。
それ以外の機種では **00h** に設定した場合、**03h**(ISO15693 UID の読み取り)に置き換わります。
タグ規格の対応は「表 1： 製品型式とタグ規格対応」をご参照ください。
- ・ 動作モード **01h**(TypeA UID の読み取り)および **02h**(TypeA(非セキュア) 指定ブロックの読み取り)は **ISO14443TypeA** 対応機種のみがサポートしております。
ISO14443TypeA 非対応機種で **01h** および **02h** に設定した場合、**03h**(ISO15693 UID の読み取り)に置き換わります。
タグ規格の対応は「表 1： 製品型式とタグ規格対応」をご参照ください。
- ・ 動作モード **FFh**(カード検出後コマンドモードに戻る)を選択した場合、リーダーライタはカードの読み取り処理は行わず、上位に通知だけしてコマンドモードに戻ります。
上位機器は、通知を受けた後必要な処理(コマンド)を実行し、再度カードディテクションモードに戻す処理が必要となります。
- ・ カードディテクションモードのリーダーライタは、上位から何かしらのコマンドを受信するとコマンドモードに遷移します。
ただし、受信したコマンドの処理は実行されず、上位へのレスポンスも返しません。
カードディテクションモードからコマンドモードに戻す処理としては、通常の「レスポンスを返す仕様」のコマンドを実行すると無応答となりタイムアウトしますので、例えばレスポンスを返さない仕様のコマンドをダミーで送信するなどの配慮が必要となります。
(例：「ブザーの制御」コマンドを、「応答を要求しない」設定で実行するなど。)
- ・ カードディテクションは、カードディテクション開始直前に使用されたアンテナ 1 つのみで実施され、リーダーライタのアンテナ自動切り換えが有効の場合でも、複数アンテナ同時には行えません。

2.12 設定パラメータ

動作モードの設定と合わせて、以下のパラメータも設定する必要があります。

運用条件に合わせて正しく設定してください。

なお、本パラメータは ISO14443TypeA、ISO14443TypeB、FeliCa 用コマンドには影響しません。

＜リーダーライタ動作モード：設定パラメータ＞

設定項目	設定値	動作内容	備考
アンチコリジョン	無効 ※1	アンテナの読み取り範囲内に存在する RF タグが 1 枚の場合に設定する。 アンテナの読み取り範囲内に RF タグが複数枚存在する場合、本設定では RF タグのデータを読み取ることはできない。	コマンドモード、カードディテクションモード以外の動作モードで有効 コマンドモードから RDLOOPCmd を使用する場合も有効
	有効	アンテナの読み取り範囲内に存在する RF タグが複数枚想定される場合に設定する。※RF タグが 1 枚でも読取可	
読み取り動作	1 回読み取り ※2	アンテナの読み取り範囲内にある RF タグのデータを 1 回だけ読み取る場合に設定する。 読み取った RF タグは Quiet 状態に移移するため、UID 指定のコマンド以外には応答を返さない。 RF タグをアンテナの読み取り範囲から外すと、再度読み取り可能となる。	カードディテクションモード以外の動作モードで有効
	連続読み取り ※1	アンテナの読み取り範囲内にある RF タグのデータを繰り返し読み取る場合に設定する。	
ブザー	鳴らさない	リーダーライタ起動時、RF タグのデータ読み取り時に、ブザーを鳴動させない。	データ読取時の鳴動はコマンドモード以外の動作モードで有効
	鳴らす ※1	リーダーライタ起動時、RF タグのデータ読み取り時に、ブザーを鳴動させる。	
送信データ	ユーザデータのみ ※1	特定の動作モードで、読み取ったユーザデータのみ上位に返す場合に設定する。	オートスキャンモード、トリガーモード、ポーリングモードで有効
	ユーザデータ + UID	特定の動作モードで、読み取ったユーザデータと UID を上位に返す場合に設定する。	
通信速度	9600bps 19200bps ※1 38400bps 115200bps	リーダーライタモジュールと上位機器（又はインターフェースボード）間の通信速度を設定する。 本設定はリーダーライタモジュール側のみの設定となるため、上位側の通信スピードも合わせて変更する必要がある。 本設定を変更しても、リーダーライタを再起動するまで変更後の設定は有効とならないため、本設定を変更する場合は EEPROM への書き込みを行う必要がある。	

※1：初期設定となります。

※2：アンテナの自動切替を行う場合、タグへの給電が ON/OFF されるため 1 回読み取りの設定は正常に動作しません。連続読み取りの設定と同じ動作になります。

パラメータの設定は、専用のユーティリティソフト（TR3RWManager.exe）、又はコマンド「リーダーライタ動作モードの書き込み」を使用します。

コマンド詳細は、「7.9.14 リーダライタ動作モードの書き込み」をご参照ください。

第3章 リーダライタの機能

本章では、リーダーライタの各種機能について説明します。

3.1 リーダライタの状態遷移

リーダライタの状態遷移は、リーダライタの設定（RF 送信信号設定）ごとに3種類あります。
RF 送信信号設定については「3.4 RF 送信信号設定」をご参照ください。

<RF 送信信号設定>

- ①起動時 ON
- ②起動時 OFF（コマンド受付以降 ON）
- ③コマンド実行時以外常時 OFF

※「③コマンド実行時以外常時 OFF」に設定する場合、コマンド処理を実行する前に「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行した時の挙動は以下の通りです。

- ・「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行した場合、約2秒間 RF 送信信号を出力します。
上記コマンド実行により RF 送信信号を出力している間に、「RF タグ制御用コマンド（※1）」を実行した場合、コマンド処理終了後、約2秒間は RF 送信信号の出力が継続します。
- ・RF 送信信号を出力後、約2秒経過する前に「RF タグ制御用コマンド（※1）」を実行しなければ、自動的に RF 送信信号は停止します。

※「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行せずに「RF タグ制御用コマンド（※1）」を実行した場合の動作は以下の通りです。

RF タグ制御用コマンド（※1）	「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行せずに RF タグ制御用コマンドを実行した場合の動作
「RF タグ通信コマンド」 「EPC 通信コマンド」	コマンド実行中のみ RF 送信信号が出力され、 コマンド実行後はすぐに RF 送信信号が停止します。
「ISO/IEC 14443 TypeA 通信コマンド」 「ISO/IEC 14443 TypeB 通信コマンド」 「FeliCa 通信コマンド」	コマンド実行時に RF 送信信号が出力され、 コマンド実行後も RF 送信信号は継続して出力されます。

※1：RF タグ制御用コマンドについては、「3.4 RF 送信信号設定」の「●コマンド実行時以外常時 OFF」をご参照ください。

S6700 系リーダライタのパワーダウン状態には「WAIT モード」と「STOP モード」がありますが、
TR3XM-C106 シリーズでは、パワーダウンモードは下記1モードのみです。
パワーダウンモードでは、「RF 送信信号：OFF + 一部 IC の低消費状態」に移行します。

パワーダウン状態の詳細、復帰条件は以下の通りです。

復帰後は、必ず「レディ状態：RF 送信信号 ON」となります。

状態	詳細	復帰条件
パワーダウンモード	RF 送信信号：OFF CPU の状態：通常動作	・ RF 送信信号の制御（TX_ON） ・ RF タグ通信コマンド ・ 自動読取モードに設定

※ パワーダウン状態からの復帰の際、復帰条件として受信したコマンドの処理は実行されず、上位へのレスポンスも返しません。

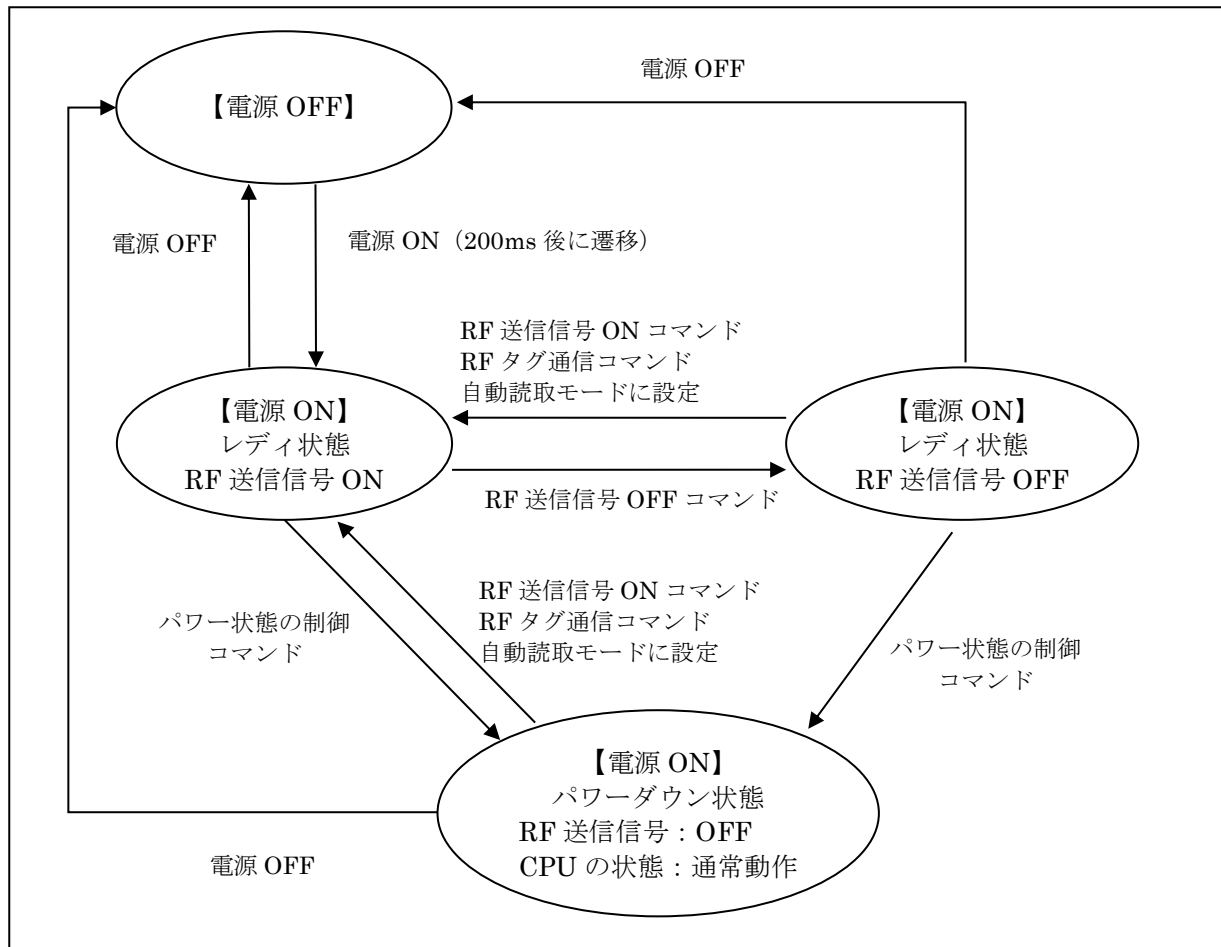
パワーダウン状態の復帰処理としては、通常の「レスポンスを返す仕様」のコマンドを実行すると無応答となりタイムアウトしますので、例えばレスポンスを返さない仕様のコマンドをダミーで送信するなどの配慮が必要となります。

（例：「ブザーの制御」コマンドを、「応答を要求しない」設定で実行するなど。）

※ リーダライタは、電源投入後電源 OFF の状態から Ready 状態になるまで 200ms かかります。電源投入後は、200ms 以上経過してからコマンドを送信してください。

3.1.1 RF 送信信号設定「起動時 ON」

RF 送信信号設定が「起動時 ON」に設定されたリーダライタの状態遷移は下図のようになります。



リーダライタは、電源起動後は「レディ状態 : RF 送信信号 ON」の状態で見えます。

RF 送信信号 ON/OFF 間の遷移は、RF 送信信号の制御コマンドを使用して行います。

(RF 送信信号 ON 状態へは、RF 送信信号 ON コマンド、または RF タグ通信コマンドを実行することでも遷移します)

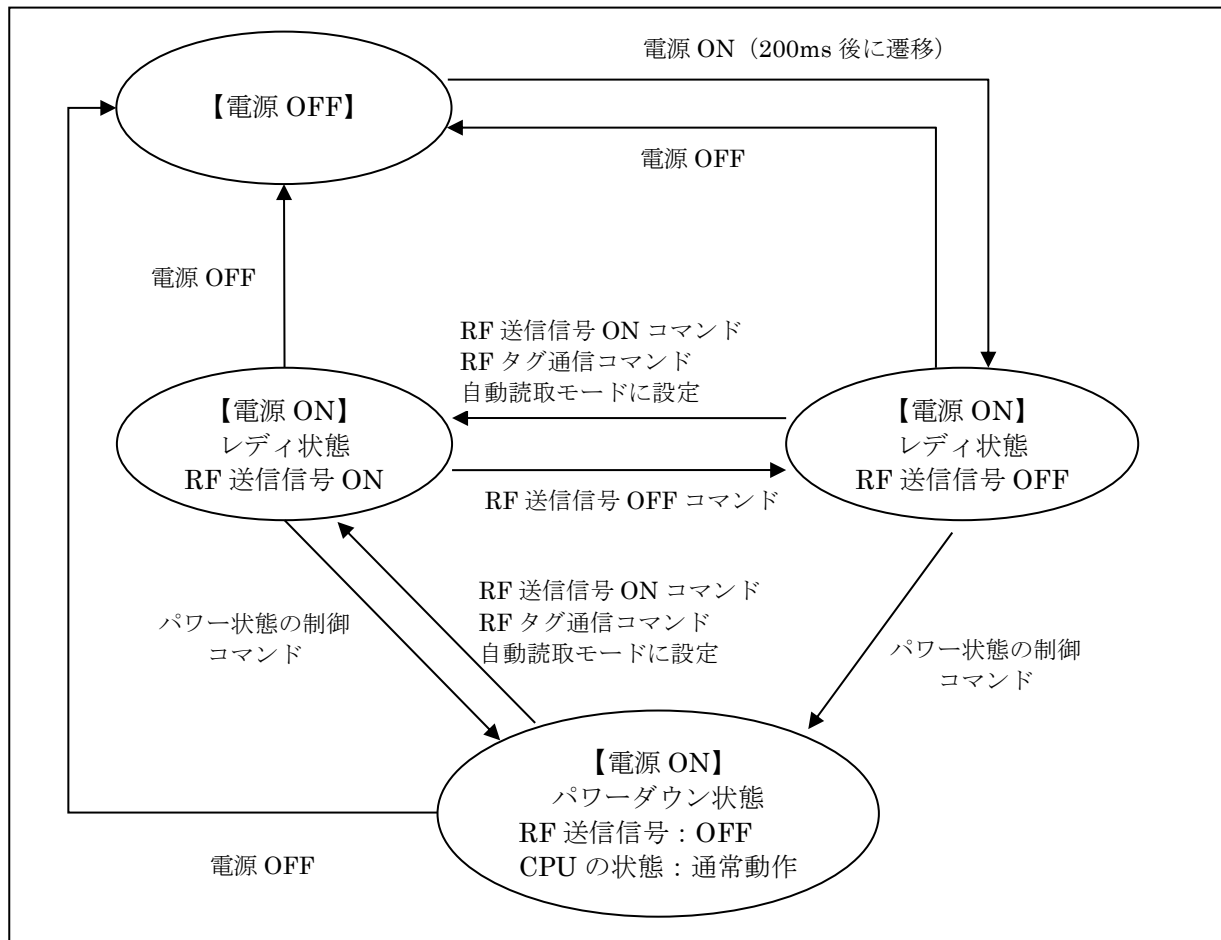
RF 送信信号の制御コマンドについては「7.8.8 RF 送信信号の制御」をご参照ください。

パワー状態の制御コマンドを使用することで、リーダライタはパワーダウン状態に遷移します。

パワー状態の制御コマンドについては「7.8.9 パワー状態の制御」をご参照ください。

3.1.2 RF 送信信号設定「起動時 OFF（コマンド受付以降 ON）」

RF 送信信号設定が「起動時 OFF（コマンド受付以降 ON）」に設定されたリーダライタの状態遷移は下図のようになります。



リーダライタは、電源起動後は「レディ状態：RF 送信信号 OFF」の状態で立ち上がります。

RF 送信信号 ON/OFF 間の遷移は、RF 送信信号の制御コマンドを使用して行います。

（RF 送信信号 ON 状態へは、RF 送信信号 ON コマンド、または RF タグ通信コマンドを実行することでも遷移します）

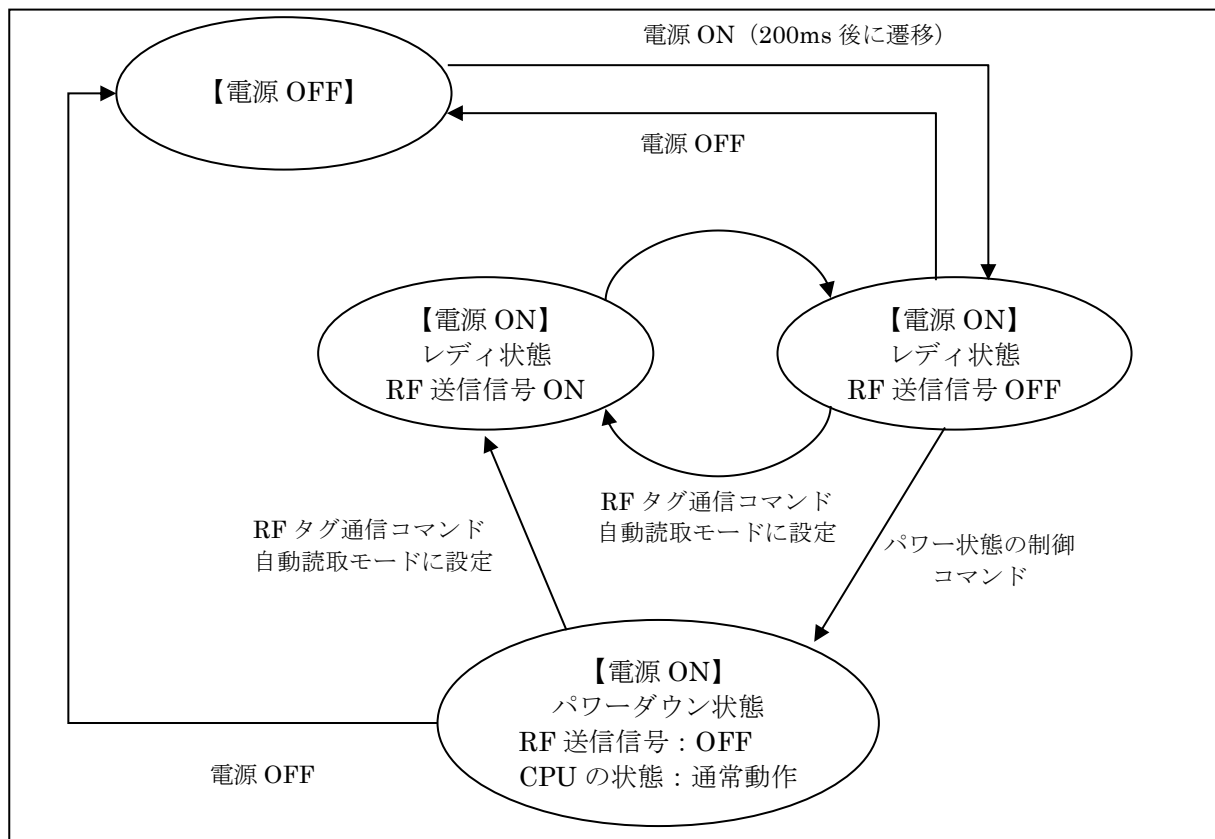
RF 送信信号の制御コマンドについては「7.8.8 RF 送信信号の制御」をご参照ください。

パワー状態の制御コマンドを使用することで、リーダライタはパワーダウン状態に遷移します。

パワー状態の制御コマンドについては「7.8.9 パワー状態の制御」をご参照ください。

3.1.3 RF 送信信号設定「コマンド実行時以外常時 OFF」

RF 送信信号設定が「コマンド実行時以外常時 OFF」に設定されたリーダライタの状態遷移は下図のようになります。



リーダライタは、電源起動後は「レディ状態：RF 送信信号 OFF」の状態で立ち上がります。パワー状態の制御コマンドを使用することで、リーダライタはパワーダウン状態に遷移します。パワー状態の制御コマンドについては「7.8.9 パワー状態の制御」をご参照ください。

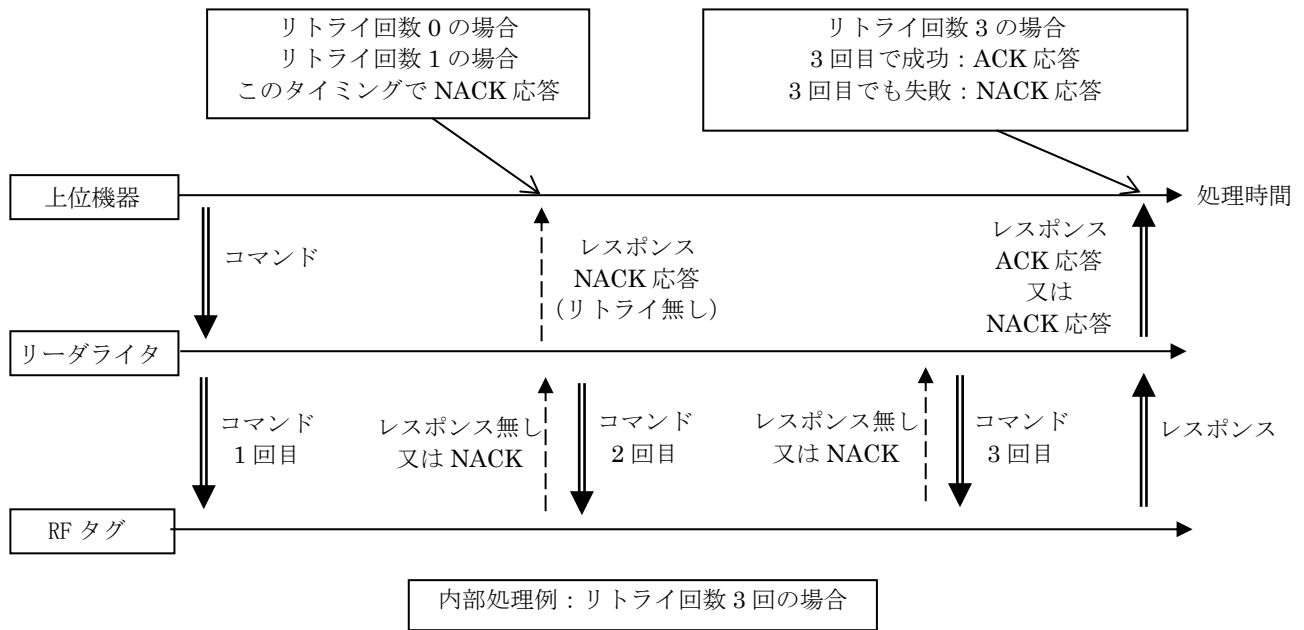
リーダライタの EEPROM 設定が「RF 送信信号設定：コマンド実行時以外常時 OFF」の場合、「RF 送信信号の制御 (TX_ON)」を実行した時の挙動は以下の通りです。

- ・「RF 送信信号の制御 (TX_ON)」を実行した場合、約 2 秒間 RF 送信信号を出力します。
また、上記コマンド実行により RF 送信信号を出力している間に、「RF タグ制御用コマンド (※1)」を実行した場合、そのコマンド処理が終了してから約 2 秒間は RF 送信信号の出力が継続します。
RF 送信信号を出力後、約 2 秒経過する前に「RF タグ制御用コマンド (※1)」を実行しなければ、自動的に RF 送信信号は停止します。
- ・「RF 送信信号の制御 (TX_ON)」を実行せずに「RF タグ制御用コマンド (※1)」を実行した場合の動作は以下の通りです。

RF タグ制御用コマンド (※1)	「RF 送信信号の制御 (TX_ON)」を実行せずに RF タグ制御用コマンドを実行した場合の動作
「RF タグ通信コマンド」 「EPC 通信コマンド」	コマンド実行中のみ RF 送信信号が出力され、コマンド実行後はすぐに RF 送信信号が停止します。
「ISO/IEC 14443 TypeA 通信コマンド」 「ISO/IEC 14443 TypeB 通信コマンド」 「FeliCa 通信コマンド」	コマンド実行時に RF 送信信号が出力され、コマンド実行後も RF 送信信号は継続して出力されます。

※1：RF タグ制御用コマンドについては、「3.4 RF 送信信号設定」の「●コマンド実行時以外常時 OFF」をご参照ください。

3.2 リトライ処理



RF タグのリードコマンド、ライトコマンドを実行する際、リーダライタ内部の EEPROM にリトライ回数を設定することで、処理に失敗しても上位機器からコマンドを再送することなく、リーダライタが自動的にリトライ処理を行います。

リトライ回数を設定すると、上位機器からの 1 回のコマンド処理で、処理に成功するまでリーダライタがコマンドを繰り返し実行します。

設定回数までコマンドを繰り返しても処理が成功しなかった場合に、初めて NACK 応答を返します。

リトライ回数を設定していても、1 回目のコマンドで処理が成功すれば、すぐに ACK 応答を返して処理を終了します。

設定するリトライ回数は、トータルの処理実行回数を表します。

「0 回」および「1 回」に設定した場合、トータルで 1 回の処理しか行いませんので、リトライ処理は実行されません。

リトライ処理を行う場合、「リトライ回数=2 回以上」としてください。

なお、出荷時設定は「1 回」となっています。

設定方法は下記 2 通りになります。

- 1) 専用のユーティリティソフト (TR3RWManager.exe) を使用して設定します。
- 2) 「7.9.23 EEPROM 設定値の書き込み」コマンドを使用して設定します。

移動している RF タグに対して処理を行う場合、周囲ノイズの多い環境でご使用の場合など、リトライ回数を設定いただくことで RF タグのリード/ライト処理の成功率を上げ、システムの信頼性を向上させることができます。

ただし、リトライ回数を大きくすると、リトライ処理が入ったときの処理時間が長くなりますのでご注意ください。

リトライ処理は、一部のコマンドのみ機能します。
詳細は下表をご参照ください。

<ISO15693 対応 RF タグ通信コマンド>

コマンド	リトライ処理	
	S6700 互換モード	通常モード
Inventory (1slot)	○	○
Inventory (16slot)	×	×
StayQuiet	×	×
ReadSingleBlock	○	○
WriteSingleBlock	○	○
LockBlock	○	○
ReadMultiBlock	○	○
WriteMultiBlock	○	○
SelectTag	×	×
ResetToReady	×	×
WriteAFI	○	○
LockAFI	×	○
WriteDSFID	○	○
LockDSFID	×	○
GetSystemInfo	○	○
GetMBlockSecSt	○	○
Inventory2	×	×
ReadBytes	○	○
WriteBytes	○	○
LockBytes	○	○
SimpleRead	○	○
SimpleWrite	○	○
RDLOOPCmd	○	○
Write2Blocks	×	×
Lock2Blocks	×	×
Kill	×	×
WriteSingleBlockPwd	×	×
Myd_Read	○	○
Myd_Write	○	○
ISO15693ThroughCmd	—	×

○：リトライ処理有効

×

—：コマンド未対応

※ S6700 互換モードについては「3.5 S6700 互換モード設定」をご参照ください。

<ISO14443TypeA 対応コマンド>

コマンド	リトライ処理	
	S6700 互換モード	通常モード
ActivateIdle	×	×
REQA	×	×
WUPA	×	×
Anticol1	×	×
Select1	×	×
Anticol2	×	×
Select2	×	×
Anticol3	×	×
Select3	×	×
HLTA	×	×
ReadNFCT2	×	×
WriteNFCT2	×	×
CompatibilityWrite	×	×
TypeAThroughCmd	×	×

○：リトライ処理有効

×：リトライ処理無効

<ISO14443TypeB 対応コマンド>

コマンド	リトライ処理	
	S6700 互換モード	通常モード
REQB	×	×
WUPB	×	×
ATTRIB	×	×
HLTB	×	×
TypeBThroughCmd	×	×

○：リトライ処理有効

×：リトライ処理無効

<FeliCa 対応コマンド>

コマンド	リトライ処理	
	S6700 互換モード	通常モード
REQC	×	×
FeliCaThroughCmd	×	×

○：リトライ処理有効

×：リトライ処理無効

<ISO/IEC18000-3(Mode3)対応 EPC コマンド>

コマンド	リトライ処理	
	S6700 互換モード	通常モード
EPC_Select	×	×
EPC_Inventory	×	×
EPC_InventoryRead	○	○
EPC_Read	○	○
EPC_Write	○	○
EPC_BlockWrite	○	○
EPC_Access	×	×
EPC_Lock	○	○
EPC_Kill	×	×
EPC_ChangeConfigWord	○	○

○：リトライ処理有効

×：リトライ処理無効

なお、ISO/IEC18000-3(Mode3)対応の EPC インベントリリードモードを使用する場合も、リトライ設定は有効となります。

3.3 アンチコリジョンモード

リーダーライタの設定（EEPROM 設定）を変更することにより、アンチコリジョンの処理速度を高速化することができます。

設定変更による通信性能の違いはありませんが、高速処理モード 3 のみ Inventory2 実行時のレスポンスの返り方が異なりますのでご注意ください。

※ISO14443TypeA、ISO14443TypeB、FeliCa は、本設定に関係なくアンチコリジョンに未対応です。

設定の変更方法については、「7.9.17 アンチコリジョンモードの書き込み」をご参照ください。

速度	パラメータ	説明
↑	通常処理モード	Inventory 実行の際、16slot の切替処理を、すべて等間隔で行います。
	高速処理モード 1	Inventory 実行の際、16slot の切替処理において、タグの応答がない slot をすぐに切り替えることで「通常モード」と比較して処理時間を短縮しています。
	高速処理モード 2	高速処理モード 1 の処理に加えて、コリジョン発生時の内部処理を変更することで処理時間を短縮しています。
	高速処理モード 3	高速処理モード 2 の処理に加えて、リーダーライタからのレスポンスを返すタイミングを変更し、内部のウェイト時間を削減することで処理時間を短縮しています。 ただし、Inventory2 コマンドについては、他のモードとレスポンスの返り方が異なりますのでご注意ください。 詳細は「7.10.17 Inventory2」をご参照ください。
↓		

<注意事項>

- ・タグ枚数や UID のコリジョン状況により、各モードの処理時間の差が変動します。
コリジョンが発生しない場合は、高速処理モード 1 よりも高速処理モード 2、3 の方が若干遅くなる場合があります。
- ・高速処理モードは内部で変調度 100%の信号を出しており、「MB89R116／MB89R118A」は変調度 100%をサポートしていないため動作しません。
MB89R118B/C／MBR119B／MB89R112A/B は動作します。
- ・ISO/IEC18000-3(Mode3)の処理には影響しません。

3.4 RF 送信信号設定

リーダライタの設定（EEPROM 設定）を変更することにより、RF 送信信号（キャリア）の出力タイミングを変更することができます。

設定の変更方法については、「7.9.19 RF 送信信号設定の書き込み」をご参照ください。

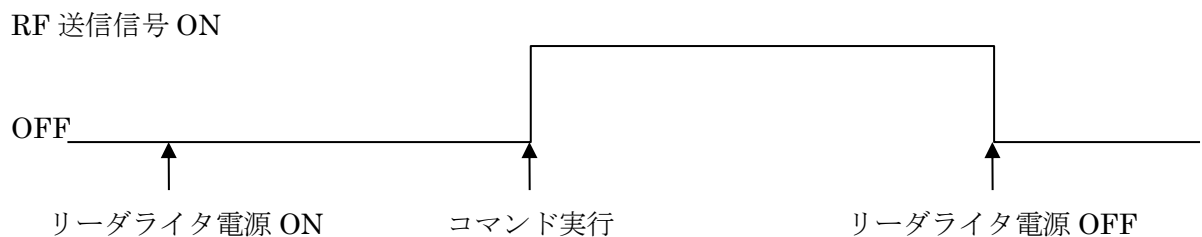
● 起動時 ON

リーダライタの電源投入時に RF 送信信号（キャリア）の出力を開始する設定です。



● 起動時 OFF（コマンド受付以降 ON）

リーダライタの電源投入後、最初のコマンド実行時に RF 送信信号（キャリア）の出力を開始する設定です。ただし、下表の条件によりキャリア OFF となる場合があります。



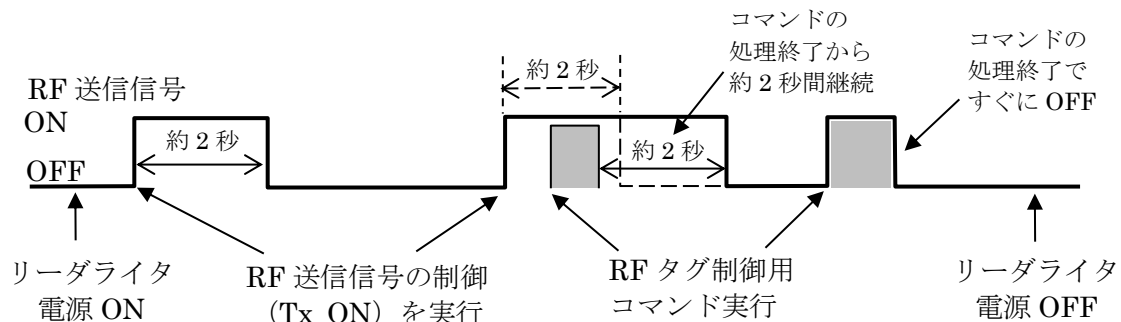
電源投入時の動作モード	キャリア OFF→ON	キャリア ON→OFF
コマンドモード	RF タグ通信コマンド送信	コマンドモードへ移行
	RF 送信信号 ON コマンド送信	リスタートコマンド送信
	自動読み取りモードへ移行	RF 送信信号 OFF コマンド送信
自動読み取りモード	—	コマンドモードへ移行

● コマンド実行時以外常時 OFF

コマンド実行時のみ RF 送信信号（キャリア）の出力を行う設定です。

「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行した時の挙動、および「RF タグ制御用コマンド（※1）」を実行した時の挙動を以下に説明します。

RF 送信信号の制御コマンドについては、「7.8.8 RF 送信信号の制御」をご参照ください。



- ・「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行した場合、約 2 秒間 RF 送信信号を出力します。また、上記コマンド実行により RF 送信信号を出力している間に、「RF タグ制御用コマンド（※1）」を実行した場合、そのコマンド処理が終了してから約 2 秒間は RF 送信信号の出力が継続します。
- ・RF 送信信号を出力後、約 2 秒経過する前に「RF タグ制御用コマンド（※1）」を実行しなければ、自動的に RF 送信信号は停止します。
- ・「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行せずに「RF タグ制御用コマンド（※1）」を実行した場合、動作は以下の通りです。

RF タグ制御用コマンド（※1）	「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行せずに RF タグ制御用コマンドを実行した場合の動作
「RF タグ通信コマンド」 「EPC 通信コマンド」	コマンド実行中のみ RF 送信信号が出力され、コマンド実行後はすぐに RF 送信信号が停止します。
「ISO/IEC 14443 TypeA 通信コマンド」 「ISO/IEC 14443 TypeB 通信コマンド」 「FeliCa 通信コマンド」	コマンド実行時に RF 送信信号が出力され、コマンド実行後も RF 送信信号は継続して出力されます。

※ICODE SLIX シリーズ等の「RF タグ独自のセキュリティ機能」を使用する場合、および ISO/IEC18000-3(Mode3)対応のコマンドを実行する場合は、初めに「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行してから 2 秒以上あいだを空けずに一連のコマンドを実行することで、RF タグにリセットをかけることなく複数コマンドの処理を実行することができます。

※ISO/IEC 14443 TypeA MIFARE DESFire や ISO/IEC 14443 TypeB などの ISO カード系のコマンド処理でデータ容量が多く一連の処理が 2 秒以内に完結しない場合、正常に処理できない可能性がありますのでご注意ください。

※1：RF タグ制御用コマンド

「コマンド実行時以外常時 OFF」の設定で「RF 送信信号の制御 (TX_ON)」を実行すると約 2 秒間 RF 送信信号を出力しますが、約 2 秒経過する前に以下のコマンドを実行した場合、RF 送信信号の出力時間が継続します。

種別		コマンド名
RF タグ通信コマンド	ISO15693	Inventory
		StayQuiet
		ReadSingleBlock
		WriteSingleBlock
		LockBlock
		ReadMultiBlock
		WriteMultiBlock
		SelectTag
		ResetToReady
		WriteAFI
		LockAFI
		WriteDSFID
		LockDSFID
		GetSystemInfo
		GetMBlockSecSt
	タカヤ独自	Inventory2
		ReadBytes
		WriteBytes
		LockBytes
		SimpleRead
		SimpleWrite
		RDLoopCmd
		TKY_SetPassword
		TKY_WritePassword
		TKY_PasswordProtectAFI
		TKY_WriteAFI
		TKY_LockPassword
	Tag-it HF-I (Texas Instruments) のカスタムコマンド	Write2Blocks
		Lock2Blocks
		Kill
		WriteSingleBlockPwd
	my-d (Infineon Technologies) のカスタムコマンド	Myd_Read
		Myd_Write
	スルーコマンド	ISO15693ThroughCmd
ISO/IEC 14443 TypeA 通信コマンド	ISO14443 TypeA 用コマンド	ActivateIdle
		REQA
		WUPA
		Anticol1
		Select1
		Anticol2
		Select2
		Anticol3
		Select3
		HLTA
	NFC Forum Type2 Tag 用コマンド	ReadNFCT2
		WriteNFCT2
		CompatibilityWrite
	スルーコマンド	TypeAThroughCmd

種別		コマンド名
ISO/IEC14443 TypeA 通信コマンド	MifareClassic 用コマンド	MifareInitKey
		MifareSetKey
		MifareAuthentication
		MifareRead
		MifareWrite
		MifareValue
ISO/IEC 14443 TypeB 通信コマンド	ISO14443 TypeB 用コマンド	REQB
		WUPB
		ATTRIB
		HLTB
FeliCa 通信コマンド	スルーコマンド	TypeBThroughCmd
FeliCa 通信コマンド	FeliCa 用	REQC
	スルーコマンド	FeliCaThroughCmd
EPC 通信コマンド		EPC_Select
		EPC_Inventory
		EPC_InventoryRead
		EPC_Read
		EPC_Write
		EPC_BlockWrite
		EPC_Access
		EPC_Lock
		EPC_Kill
		EPC_ChangeConfigWord

3.5 S6700 互換モード設定

TR3XM-C106 シリーズは、S6700 系リーダーライタと一部のコマンドで動作が異なります。
S6700 互換モードに設定することで、S6700 系リーダーライタと同等の動作を行うことができます。
(通常モードの場合は、S6700 系リーダーライタと一部異なる動作を行います)
S6700 系リーダーライタについては「2.1 リーダライタの動作モード概要＜語句の説明＞」をご参照ください。

設定の変更方法については、「7.9.21 S6700 互換モード設定の書き込み」をご参照ください。

3.5.1 ベリファイ処理

S6700 系リーダーライタでは、RF タグへのデータ書き込み、およびロックの際にベリファイ処理を実施しています。

- ベリファイ処理
データの書き込み、およびロック処理の実行後に読み取り処理を実施し、処理が完了していることを確認すること。
- ベリファイ処理の対象
データ書き込み、およびロック処理を実行する際に `option_flag = 0` となる RF タグに対してのみベリファイ処理を実施しています。
また、ベリファイ処理は以下のコマンドで実施されます。
①WriteSingleBlock
②LockBlock
③WriteAFI
④WriteDSFID
⑤WriteBytes
⑥SimpleWrite

TR3XM-C106 シリーズの通常モードでは、ベリファイ処理を実施しません。
(S6700 互換モードで利用した場合は、ベリファイ処理を実施します)

3.5.2 必ず NACK 応答のコマンド

S6700 系リーダーライタでは、LockAFI または LockDSFID を `option_flag = 0` となる RF タグに対して実行した場合に必ず NACK 応答となる仕様です。
(コマンド実行結果に関わらず必ず NACK 応答)

TR3XM-C106 シリーズの通常モードでは、コマンドが成功した場合には ACK 応答となります。
(S6700 互換モードで利用した場合は、必ず NACK 応答となります)

3.5.3 リトライ処理

TR3XM-C106 シリーズの通常モードでは、リトライ処理の対象コマンドが一部変更されています。
S6700 互換モードを利用した場合は、S6700 系リーダーライタと同一の仕様で動作します。
リトライ処理の詳細は「3.2 リトライ処理」をご参照ください。

3.5.4 レスポンス仕様

TR3XM-C106 シリーズの通常モードでは、以下のコマンドについてレスポンス仕様が変更されています。

- ① WriteBytes
詳細は「7.10.19 WriteBytes」をご参照ください。
- ② Myd_Write
詳細は「7.10.29 Myd_Write」をご参照ください。

3.5.5 ISO15693ThroughCmd について

TR3XM-C106 シリーズの S6700 互換モードでは ISO15693Throughcmd は使用できません。
RF タグのカスタムコマンドを使用する場合は通常モードでご使用ください。

3.6 my-d アクセス方式

my-d (SRF55V10P／SRF55V02P) の新タグ (※) には、

- my-d カスタムコマンド (Myd_Read／Myd_Write) を使用して 8 バイト単位でアクセスする方式 (ページアクセス方式)
 - ISO15693 オプションコマンド (ReadSingleBlock／WriteSingleBlock など) を使用して 4 バイト単位でアクセスする方式 (ブロックアクセス方式)
- の 2 種類のアクセス方式があります。

また、双方のアクセス方式でメモリへのアクセス方向が逆転します。

(ページアクセスで指定するメモリの先頭は、ブロックアクセスで指定するメモリの末尾となります)

※ RF タグの識別方法については「4.3.2 RF タグの識別方法」をご参照ください。

本機能が有効となるコマンドおよび動作モードは以下になります。

これらのコマンドおよび動作モードでは、リーダーライタの **EEPROM** 設定により、アクセス方式 (ページアクセス／ブロックアクセス) を切り替えることができます。

選択されたアクセス方式でメモリアクセスを行います。

- ReadBytes
- WriteBytes
- RDLOOPCmd
- SimpleRead
- SimpleWrite
- RDLOOP モード
- オートスキャンモード
- トリガーモード
- ポーリングモード

アクセス方式の設定方法については、「8.10 my-d 自動識別時のアクセス方式」をご参照ください。

3.6.1 ページアクセス

8 バイトのページ単位でメモリアccessを行います。

ページ 0～2（計 3 ページ）はサービス領域であり、書き込み操作を行うことはできません。

SRF55V02P	SRF55V10P	byte							
ページ番号	ページ番号	7	6	5	4	3	2	1	0
0	0	サービス領域							
1	1								
2	2								
3	3	ユーザ領域							
4	4								
30	126								
31	127								

[ページアクセス用のコマンド]

- Myd_Read
- Myd_Write

3.6.2 ブロックアクセス

4 バイトのブロック単位でメモリアccessを行います。

ページアクセス方式時とはメモリの番地とアクセスする位置の関係が逆転します。

また、ブロックアクセスでは、ページ 0～3 に該当する部分を読み書きすることはできません。

SRF55V02P	SRF55V10P	byte							
ブロック番号	ブロック番号	3	2	1	0	3	2	1	0
アクセス不可	アクセス不可	サービス領域							
55/54	247/246	ユーザ領域 (奇数ブロック)				ユーザ領域 (偶数ブロック)			
53/52	245/244								
3/2	3/2								
1/0	1/0								

[ブロックアクセス用のコマンド]

- ReadSingleBlock
- WriteSingleBlock
- ReadMultiBlock
- LockBlock
- GetMBlockSecSt

※データのロック、およびロック情報の読み取りは、ブロックアクセスしか対応していません。

3.7 LED 点灯条件

「LED の制御コマンド」を実行することで、リーダライタモジュール基板上の LED を制御することができます。

詳細は「7.8.12 LED の制御」をご参照ください。

また、「LED の制御コマンド」以外のコマンドを実行する場合、コマンドモード以外の動作モードを使用する場合も、リーダライタモジュール基板上の LED が自動で点灯します。

点灯条件は、以下を参照してください。

TR3XM-C106 シリーズ基板上の LED（リファレンス：LD1）は、以下の条件で点灯します。

①コマンドモードを使用する場合

コマンド	P：コマンドのパラメータ（※1） D：リーダライタ動作モードの設定パラメータ		LED の動作	
			タグあり	タグなし
Inventory	P	1slot	緑 (※2)	赤 (※3)
	P	16slot	緑 (※2)	緑 (※2)
Inventory2	—	—	緑 (※2)	緑 (※2)
RDLOOPCmd	P	RF タグ読み取り時の LED【点灯】（★1）	緑 (※2)	★2 参照
	P	RF タグ読み取り時の LED【非点灯】（★1）	非点灯	★2 参照
	P	RF タグ未読み取り時の LED【点灯】（★2）	★1 参照	赤 (※3)
	P	RF タグ未読み取り時の LED【非点灯】（★2）	★1 参照	非点灯
SimpleRead	D	アンチコリジョン【無効】 読み取り動作【連続読み取り】	緑 (※2)	赤 (※3)
	D	アンチコリジョン【無効】 読み取り動作【1回読み取り】	緑 (※2)	非点灯
	D	アンチコリジョン【有効】	緑 (※2)	非点灯
その他 RF タグ 通信コマンド	—	—	非点灯	非点灯

※1：コマンドのパラメータ、およびリーダライタ動作モードの設定パラメータについて、記載の無い条件は LED の動作に影響を与えないものとします。

※2：「LED の制御コマンド」で「緑 LED：常時消灯」に設定した場合、上表の条件では緑 LED は点灯しません。

「緑 LED：常時消灯」の設定を解除し、上表の条件で緑 LED を点灯させるためには、電源再起動、リスタートコマンド、コマンドモード以外の動作モードを設定、「緑 LED：指定時間の点灯」のいずれかを実行してください。

※3：「LED の制御コマンド」で「赤 LED：常時消灯」に設定した場合、上表の条件では赤 LED は点灯しません。

「赤 LED：常時消灯」の設定を解除し、上表の条件で赤 LED を点灯させるためには、電源再起動、リスタートコマンド、コマンドモード以外の動作モードを設定、「赤 LED：指定時間の点灯」のいずれかを実行してください。

注：EEPROM 設定「汎用ポート 1」「汎用ポート 3」の設定値に関わらず、上表の条件で LED が点灯します。

②コマンドモード以外の動作モードを使用する場合

動作モード	リーダーライタ動作モードの設定パラメータ (※1)	LED の動作	
		タグあり	タグなし
連続インベントリ モード	アンチコリジョン【無効】	緑 (※2) 橙 (※2)	赤
	アンチコリジョン【有効】	緑	非点灯
RDLOOP モード	アンチコリジョン【無効】	緑 (※2) 橙 (※2)	赤
	アンチコリジョン【有効】	緑	非点灯
オートスキャン モード	アンチコリジョン【無効】	緑 (※2) 橙 (※2)	赤
	アンチコリジョン【有効】	緑	非点灯
トリガーモード	—	緑	非点灯
ポーリングモード	—	緑	非点灯
カード ディテクション モード	—	緑 (※3)	非点灯

※1：リーダーライタ動作モードの設定パラメータについて、記載の無い条件は LED の動作に影響を与えないものとします。

※2：緑→安定読み取り 橙→不安定読み取り

※3：カードを検知するたびに一瞬点灯（読み取りに失敗しても近接検知だけで点灯）

注：EEPROM 設定「汎用ポート 1」「汎用ポート 3」の設定値に関わらず、上表の条件で LED が点灯します。

第4章 RF タグの機能

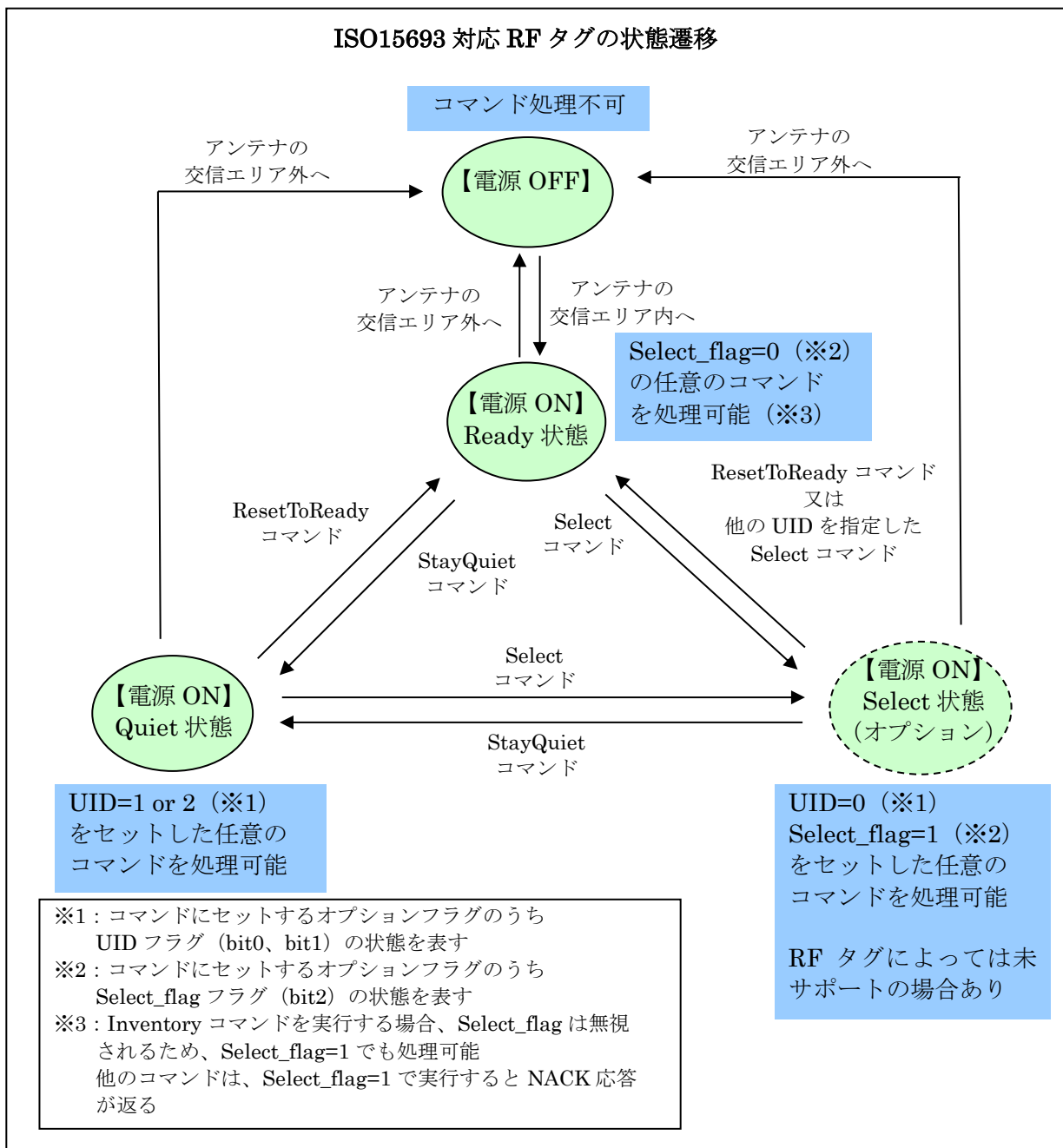
本章では、ISO15693 に準拠した RF タグの機能について説明します。

「RF タグの状態遷移」のみ ISO14443TypeA についても説明します。

ISO/IEC14443TypeB 対応 RF タグについては、別紙「ISO14443 TypeB 通信プロトコル説明書」をご参照ください。

ISO/IEC18000-3(Mode3)対応 RF タグについては、別紙「ISO18000-3M3 通信プロトコル説明書」をご参照ください。

4.1 RF タグの状態遷移 (ISO15693)



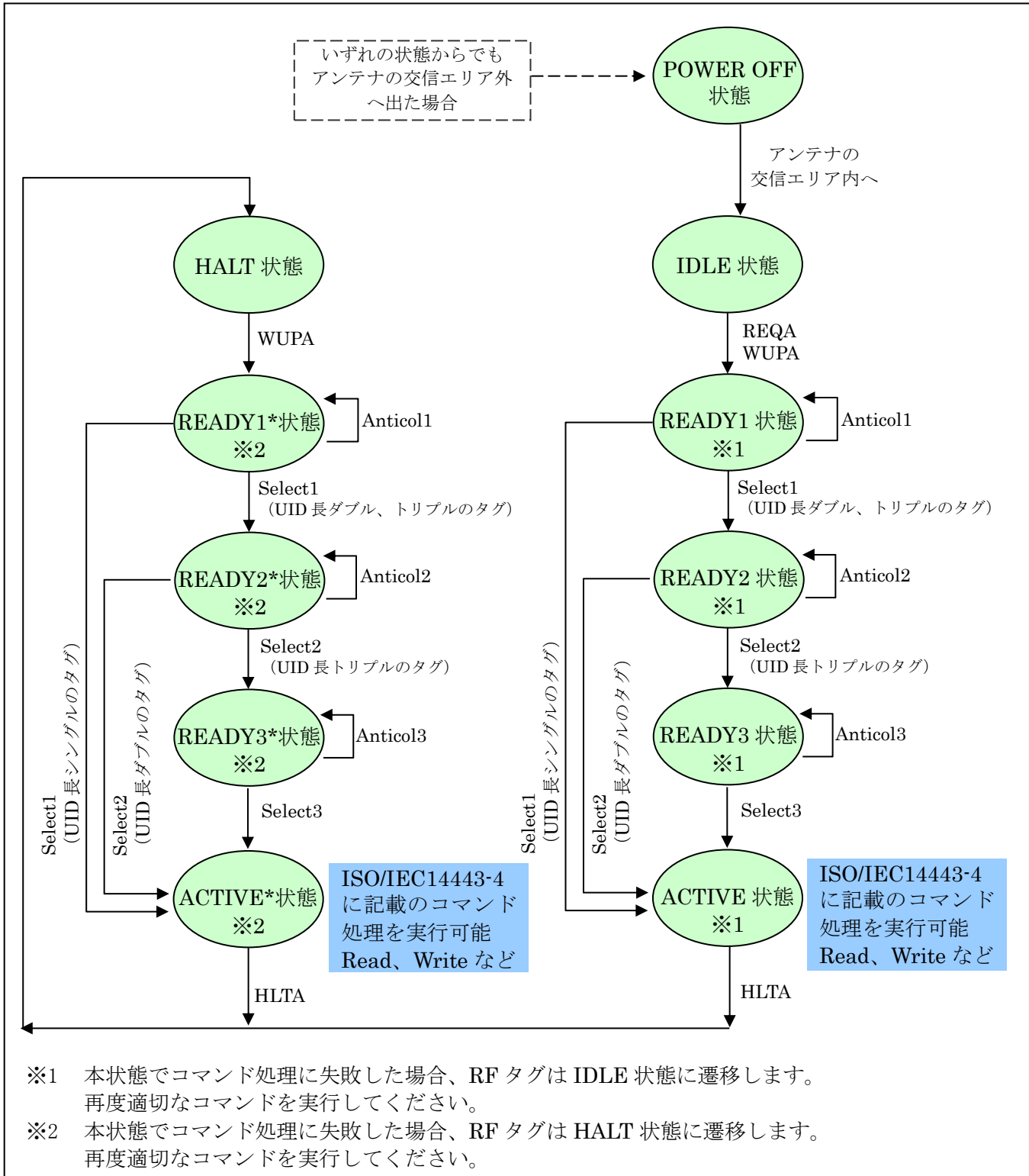
RF タグは、アンテナの交信エリアに入ると必ず Ready 状態で起動します。
その後は、各種コマンド制御により、「Ready 状態」「Quiet 状態」「Select 状態」のいずれかの状態に遷移します。

遷移した状態により RF タグの動作が異なります。
詳細は上図、および下表をご参照ください。

状 態	説 明
Ready 状態	Ready 状態の RF タグは、UID 指定なし (UID=0)、UID 指定あり (UID=1、2) (※)、のいずれの条件でコマンドを実行しても正常動作します。 また、Select フラグをセット (Select_flag=1) してコマンド実行する場合、Inventory コマンドは Select_flag を無視するため正常に動作しますが、他のコマンドはすべて NACK 応答となります。
Quiet 状態	Quiet 状態の RF タグは、UID 指定 (UID=1、2) (※) でコマンドを実行した場合のみ正常動作します。
Select 状態	Select 状態の RF タグは、Select フラグをセット (Select_flag=1) してコマンドを実行した場合のみ、正常動作します。 交信エリア内に複数枚の RF タグが存在する場合でも、1 枚の RF タグしか Select 状態に遷移させることはできません。 Select 状態の RF タグが、他の RF タグを指定した Select コマンドを受信した場合、Select 状態から Ready 状態に遷移します。

(※) UID 指定あり (UID=1、2) でコマンドを実行した場合、指定した UID を持つ RF タグのみがコマンド処理を行います。

4.2 RF タグの状態遷移 (ISO14443TypeA)



RF タグ (ISO14443TypeA) は、アンテナの通信エリアに入ると必ず IDLE 状態で起動します。その後、UID 長に応じて必要な回数 Anticol コマンドと Select コマンドを実行し、ACTIVE 状態に遷移させてから、リードやライトコマンドを実行します。

上図は ISO14443TypeA の一般的な遷移図です。
RF タグにより詳細が異なる場合がありますので、各 RF タグの仕様をご確認ください。

4.3 RF タグのメモリ構造

ISO15693 規格に準拠した RF タグのメモリは、以下のデータ領域で構成されています。
ただし、AFI、DSFID は ISO15693 規格でオプション扱いとなっており、未対応の RF タグもありますので、使用する RF タグの仕様を事前にご確認ください。

データ領域	説明
UID	RF タグ固有のユニークな ID です。 IC 製造者 (RF タグのチップメーカー) が工場出荷時に設定する 64 ビットのコードで、工場出荷後は変更できません。 UID は RF タグの識別に使用し、アンチコリジョン処理を行う際にも使用します。 Inventory、Inventory2 により UID を取得できます。
AFI (オプション)	アプリケーションファミリ識別子です。 AFI は 1 バイトでコード化され、上位 4bit でアプリケーションファミリを規定し、下位 4bit でサブファミリを規定します。 用途に合わせた AFI 値を RF タグに書き込むことで、異なるアプリケーションで使用する RF タグの中から特定の AFI 値をもつタグだけ検知する、という動作が可能となります。 GetSystemInfo により AFI を取得できます。
DSFID (オプション)	データ保存形式識別子です。 1 バイトでコード化されています。 DSFID は、ユーザが自由に設定して使用することができます。 Inventory、Inventory2、GetSystemInfo により DSFID を取得できます。
ユーザメモリ	ブロック (又はページ) 単位で構成されています。 リード、ライトする際はブロック単位でアクセスします。 1 ブロックのサイズは、RF タグごとに異なります。
ブロック セキュリティ ステータス	RF タグのデータがロックされているかどうかを表します。 ロックされたブロックのデータは、読み出すことはできますが書き換えることはできません。 本ステータスは、ReadSingleBlock、ReadMultiBlock、GetMBlockSecSt で取得することができます。 ReadSingleBlock、ReadMultiBlock を使用する場合、Option_Flag=1 にセットする必要があります。

4.3.1 UID のフォーマット

UID の上位 8bit は、ISO15693 規格で「E0」と規定されています。
Bit48～bit55 は IC 製造者コードを表し、RF タグのチップメーカーごとに異なります。
Bit40～bit47 は IC 製造者が決める番号で、通常はチップの種別を表します。

MSB			LSB		
bit63	bit56	bit55	bit48	bit47	bit0
0xE0		IC 製造者コード		IC 製造者通し番号	

IC 製造者コード : ISO/IEC 7816-6 に基づく 8 ビット
IC 製造者通し番号 : IC 製造者が割り当てる 48 ビット

4.3.2 RF タグの識別方法

UID に含まれる「IC 製造者コード (48bit～55bit)」および「bit40～bit47」を参照することで、ISO15693 に準拠した RF タグの種類を識別できる場合があります。
詳細は下表をご参照ください。

注) 下表の UID 識別条件は、RF タグの仕様書、および実機確認による情報です。
実際の RF タグから得られる情報と下表の内容が異なる場合は、実際の RF タグからの情報を優先してください。

- Texas Instruments (Tag-it HF-I Plus/Pro/Standard)
- Infineon Technologies (SRF55V**P/SRF55V10P/SRF55V02P/SRF55V01P)
- 富士通 (MB89R116/MB89R118C/MB89R119B/MB89R112)
- NXP Semiconductors (ICODE SLI/SLI-S/SLI-L/SLIX/SLIX-S/SLIX-L/SLIX2)
- STMicro (M24LR04E-R/M24LR16E-R/M24LR64E-R/LRIS64K/ST25DV04K/ST25DV16K/ST25DV64K)

RF タグチップメーカー	RF タグ種別	IC 製造者コード	UID の条件
Texas Instruments	Tag-it HF-I Plus	0x07	E0 07 00 * * * * * E0 07 01 * * * * * E0 07 80 * * * * * E0 07 81 * * * * *
	Tag-it HF-I Pro		E0 07 C4 * * * * * E0 07 C5 * * * * *
	Tag-it HF-I Standard		E0 07 C0 * * * * * E0 07 C1 * * * * *
	SRF55V10P my-d vicinity plain		60 05 * * * * *
	SRF55V02P my-d vicinity plain		E0 05 00 * * * * *
	SRF55V01P my-d Light		E0 05 40 * * * * *
Infineon Technologies	SRF55V10P my-d vicinity plain	0x05	E0 05 A1 * * * * *
	SRF55V02P my-d vicinity plain		
	SRF55V01P my-d Light		
	SRF55V01P my-d Light		
富士通	MB89R116	0x08	E0 08 00 * * * * *
	MB89R118C		E0 08 01 * * * * *
	MB89R119B		E0 08 02 * * * * *
	MB89R112		E0 08 05 * * * * *
STMicro	M24LR04E-R	0x02	E0 02 * * * * * (※1)
	M24LR16E-R		
	M24LR64E-R		
	LRIS64K		
	ST25DV04K		
	ST25DV16K		
	ST25DV64K		

※1：UID だけではチップの種類を識別できません。

GetSystemInformation、ExtendedGetSystemInformation コマンドで取得可能な ICref の情報、ブロック数の情報などから識別する必要があります。

RF タグチップメーカー	RF タグ種別	IC 製造者コード	UID の条件
NXP Semiconductors (※2)	ICODE SLI	0x04	E0 04 01 0* * * * * E0 04 01 2* * * * * E0 04 01 4* * * * * ～ E0 04 01 C* * * * * E0 04 01 E* * * * *
	ICODE SLI-S		E0 04 02 0* * * * * E0 04 02 2* * * * * E0 04 02 4* * * * * ～ E0 04 02 C* * * * * E0 04 02 E* * * * *
	ICODE SLI-L		E0 04 03 0* * * * * E0 04 03 2* * * * * E0 04 03 4* * * * * ～ E0 04 03 C* * * * * E0 04 03 E* * * * *
	ICODE SLIX		E0 04 01 1* * * * * E0 04 01 3* * * * * E0 04 01 5* * * * * ～ E0 04 01 D* * * * * E0 04 01 F* * * * *
	ICODE SLIX-S		E0 04 02 1* * * * * E0 04 02 3* * * * * E0 04 02 5* * * * * ～ E0 04 02 D* * * * * E0 04 02 F* * * * *
	ICODE SLIX-L		E0 04 03 1* * * * * E0 04 03 3* * * * * E0 04 03 5* * * * * ～ E0 04 03 D* * * * * E0 04 03 F* * * * *
	ICODE SLIX2		※3 SLI/SLIX/SLIX2 は 下表に従います

※2 : UID データ構造

MSB					LSB
bit63－bit56	bit55－bit48	bit47－bit40	bit39－bit36	bit35－bit0	
0xE0	IC 製造者コード	タイプ	IC 製造者通し番号		

※3

bit47-bit40	bit36	bit35	ICODE Type
01h	0	0	ICODE SLI
02h	0	-	ICODE SLI-S
03h	0	-	ICODE SLI-L
01h	1	0	ICODE SLIX
02h	1	-	ICODE SLIX-S
03h	1	-	ICODE SLIX-L
01h	0	1	ICODE SLIX2

4.3.3 AFI のコード

ISO15693 規格である程度の用途を想定し、AFI 値がコード化されています。
下記は参考情報とし、詳細については最新の規格書をご参照ください。

全アプリケーション ファミリ (最上位 ニブル) bit7～bit4	全アプリケーション サブファミリ (最下位 ニブル) bit3～bit0	意味 ～からのタグ応答	例／備考
'0'	'0'	全ファミリおよび全サブファミリ	適用可能な事前選択なし
X	'0'	ファミリ X の全サブファミリ	広範な適用可能な 事前選択
X	Y	ファミリ X の Y 番目の サブファミリのみ	
'0'	Y	専用サブファミリ Y のみ	
'1'	'0'、Y	輸送	大量輸送、バス、航空機
'2'	'0'、Y	金融	IEP、銀行、小売
'3'	'0'、Y	識別	アクセス制御
'4'	'0'、Y	遠隔通信	公衆電話、GSM
'5'	'0'、Y	医療	
'6'	'0'、Y	マルチメディア	内部サービス
'7'	'0'、Y	ゲーミング	
'8'	'0'、Y	データ保存	携帯ファイル
'9'	'0'、Y	品目管理	
'A'	'0'、Y	速達小包	
'B'	'0'、Y	郵便サービス	
'C'	'0'、Y	航空機用かばん	
'D'	'0'、Y	Reserved	
'E'	'0'、Y	Reserved	
'F'	'0'、Y	Reserved	

X : '1'～'F'、 Y : '1'～'F'

注)

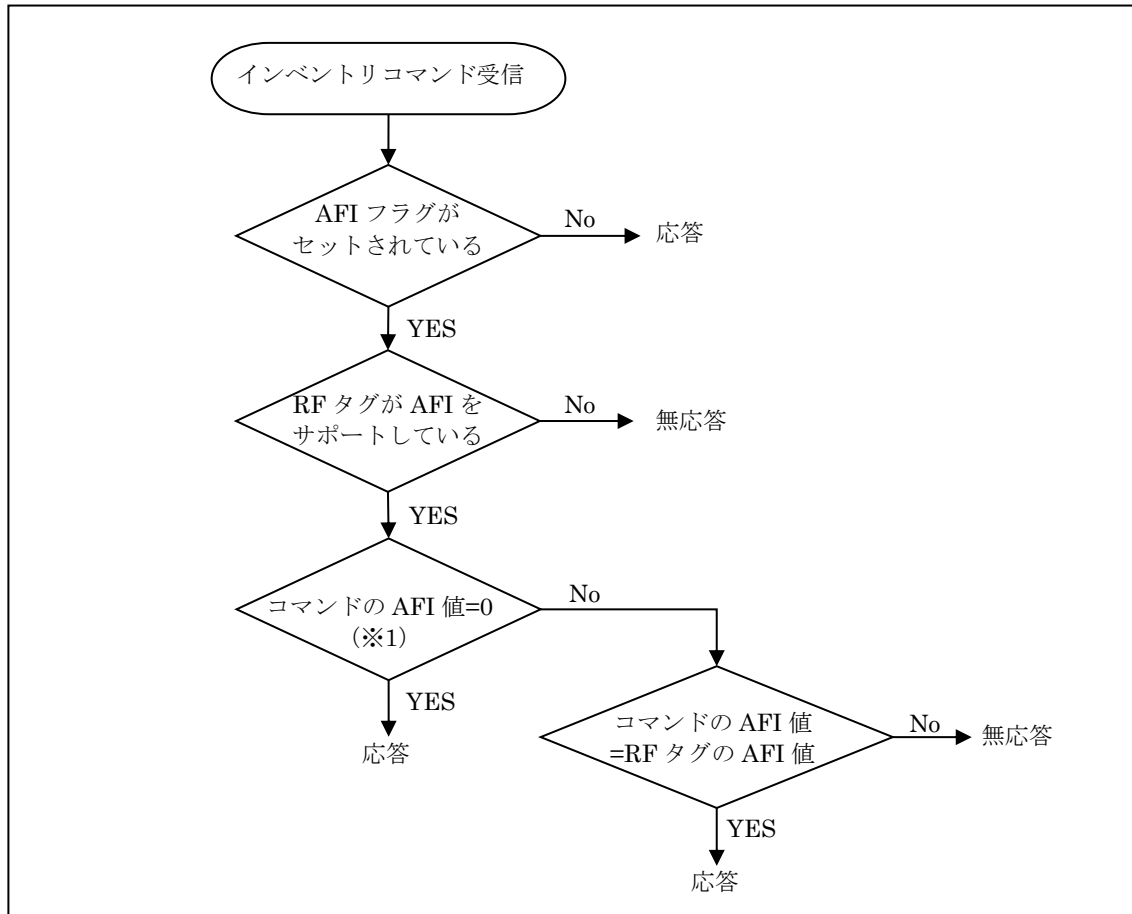
my-d vicinity plain (SRF55V10P、SRF55V02P) の AFI 領域 bit2 は、EAS フラグにアサインされています。

「bit2=1」を書き込むと、RF タグが EAS モードで起動し、リードライト処理に失敗する場合がありますのでご注意ください。

My-d vicinity plain (SRF55V10P、SRF55V02P) の AFI 領域を書き換える場合、「bit2=0」となる値で運用してください。

4.3.4 RF タグの AFI 判別フロー

RF タグがインベントリコマンドを受信した際は、以下のフローに従い動作します。
このフローは ISO15693 規格で規定されています。



※1：コマンドで指定する AFI 値が「00h」の場合、RF タグの AFI 値に関わらずすべての RF タグが応答を返します。

コマンドで指定する AFI 値が「*0h」の場合、RF タグの AFI 値「*0h」～「*Fh」の RF タグが応答を返します。

コマンドで指定する AFI 値が「0*h」の場合、RF タグの AFI 値「0*h」～「F*h」の RF タグが応答を返します。

ここで、「*」は「0x00」以外の 4bit データとなります。

4.3.5 ユーザメモリ

ユーザメモリは RF タグごとに異なります。

TR3 シリーズでサポートしている ISO15693 準拠 RF タグのユーザメモリは下表の通りです。

ISO14443TypeA、ISO14443TypeB、FeliCa、ISO18000-3(Mode3)につきましては、RF タグの仕様書をご参照ください。

RF タグメーカー	RF タグ種別	ユーザエリアの メモリサイズ
Texas Instruments	Tag-it HF-I Plus	256 バイト (4Byte×64Block)
	Tag-it HF-I Pro	32 バイト (4Byte×8Block)
	Tag-it HF-I Standard	
NXP Semiconductors	ICODE SLI	112 バイト (4Byte×28Block)
	ICODE SLI-S	160 バイト (4Byte×40Block)
	ICODE SLI-L	32 バイト (4Byte×8Block)
	ICODE SLIX	112 バイト (4Byte×28Block)
	ICODE SLIX-S	160 バイト (4Byte×40Block)
	ICODE SLIX-L	32 バイト (4Byte×8Block)
	ICODE SLIX2	316 バイト (4Byte×79Block)
Infineon Technologies	SRF55V10P my-d vicinity plain	1000 バイト (8Byte×125Page) 又は 992 バイト (4Byte×248Block)
	SRF55V02P my-d vicinity plain	232 バイト (8Byte×29Page) 又は 224 バイト (4Byte×56Block)
	SRF55V01P my-d light	52 バイト (4Byte×13Block)
富士通 (※1)	MB89R116 MB89R118C	2000 バイト (8Byte×250Block)
	MB89R119B	232 バイト (4Byte×58Block)
	MB89R112A/B	8192 バイト (32Byte×256Block)
STMicro	M24LR04E-R	512 バイト (4Byte×128Block) 4Sector ※32Block/Sector
	M24LR16E-R	2,048 バイト (4Byte×512Block) 16Sector ※32Block/Sector
	M24LR64E-R	8,192 バイト (4Byte×2,048Block) 64Sector ※32Block/Sector
	LRIS64K	8,192 バイト (4Byte×2,048Block) 64Sector ※32Block/Sector
	ST25DV04K	512 バイト (4Byte×128Block)
	ST25DV16K	2,048 バイト (4Byte×512Block)
	ST25DV64K	8,192 バイト (4Byte×2,048Block)

※1 富士通製 RF タグと交信するには、リーダライタの通信設定を富士通製 RF タグ向け設定に変更することが必要です。

設定内容、設定方法については「6.3.1 動作確認済みタグ」をご参照ください。

4.3.6 ブロックセキュリティステータス

ブロックセキュリティステータスの情報は、ブロックごとに 1 バイトのデータで表します。この情報を参照することで、ユーザエリアの各ブロックがロックされているかどうかを判別できます。

ReadSingleBlock、ReadMultiBlock、GetMBlockSecSt でブロックセキュリティステータスの情報を読み出すことができます。

- Texas Instruments の 3 種製品以外のフォーマット
bit0 の状態でロックされているかどうかを表します。

ビット	フラグ名	値	説明
bit0	Lock_flag	0	ロックされていない
		1	ロックされている
bit1～bit7	Reserved	0	

- Tag-it HF-I Plus、Tag-it HF-I Pro、Tag-it HF-I Standard のフォーマット
Texas Instruments の 3 種製品には、「UserLockbit」と「FactoryLockbit」の 2 種のステータスがあります。
UserLockbit は、工場出荷後にコマンド制御でロックされているかどうかを表します。
FactoryLockbit は、工場出荷時にロックされているかどうかを表します。
FactoryLockbit は、工場出荷後にコマンド制御で変更することはできません。

ビット	フラグ名	値	説明
bit0	UserLockbit	0	ロックされていない
		1	ロックされている
bit1	FactoryLockbit	0	ロックされていない
		1	ロックされている
bit2～bit7	Reserved	0	

- my-d vicinity plain をロックする場合の注意点
my-d vicinity plain は、ページアクセスのアドレスでロックすることができず、セキュリティ情報を読み取ることもできません。

ブロックアクセスのアドレスで使用する場合、Lock Block でロックし、ReadSingleBlock、ReadMultiBlock、GetMBlockSecSt でセキュリティ情報を取得することができます。

ただし、Lock Block でブロックアクセスのアドレスをロックした場合、その物理的なアドレスをページアクセスのアドレスに置き換えてライトしても、ロックされているため書き込みに失敗しますのでご注意ください。

- my-d Light の仕様
my-d Light は Lock コマンドをサポートしておらず、ユーザエリアをロックすることができません。
したがって、本書では my-d Light のロック情報は省略します。

第5章 通信フォーマット

本章では、コマンドの通信フォーマットについて説明します。

以下の通信フォーマットに従い、リーダーライタに対してコマンドの送受信を行います。

5.1 コマンド／レスポンスの通信フォーマット

上位機器からリーダーライタに送信するコマンド、およびリーダーライタから返されるレスポンスの通信フォーマットは、以下の通りです。

ラベル	STX	アドレス	コマンド	データ長	データ部	ETX	SUM	CR
バイト数	1	1	1	1	0～255	1	1	1

5.2 通信フォーマットの詳細

通信フォーマットは下表の通りです。
バイナリデータをセットします。

ラベル名	バイト数	内 容
STX	1	【02h】 パケットの先頭を示すコード
アドレス	1	【コマンド送信時】 通常は「00h」を設定します。 ただし、RS485 インターフェースを持つリーダライタを制御する場合は、送信先のリーダライタの ID を設定します。 ID=00h とした場合、リーダライタの ID に関わらず、すべてのリーダライタがコマンド処理を実行し、レスポンスを返します。
		【レスポンス受信時】 以下の条件を除き、「00h」がセットされます。 ●条件 1 EEPROM アドレス 28「リーダライタの ID」が 00h 以外に設定された場合、リーダライタの ID がセットされます。 ●条件 2 「アンテナ自動切替：有効」かつ「アンテナ ID 出力：有効」の場合、RF タグのデータを読み取ったアンテナの ID がセットされます。 ●条件 3 ゲートアンテナと接続する場合、「入出判断機能」を有効にすると、RF タグを検知した入出方向のステータスがセットされます。
コマンド	1	【コマンドコード】 詳細は「第6章 コマンド一覧／対応表」および「第7章 コマンドフォーマット」をご参照ください。
データ長	1	【00h～FFh】 「データ部ラベル」に格納されるデータのバイト数です。 パケット全体の長さは、データ長+7 となります。
データ部	可変	コマンドにより異なります。 詳細は「第6章 コマンド一覧／対応表」および「第7章 コマンドフォーマット」をご参照ください。
ETX	1	【03h】 パケットの終わりを示すコード
SUM	1	【STX から ETX までのサム値】 「5.4 SUM の計算方法」をご参照ください。
CR	1	【0Dh】 改行コード

5.3 データ配列

データは、基本的に LSB ファースト（下位バイトより送信）で送信します。

<ISO15693 用コマンド>

RF タグのデータをリードする場合は、下位ブロックの下位バイトが先にセットされます。

RF タグのデータをライトする場合は、下位ブロックの下位バイトを先にセットしてください。

<ISO18000-3(Mode3)用コマンド>

MSB ファースト（上位バイトより送信）でパラメータがセットされます。

詳細は別紙「ISO18000-3M3 通信プロトコル説明書」をご参照ください。

<その他規格用コマンド>

LSB ファーストではない場合もありますので、対応するコマンドのフォーマット、および使用する RF タグのデータシートなどをご参照ください。

5.4 SUM の計算方法

STX から ETX までのデータを 1 バイト単位で加算し、その結果が 1 バイトのサム値 (SUM) となります。

例)

STX	00h	4Fh	00h	ETX	SUM	CR
-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

SUM の計算	STX	=	02h
	00h	=	00h
	4Fh	=	4Fh
	00h	=	00h
	ETX	=	03h
			54h

SUM=54h

なお、桁あふれが発生した場合は、単純にあふれた桁を捨てた値を設定してください。

例)

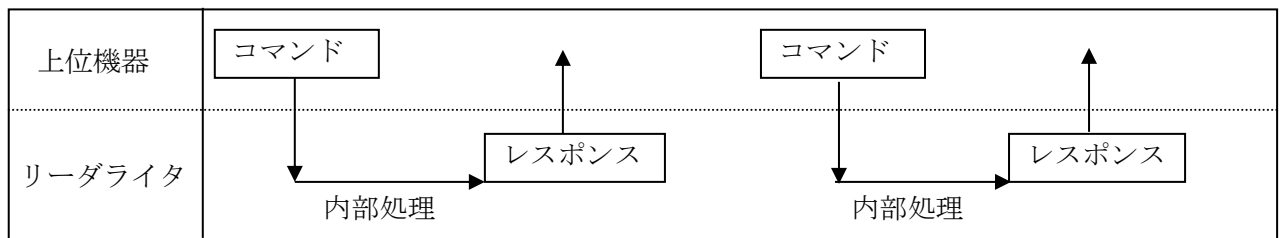
STX	00h	4Eh	02h	09h D4h	ETX	SUM	CR
-----	-----	-----	-----	------------	-----	-----	----

SUM の計算	STX	=	02h
	00h	=	00h
	4Eh	=	4Eh
	02h	=	02h
	09h	=	09h
	D4h	=	D4h
	ETX	=	03h
			132h

SUM=32h

5.5 コマンドレスポンス

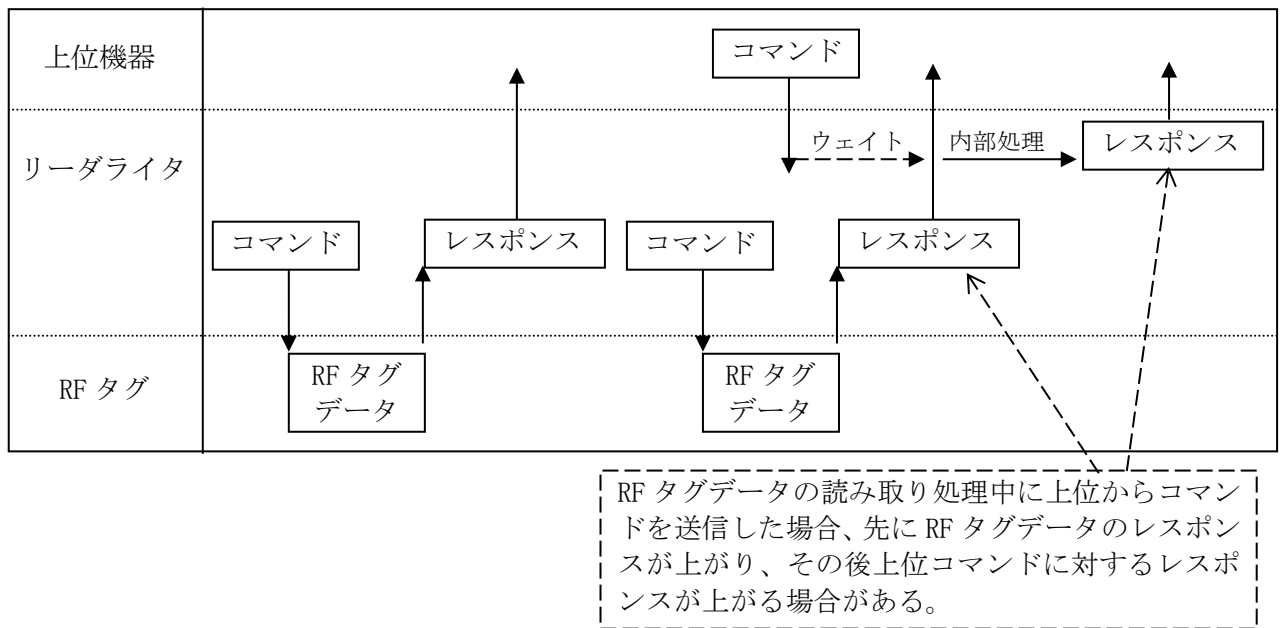
5.5.1 コマンドモードを使用する場合



上位機器からのコマンドに対し、リーダライタがレスポンスを返します。
連続してコマンドを送信する場合は、必ず前のコマンドのレスポンスを受信した後で、次のコマンドを送信してください。

なお、一部レスポンスを返さないコマンドもあります。
詳細は「第7章 コマンドフォーマット」をご参照ください。

5.5.2 コマンドモード以外の動作モードを使用する場合



TR3 シリーズ独自の自動読み取りモード（※1）を使用する場合、上位機器からコマンドを送信することなく、RF タグのデータを読み取るたびにリーダライタから上位機器にレスポンスを返します。

自動読み取りモードで動作しているリーダライタに対し、上位機器からコマンドを送信した場合、上位コマンドに対するレスポンスの前に、自動読み取りモードのレスポンス（RF タグデータ）が返る場合がありますのでご注意ください。

※1：TR3 シリーズ独自の自動読み取りモードは以下のモードです。

ISO14443TypeA、ISO14443TypeB、FeliCa は自動読み取りモードには対応していません。

- ・連続インベントリモード
- ・RDLOOP モード
- ・オートスキャンモード
- ・トリガーモード
- ・ポーリングモード
- ・EPC インベントリモード（ISO/IEC18000-3(Mode3)対応機種のみ）
- ・EPC インベントリリードモード（ISO/IEC18000-3(Mode3)対応機種のみ）
- ・カードディテクションモード

第6章 コマンド一覧／対応表

本章では、各コマンドのコード、参照項、リーダライタ別対応表、RF タグ別対応表について説明します。

6.1 コマンド一覧

6.1.1 リーダライタ制御コマンド

参照項	コマンド名	コマンド (3 バイト目)	詳細コマンド (5 バイト目)
7.8.1	エラー情報の読み取り	4Fh	80h
7.8.2	パワー状態の読み取り		52h
7.8.3	使用アンテナ番号の読み取り		9Ch
7.8.4	カレント UID の読み取り		50h
7.8.5	リーダーライタ保存 UID 数の読み取り		53h
7.8.6	リーダーライタ保存 UID データの読み取り		54h
7.8.7	ROM バージョンの読み取り		90h
7.8.8	RF 送信信号の制御	4Eh	9Eh
7.8.9	パワー状態の制御		52h
7.8.10	使用アンテナ番号の設定		9Ch
7.8.11	カレント UID の設定		50h
7.8.12	LED の制御		55h
7.8.13	LED&ブザーの制御		57h
7.8.14	リスタート		9Dh
7.8.15	EEPROM 設定の初期化		6Fh
7.8.16	ブザーの制御	42h	-

6.1.2 リーダライタ設定コマンド

参照項	コマンド名	コマンド (3 バイト目)	詳細コマンド (5 バイト目)
7.9.1	リーダーライタ動作モードの読み取り	4Fh	00h
7.9.2	RF タグ動作モードの読み取り		09h
7.9.3	アンチコリジョンモードの読み取り		76h
7.9.4	AFI 指定値の読み取り		51h
7.9.5	RF 送信信号設定の読み取り		77h
7.9.6	RF タグ通信設定の読み取り		78h
7.9.7	S6700 互換モード設定の読み取り		79h
7.9.8	汎用ポート値の読み取り		9Fh
7.9.9	拡張ポート値の読み取り		56h
7.9.10	EEPROM 設定値の読み取り (アドレス指定読み取り)		B4h
7.9.11	自動読取モード設定の読み取り		B3h ※2,※3
7.9.12	カードディテクションモード設定の読み取り		B3h ※2
7.9.13	カードディテクションモードのチューニング		B3h ※2
7.9.14	RSSI 値の読み取り		B3h ※2
7.9.15	リーダーライタ動作モードの書き込み	4Eh	00h / 10h
7.9.16	RF タグ動作モードの書き込み		09h / 19h
7.9.17	アンチコリジョンモードの書き込み ※1		76h
7.9.18	AFI 指定値の書き込み		51h
7.9.19	RF 送信信号設定の書き込み		77h
7.9.20	RF タグ通信設定の書き込み		78h
7.9.21	S6700 互換モード設定の書き込み		79h
7.9.22	汎用ポート値の書き込み		9Fh
7.9.23	拡張ポート値の書き込み		56h
7.9.24	EEPROM 設定値の書き込み (アドレス指定書き込み)		B4h
7.9.25	自動読取モード設定の書き込み		B3h ※2,※3
7.9.26	カードディテクションモード設定の書き込み		B3h ※2

※1 MB89R シリーズは MB89R118B 以降で対応しています。(MB89R116/118A は未対応)

※2: 詳細コマンド共通、設定パラメータによりコマンドが異なる

※3: EPC 関連パラメータ(bit0/bit1)は ISO/IEC18000-3(Mode3)対応機種のみサポート

詳細は各コマンド仕様をご参照ください。

6.1.3 RF タグ通信コマンド

参照項	コマンド名	コマンド (3 バイト目)	詳細コマンド (5 バイト目)
ISO15693			
7.10.2	Inventory	78h	01h
7.10.3	StayQuiet		02h
7.10.4	ReadSingleBlock		20h
7.10.5	WriteSingleBlock		21h
7.10.6	LockBlock		22h
7.10.7	ReadMultiBlock		23h
7.10.8	WriteMultiBlock		24h
7.10.9	SelectTag		25h
7.10.10	ResetToReady		26h
7.10.11	WriteAFI		27h
7.10.12	LockAFI		28h
7.10.13	WriteDSFID		29h
7.10.14	LockDSFID		2Ah
7.10.15	GetSystemInfo		2Bh
7.10.16	GetMBlockSecSt		2Ch
タカヤ独自			
7.10.17	Inventory2	78h	F0h
7.10.18	ReadBytes		A0h
7.10.19	WriteBytes		A1h
7.10.20	LockBytes		F6h
7.10.21	RDLOOPCmd		F2h
7.10.22	SimpleRead	52h	-
7.10.23	SimpleWrite	4Ah	-
Tag-it HF-I (Texas Instruments) のカスタムコマンド			
7.10.24	Write2Blocks (Tag-it HF-I Plus 専用)	78h	A2h
7.10.25	Lock2Blocks (Tag-it HF-I Plus 専用)		A3h
7.10.26	Kill		A8h
7.10.27	WriteSingleBlockPwd		A9h
my-d (Infineon Technologies) のカスタムコマンド			
7.10.28	Myd_Read	78h	B0h
7.10.29	Myd_Write		B1h
スルーコマンド			
7.10.30	ISO15693ThroughCmd	78h	FFh

6.1.4 ISO/IEC 14443 TypeA 通信コマンド

参照項	コマンド名	コマンド (3 バイト目)	詳細コマンド (5 バイト目)
ISO14443 TypeA 用コマンド ※1			
7.12.1	ActivateIdle	76h	01h
7.12.2	REQA		20h
7.12.3	WUPA		21h
7.12.4	Anticol1		22h
7.12.5	Select1		23h
7.12.6	Anticol2		24h
7.12.7	Select2		25h
7.12.8	Anticol3		26h
7.12.9	Select3		27h
7.12.10	HLTA		29h
NFC Forum Type2 Tag 用コマンド ※1			
7.12.11	ReadNFCT2	76h	28h
7.12.12	WriteNFCT2		2Ah
7.12.13	CompatibilityWrite		2Bh
スルーコマンド ※1			
7.12.14	TypeAThroughCmd	76h	00h
MifareClassic 用コマンド			
※2	MifareInitKey	76h	43h
※2	MifareSetKey		40h
※2	MifareAuthentication		30h
※2	MifareRead		41h
※2	MifareWrite		42h
※2	MifareValue		36h

※1：ISO/IEC 14443 TypeA 対応機種のみサポートしております。

対応機種は「表 1：製品型式とタグ規格対応」をご参照ください。

※2：TR3XM-C106 シリーズでは製品型式に[-MFC]の記載がある機種、および TR3XM-C106F のみサポートしております。コマンドの詳細は別紙「TR3XM 通信プロトコル説明書(MifareClassic コマンド編)」をご参照ください。

6.1.5 ISO/IEC 14443 TypeB 通信コマンド

参照項	コマンド名	コマンド (3 バイト目)	詳細コマンド (5 バイト目)
ISO14443 TypeB 用コマンド			
※1	REQB	79h	01h
※1	WUPB		02h
※1	ATTRIB		04h
※1	HLTB		05h
スルーコマンド			
※1	TypeBThroughCmd	79h	00h

※1：ISO/IEC 14443 TypeB 対応機種のみサポートしております。

対応機種は「表 1：製品型式とタグ規格対応」をご参照ください。

コマンドの詳細は別紙「ISO14443 TypeB 通信プロトコル説明書」をご参照ください。

6.1.6 FeliCa 通信コマンド

参照項	コマンド名	コマンド (3 バイト目)	詳細コマンド (5 バイト目)
FeliCa 用 ※1			
7.13.1	REQC	73h	01h
スルーコマンド ※1			
7.13.2	FeliCaThroughCmd	73h	00h

※1：ISO/IEC18092 対応機種のみサポートしております。

対応機種は「表 1： 製品型式とタグ規格対応」をご参照ください。

6.1.7 EPC 通信コマンド

参照項	コマンド名	コマンド (3 バイト目)	詳細コマンド (5 バイト目)
※1	EPC 自動読取モードパラメータの読み取り	74h	31h
※1	EPC Select コマンドパラメータの読み取り		30h
※1	EPC 自動読取モードパラメータの書き込み		21h
※1	EPC Select コマンドパラメータの書き込み		20h
※1	EPC_Select		13h
※1	EPC_Inventory		10h
※1	EPC_InventoryRead		14h
※1	EPC_Read		15h
※1	EPC_Write		16h
※1	EPC_BlockWrite		1Ah
※1	EPC_Access		19h
※1	EPC_Lock		18h
※1	EPC_Kill		17h
※1	EPC_ChangeConfigWord		1Dh

※1：ISO/IEC18000-3(Mode3)対応機種のみサポートしております。

対応機種は「表 1： 製品型式とタグ規格対応」をご参照ください。

コマンドの詳細は別紙「ISO18000-3M3 通信プロトコル説明書」をご参照ください。

6.2 リーダライタ別コマンド対応表

6.2.1 リーダライタ制御コマンド

参照項	コマンド名	TR3XM-C106 シリーズ	
		S6700 互換 モード	通常モード (初期設定)
7.8.1	エラー情報の読み取り	○	○
7.8.2	パワー状態の読み取り	○	○
7.8.3	使用アンテナ番号の読み取り	○	○
7.8.4	カレント UID の読み取り	○	○
7.8.5	リーダーライタ保存 UID 数の読み取り	○	○
7.8.6	リーダーライタ保存 UID データの 読み取り	○	○
7.8.7	ROM バージョンの読み取り	○	○
7.8.8	RF 送信信号の制御	○	○
7.8.9	パワー状態の制御	○	○
7.8.10	使用アンテナ番号の設定	○	○
7.8.11	カレント UID の設定	○	○
7.8.12	LED の制御	○	○
7.8.13	LED&ブザーの制御	○	○
7.8.14	リスタート	○	○
7.8.15	EEPROM 設定の初期化	○	○
7.8.16	ブザーの制御	○	○

○：対応 —：未対応

6.2.2 リーダライタ設定コマンド

参照項	コマンド名	TR3XM-C106 シリーズ	
		S6700 互換 モード	通常モード (初期設定)
7.9.1	リーダーライタ動作モードの読み取り	○	○
7.9.2	RF タグ動作モードの読み取り	○	○
7.9.3	アンチコリジョンモードの読み取り	○	○
7.9.4	AFI 指定値の読み取り	○	○
7.9.5	RF 送信信号設定の読み取り	○	○
7.9.6	RF タグ通信設定の読み取り	○	○
7.9.7	S6700 互換モード設定の読み取り	○	○
7.9.8	汎用ポート値の読み取り	○	○
7.9.9	拡張ポート値の読み取り	○	○
7.9.10	EEPROM 設定値の読み取り	○	○
7.9.11	自動読取モード設定の読み取り	○	○
7.9.12	カードディテクションモード設定の読み取り	○	○
7.9.13	カードディテクションモードのチューニング	○	○
7.9.14	RSSI 値の読み取り	○	○
7.9.15	リーダーライタ動作モードの書き込み	○	○
7.9.16	RF タグ動作モードの書き込み	○	○
7.9.17	アンチコリジョンモードの書き込み	○	○
7.9.18	AFI 指定値の書き込み	○	○
7.9.19	RF 送信信号設定の書き込み	○	○
7.9.20	RF タグ通信設定の書き込み	○	○
7.9.21	S6700 互換モード設定の書き込み	○	○
7.9.22	汎用ポート値の書き込み	○	○
7.9.23	拡張ポート値の書き込み	○	○
7.9.24	EEPROM 設定値の書き込み	○	○
7.9.25	自動読取モード設定の書き込み	○	○
7.9.26	カードディテクションモード設定の書き込み	○	○

○：対応 －：未対応

6.2.3 RF タグ通信コマンド

参照項	コマンド名	TR3XM-C106 シリーズ	
		S6700 互換 モード	通常モード (初期設定)
ISO15693			
7.10.2	Inventory	○	○
7.10.3	StayQuiet	○	○
7.10.4	ReadSingleBlock	○	○
7.10.5	WriteSingleBlock	○	○
7.10.6	LockBlock	△※2,5	○
7.10.7	ReadMultiBlock	○	○
7.10.8	WriteMultiBlock	○	○
7.10.9	SelectTag	○	○
7.10.10	ResetToReady	○	○
7.10.11	WriteAFI	△※2,5,6	○
7.10.12	LockAFI	△※1,6	○
7.10.13	WriteDSFID	△※4,5	○
7.10.14	LockDSFID	△※1	○
7.10.15	GetSystemInfo	○	○
7.10.16	GetMBlockSecSt	○	○
タカヤ独自			
7.10.17	Inventory2	○	○
7.10.18	ReadBytes	○	○
7.10.19	WriteBytes	○	○
7.10.20	LockBytes	△※3	○
7.10.21	RDLOOPCmd	○	○
7.10.22	SimpleRead	○	○
7.10.23	SimpleWrite	△※3	○
Tag-it HF-I (Texas Instruments) のカスタムコマンド			
7.10.24	Write2Blocks (Tag-it HF-I Plus 専用)	○	○
7.10.25	Lock2Blocks (Tag-it HF-I Plus 専用)	○	○
7.10.26	Kill	○	○
7.10.27	WriteSingleBlockPwd	○	○
my-d (Infineon Technologies) のカスタムコマンド			
7.10.28	Myd_Read	○	○
7.10.29	Myd_Write	○	○
スルーコマンド			
7.10.30	ISO15693ThroughCmd	—	○

○：対応 △：対応(条件付) —：未対応

※1：ICODE SLI シリーズの場合、コマンド成功の場合でも常に NACK 応答を返します。

※2：ICODE SLIX の場合、コマンド成功の場合でも常に NACK 応答を返します。

※3：ICODE SLIX の場合、コマンドは失敗します。

※4：ICODE SLIX の場合、リーダーライタの設定により対応が異なります。

「読み取り動作：1 回読み取り」→ コマンド成功の場合でも常に NACK 応答を返します。

「読み取り動作：連続読み取り」→ コマンドは必ず失敗します。

※5：ICODE SLIX の場合、RF 送信信号設定が「コマンド実行時以外常時 OFF」の時、必ず失敗します。

※6：my-d の場合、コマンド成功の場合でも常に NACK 応答を返します。

6.2.4 ISO/IEC 14443 TypeA 通信コマンド

参照項	コマンド名	TR3XM-C106 シリーズ	
		S6700 互換 モード	通常モード (初期設定)
ISO14443 ※1			
7.12.1	ActivateIdle	○	○
7.12.2	REQA	○	○
7.12.3	WUPA	○	○
7.12.4	Anticoll	○	○
7.12.5	Select1	○	○
7.12.6	Anticoll2	○	○
7.12.7	Select2	○	○
7.12.8	Anticoll3	○	○
7.12.9	Select3	○	○
7.12.10	HLTA	○	○
UltraLight 用コマンド ※1			
7.12.11	ReadNFCT2	○	○
7.12.12	WriteNFCT2	○	○
7.12.13	CompatibilityWrite	○	○
スルーコマンド ※1			
7.12.14	TypeAThroughCmd	○	○
MifareClassic 用コマンド			
※2	MifareInitKey	○	○
※2	MifareSetKey	○	○
※2	MifareAuthentication	○	○
※2	MifareRead	○	○
※2	MifareWrite	○	○
※2	MifareValue	○	○

○：対応 —：未対応

※1：ISO/IEC 14443 TypeA 対応機種のみサポートしております。

対応機種は「表 1：製品型式とタグ規格対応」をご参照ください。

※2：TR3XM-C106 シリーズでは製品型式に[-MFC]の記載がある機種、および TR3XM-C106F のみサポートしております。コマンドの詳細は別紙「TR3XM 通信プロトコル説明書 (MifareClassic コマンド編)」をご参照ください。

6.2.5 ISO/IEC14443 TypeB 通信コマンド

参照項	コマンド名	TR3XM-C106 シリーズ	
		S6700 互換 モード	通常モード (初期設定)
ISO14443 TypeB 用コマンド			
※1	REQB	○	○
※1	WUPB	○	○
※1	ATTRIB	○	○
※1	HLTB	○	○
スルーコマンド			
※1	TypeBThroughCmd	○	○

○：対応 ー：未対応

※1：ISO/IEC 14443 TypeB 対応機種のみがサポートしております。

対応機種は「表 1：製品型式とタグ規格対応」をご参照ください。

コマンドの詳細は別紙「ISO14443 TypeB 通信プロトコル説明書」をご参照ください。

6.2.6 FeliCa 通信コマンド

参照項	コマンド名	TR3XM-C106 シリーズ	
		S6700 互換 モード	通常モード (初期設定)
FeliCa ※1			
7.13.1	REQC	○	○
スルーコマンド ※1			
7.13.2	FeliCaThroughCmd	○	○

○：対応 ー：未対応

※1：ISO/IEC18092 対応機種のみサポートしております。

対応機種は「表 1：製品型式とタグ規格対応」をご参照ください。

6.2.7 EPC 通信コマンド

参照項	コマンド名	TR3XM-C106 シリーズ	
		S6700 互換 モード	通常モード (初期設定)
※1	EPC 自動読取モードパラメータの 読み取り	○	○
※1	EPC Select コマンドパラメータの 読み取り	○	○
※1	EPC 自動読取モードパラメータの 書き込み	○	○
※1	EPC Select コマンドパラメータの 書き込み	○	○
※1	EPC_Select	○	○
※1	EPC_Inventory	○	○
※1	EPC_InventoryRead	○	○
※1	EPC_Read	○	○
※1	EPC_Write	○	○
※1	EPC_BlockWrite	○	○
※1	EPC_Access	○	○
※1	EPC_Lock	○	○
※1	EPC_Kill	○	○
※1	EPC_ChangeConfigWord	○	○

○：対応 —：未対応

※1：ISO/IEC18000-3(Mode3)対応機種のみサポートしております。

対応機種は「表 1：製品型式とタグ規格対応」をご参照ください。

コマンドの詳細は別紙「ISO18000-3M3 通信プロトコル説明書」をご参照ください。

6.3 RF タグ別コマンド対応表

6.3.1 動作確認済タグ

以下の規格に準拠した RF タグの動作を確認しています。

- ・ ISO/IEC 15693、ISO/IEC18000-3 (Mode1)
- ・ ISO/IEC14443TypeA
- ・ ISO/IEC14443TypeB
- ・ FeliCa (ISO/IEC18092 212kbps PassiveMode)
- ・ ISO/IEC18000-3 (Mode3)

規格	動作確認済タグ
ISO/IEC15693 ISO/IEC18000-3(Mode1) ※1	Tag-it HF-I Plus／Tag-it HF-I Standard／Tag-it HF-I Pro ICODE SLI／ICODE SLI-S／ICODE SLI-L ICODE SLIX(※7)／ICODE SLIX-S(※7)／ICODE SLIX-L(※7) ICODE SLIX2／NTAG5(※2) SRF55V10P my-d vicinity plain SRF55V02P my-d vicinity plain SRF55V01P my-d Light MB89R118C／MB89R119B／MB89R112 (※4) M24LR04E-R／M24LR16E-R／M24LR64E-R／LRIS64K ST25DV04K／ST25DV16K／ST25DV64K
ISO/IEC14443 TypeA	MIFARE Ultralight／MIFARE Ultralight EV1 MIFARE Classic／MIFARE DESFire (※2)(※3) my-d move NTAG203／NTAG213／NTAG215／NTAG216／NTAG213TT SIC43NT NFC Forum Type2 Tag (※2)
ISO/IEC14443 TypeB	IC 運転免許証／マイナンバーカード その他ファイルフォーマットが分かる TypeB カード
ISO/IEC18092 (212kbps, Passive Mode)	FeliCa (※2) FeliCa Lite FeliCa Lite-S NFC Forum Type3 Tag (※2)
ISO/IEC18000-3(Mode3)	ICODE ILT-M

※1：RF タグのカスタムコマンドについては別紙「カスタムコマンド通信プロトコル説明書 (ISO15693ThroughCmd 編)」をご参照ください。

※2：セキュリティ機能は上位側の処理で対応可能なはずだが動作未確認

※3：一部のコマンドのみ確認済み。（リード、ライト、鍵認証（上位処理）等）

※4：MB89R シリーズは下表に示す通り、個別にリーダライタ設定が必要です。

タグ種別	動作仕様	
	サブキャリア	1Block 当たりのバイト数
MB89R118C	シングルサブキャリア(ASK)	8
MB89R119B		4
MB89R112A/B		32 (※5)

※5：MB89R112 は 1 ブロック=32 バイトの為、ユーザエリアへのアクセスは ISO15693ThroughCmd を使用します。(リーダライタ設定はサブキャリア ASK 設定のみ)

[参照]カスタムコマンド通信プロトコル説明書(ISO15693ThroughCmd 編)

<設定方法>

コマンド、または、ユーティリティツール(TR3RWManager)で設定します。

タグ種別	リーダライタ設定	設定方法(コマンド／ツール)
MB89R118C MB89R119B	サブキャリア (ASK 変調)	RF タグ動作モードの書き込み(7.9.15 項)
		リーダライタ EEPROM 設定
	1Block 当たりのバイト数 (4/8 バイト)	EEPROM 設定値の書き込み(7.9.23 項)
		リーダライタ EEPROM 設定
MB89R118C	サブキャリア 1Block 当たりのバイト数	RF タグ通信設定の書き込み(7.9.19 項) 設定 2 項目を一括処理する MB89R116/118C 専用のコマンドです
MB89R112A/B (※6)	サブキャリア (ASK 変調)	RF タグ動作モードの書き込み(7.9.15 項)
		リーダライタ EEPROM 設定

※6：MB89R112 は 1 ブロック=32 バイトの為、サブキャリア ASK 設定のみ

※7：S6700 互換モードの ICODE SLIX/SLIX-S/SLIX-L 対応について

TR3XM-C106 シリーズを「S6700 互換モード」でご使用される場合、ICODE SLIX/SLIX-S/SLIX-L を標準サポートしていません。

ただし、以下に示す方法で動作確認を実施しておりますのでご参照ください。

なお、コマンド別の動作状況は 6.3.3 項のコマンド別対応表をご参照ください。

[a]上位側のソフト修正は伴わないが事前評価を推奨する対応

ユーティリティツール (TR3RWManager) を使用して、リーダライタ内部のタイムアウト時間を変更し、ICODE SLIX/SLIX-S/SLIX-L の処理がタイムアウトしないようにします。

ただし、本対応策を行うと、全ての Write 系コマンドの処理が約 5ms (※) 遅くなりますので、事前にご評価いただくことを推奨します。

※リトライ設定、扱うデータ量によっては処理時間の増加が考えられます。

TR3RWManager による設定手順は以下の通りです。

[設定手順]

TR3RWManager 起動後、リーダライタ EEPROM 設定→EEPROM 詳細設定→各種設定 1

「SLIX サポート：有効」選択→「設定」ボタン押下

[b]上位側のソフト修正を伴う対応 (※オプションフラグの変更)

SLI と ICODE SLIX/SLIX-S/SLIX-L が混在しない (運用等で確実に使い分けできる) 場合は、Write 系コマンドをオプションフラグ=1 に変更して実行することで、ICODE SLIX/SLIX-S/SLIX-L の制御を行うことが可能です。

オプションフラグ=1 で実行すると、コマンド対応表(6.3.3 項)で示した「LockBytes」および、「SimpleWrite」以外の△表示のコマンドは、成功すれば ACK 応答となります。

ICODE SLIX/SLIX-S/SLIX-L はオプションフラグ 0、1 のどちらもサポートしていますが、SLI はオプションフラグ=0 しかサポートしていないため、オプションフラグ=1 固定で両方の RF タグをサポートすることは出来ません。

RF タグの種類を予め識別し、コマンドにセットするパラメータを使い分ける必要があります。なお、UID により ICODE SLIX/SLIX-S/SLIX-L と SLI を識別することは可能です。

6.3.2 Tag-it HF-I シリーズ

参照項	コマンド名	Tag-it HF-I シリーズ		
		Plus	Standard	Pro
ISO15693				
7.10.2	Inventory	○	○	○
7.10.3	StayQuiet	○	○	○
7.10.4	ReadSingleBlock	○	○	○
7.10.5	WriteSingleBlock	○	○	○
7.10.6	LockBlock	○	○	○
7.10.7	ReadMultiBlock	○	—	—
7.10.8	WriteMultiBlock	—	—	—
7.10.9	SelectTag	○	—	—
7.10.10	ResetToReady	○	—	—
7.10.11	WriteAFI	○	—	—
7.10.12	LockAFI	○	—	—
7.10.13	WriteDSFID	○	—	—
7.10.14	LockDSFID	○	—	—
7.10.15	GetSystemInfo	○	—	—
7.10.16	GetMBlockSecSt	○	—	—
タカヤ独自				
7.10.17	Inventory2	○	○	○
7.10.18	ReadBytes	○	○	○
7.10.19	WriteBytes	○	○	○
7.10.20	LockBytes	○	○	○
7.10.21	RDLOOPCmd	○	○	○
7.10.22	SimpleRead	○	○	○
7.10.23	SimpleWrite	○	○	○
Tag-it HF-I (Texas Instruments) のカスタムコマンド				
7.10.24	Write2Blocks	○	—	—
7.10.25	Lock2Blocks	○	—	—
7.10.26	Kill	—	—	○
7.10.27	WriteSingleBlockPwd	—	—	○

○：対応 —：未対応

6.3.3 ICODE SLI シリーズ

参照項	コマンド名	ICODE SLI シリーズ						
		SLI	SLI-S	SLI-L	SLIX	SLIX-S	SLIX-L	SLIX2
ISO15693								
7.10.2	Inventory	○	○	○	○	○	○	○
7.10.3	StayQuiet	○	○	○	○	○	○	○
7.10.4	ReadSingleBlock	○	○	○	○	○	○	○
7.10.5	WriteSingleBlock	○	○	○	○	○	○	○
7.10.6	LockBlock	○	○	○	△※1,3	△※1,3	△※1,3	○
7.10.7	ReadMultiBlock	○	—	—	○	—	—	○
7.10.8	WriteMultiBlock	—	—	—	—	—	—	—
7.10.9	SelectTag	○	○	○	○	○	○	○
7.10.10	ResetToReady	○	○	○	○	○	○	○
7.10.11	WriteAFI	○	○	○	△※1,3	△※1,3	△※1,3	○
7.10.12	LockAFI	△※1	△※1	△※1	△※1	△※1	△※1	△※1
7.10.13	WriteDSFID	○	○	○	△※2,3	△※2,3	△※2,3	○
7.10.14	LockDSFID	△※1	△※1	△※1	△※1	△※1	△※1	△※1
7.10.15	GetSystemInfo	○	○	○	○	○	○	○
7.10.16	GetMBlockSecSt	○	—	—	○	—	—	○
タカヤ独自								
7.10.17	Inventory2	○	○	○	○	○	○	○
7.10.18	ReadBytes	○	○※6	○	○	○※6	○	○※6
7.10.19	WriteBytes	○	○※6	○	○	○※6	○	○※6
7.10.20	LockBytes	○	○	○	△※4	△※4	△※4	○
7.10.21	RDLOOPCmd	○	△※5	○	○	△※5	○	△※5
7.10.22	SimpleRead	○	△※5	○	○	△※5	○	△※5
7.10.23	SimpleWrite	○	△※5	○	△※4	△※4,5	△※4	△※5

○：対応(有効) △：対応(条件付) —：未対応

※1：リーダライタを S6700 互換モード設定とした場合、コマンド成功の場合でも常に NACK 応答を返します。(→6.3.1 動作確認済タグ※2 参照)

※2：リーダライタを S6700 互換モード設定とした場合、リーダライタの設定によりコマンド対応が異なります。

「読み取り動作：1 回読み取り」→ コマンド成功の場合でも常に NACK 応答を返します。

「読み取り動作：連続読み取り」→ コマンドは失敗します。

※3：リーダライタが S6700 互換モード設定において、RF 送信信号設定が「コマンド実行時以外 常時 OFF」の場合、コマンドは失敗します。

※4：リーダライタを S6700 互換モード設定とした場合、コマンドは失敗します。

(→6.3.1 動作確認済タグ※2 参照)

※5：SLI-S/SLIX-S/SLIX2 のユーザエリアにプロテクトがかけられている場合、RDLOOP モード、オートスキャンモード、トリガモード、ポーリングモード、SimpleWrite コマンド、SimpleRead コマンド、RDLOOPCmd コマンドは正常動作しません。

※6：SLI-S/SLIX-S/SLIX2 のユーザエリアにプロテクトがかけられている場合、ReadBytes コマンド、WriteBytes コマンドを実行する際は事前にパスワード認証を行う必要があります。

TR3XM-C106 シリーズでは、併せて、リーダライタの動作モードを「読み取り動作：1 回読み取り」に設定しておくか、コマンドを UID 指定で実行する必要があります。

ICODE SLI シリーズのカスタムコマンドについては ISO15693ThroughCmd を使用して対応可能です。

詳細は別紙「カスタムコマンド取扱説明書 (ISO15693ThroughCmd 編)」をご参照ください。

RF タグコマンド名	I-CODE SLI シリーズ						
	SLI	SLI-S	SLI-L	SLIX	SLIX-S	SLIX-L	SLIX2
ICODE SLI シリーズ カスタムコマンド							
Inventory Read ※7	●	—	—	●	—	—	—
Inventory Read SLIX2 ※7	—	—	—	—	—	—	●
Fast Inventory Read ※7	●	—	—	●	—	—	—
Fast Inventory Read SLIX2 ※7	—	—	—	—	—	—	●
Inventory Page Read ※7	—	●	●	—	●	●	—
Fast Inventory Page Read ※7	—	●	●	—	●	●	—
Set EAS	●	●	●	●	●	●	●
Reset EAS	●	●	●	●	●	●	●
Lock EAS	●	●	●	●	●	●	●
EAS Alarm	●	●	●	●	●	●	●
Password Protect EAS	—	●	●	—	—	—	—
Password Protect EAS/AFI	—	—	—	●	●	●	●
Write EAS ID	—	●	●	—	●	●	●
Get NXP System Information	—	—	—	—	—	—	●
Get Random Number	—	●	●	●	●	●	●
Set Password	—	●	●	●	●	●	●
Write Password	—	●	●	●	●	●	●
Lock Password	—	●	●	●	●	●	●
Protect Page SLI-S/SLIX-S	—	●	—	—	●	—	—
Protect Page SLIX2	—	—	—	—	—	—	●
64bit Password Protection	—	●	—	—	●	—	●
LockPageProtectionCondition SLI-S/SLIX-S	—	●	—	—	●	—	—
LockPageProtectionCondition SLIX2	—	—	—	—	—	—	●
Get Multiple Block Protection Status	—	●	—	—	●	—	—
Destroy SLI-S/SLI-L	—	●	●	—	—	—	—
Destroy SLIX-S/ SLIX-L/SLIX2	—	—	—	—	●	●	●
Enable Privacy SLI-S/SLI-L	—	●	●	—	—	—	—
EnablePrivacy SLIX-S/ SLIX-L/SLIX2	—	—	—	—	●	●	●
Stay Quiet Persistent	—	—	—	—	—	—	●
Read Signature	—	—	—	—	—	—	●

● : スルーコマンドにて対応 — : RF タグ非対応

※7 : アンチコリジョン処理は未対応

※ : SLI-S/SLIX-S/SLIX2 のユーザエリアにプロテクトがかけられている場合、RDLOOP モード、オートスキャンモード、トリガーモード、ポーリングモード、SimpleWrite コマンド、SimpleRead コマンド、RDLOOPCmd コマンドは正常動作しません。

※ : SLI-S/SLIX-S/SLIX2 のユーザエリアにプロテクトがかけられている場合、ReadBytes コマンド、WriteBytes コマンドを実行する際は事前にパスワード認証を行う必要があります。

TR3XM シリーズでは、併せて、リーダライタの動作モードを「読み取り動作 : 1 回読み取り」に設定しておくか、コマンドを UID 指定で実行する必要があります。

※ : スルーコマンド対応のコマンド (●) については、別紙「カスタムコマンド取扱説明書 (ISO15693ThroughCmd 編)」をご参照ください。

6.3.4 my-d シリーズ

参照項	コマンド名	my-d シリーズ	
		SRF55V02P/10P	SRF55V01P
ISO15693			
7.10.2	Inventory	○	○
7.10.3	StayQuiet	○	○
7.10.4	ReadSingleBlock	○ (4 バイト)	○ (4 バイト)
7.10.5	WriteSingleBlock	○ (4 バイト)	○ (4 バイト)
7.10.6	LockBlock	○	-
7.10.7	ReadMultiBlock	○ (4 バイト)	-
7.10.8	WriteMultiBlock	-	-
7.10.9	SelectTag	○	○
7.10.10	ResetToReady	○ ※1	○
7.10.11	WriteAFI	△ ※2	△ ※2
7.10.12	LockAFI	△ ※2	△ ※2
7.10.13	WriteDSFID	-	-
7.10.14	LockDSFID	-	-
7.10.15	GetSystemInfo	-	-
7.10.16	GetMBlockSecSt	○	-
タカヤ独自			
7.10.17	Inventory2	○	○
7.10.18	ReadBytes	○	○
7.10.19	WriteBytes	○	○
7.10.20	LockBytes	○ ※3	-
7.10.21	RDLOOPCmd	○	○
7.10.22	SimpleRead	○	○
7.10.23	SimpleWrite	○	○
my-d (Infineon Technologies) カスタムコマンド			
7.10.28	Myd_Read	○ (8 バイト)	-
7.10.29	Myd_Write	○ (8 バイト)	-

○：対応 △：対応(条件付) -：未対応

※1：UID を指定して実行することが必須のコマンドです。

※2：リーダライタを S6700 互換モード設定とした場合、コマンド成功の場合でも常に NACK 応答を返します。

※3：EEPROM の設定（アドレス 48 bit5：my-d 自動識別時のアクセス方式）において、
「ISO15693 オプションコマンド」設定時のみ正常に動作します。
設定方法については、「8.10 my-d 自動識別時のアクセス方式」をご参照ください。

6.3.5 MB89R シリーズ

参照項	コマンド名	MB89R シリーズ		
		MB89R118C	MB89R119B	MB89R112
ISO15693				
7.10.2	Inventory	○	○	○
7.10.3	StayQuiet	○	○	○
7.10.4	ReadSingleBlock	○	○	● ※3
7.10.5	WriteSingleBlock	○	○	● ※3
7.10.6	LockBlock	○	○	○
7.10.7	ReadMultiBlock	○ ※1	○ ※1	● ※1,3
7.10.8	WriteMultiBlock	○ ※2	○ ※2	—
7.10.9	SelectTag	○	○	○
7.10.10	ResetToReady	○	○	○
7.10.11	WriteAFI	○	○	○
7.10.12	LockAFI	○	○	○
7.10.13	WriteDSFID	○	○	○
7.10.14	LockDSFID	○	○	○
7.10.15	GetSystemInfo	○	○	○
7.10.16	GetMBlockSecSt	○	○	○
タカヤ独自				
7.10.17	Inventory2	○	○	○
7.10.18	ReadBytes	○	—	—
7.10.19	WriteBytes	○	—	—
7.10.20	LockBytes	○	—	—
7.10.21	RDLOOPCmd	○	—	—
7.10.22	SimpleRead	○	—	—
7.10.23	SimpleWrite	○	—	—

○：対応 ●：スルーコマンドで対応 —：未対応

※1 ReadMultiBlock（一度に読み取り可能な最大ブロック数）

タグ種別	タグ仕様	リーダライタ制限
MB89R118C	最大 2 ブロック	最大 2 ブロック
MB89R119B	最大 64 ブロック	最大 63 ブロック（Lock 情報無し） 最大 50 ブロック（Lock 情報有り）
MB89R112	最大 256 ブロック	最大 7 ブロック（Lock 情報無し） 最大 7 ブロック（Lock 情報有り）

※2 WriteMultiBlock（一度に書き込み可能な最大ブロック数）

タグ種別	タグ仕様	リーダライタ制限
MB89R118C MB89R119B	最大 2 ブロック	最大 2 ブロック

※3：MB89R112 は「32 バイト/1Block」の為、ISO15693ThroughCmd を使用します。

別紙「カスタムコマンド通信プロトコル説明書（ISO15693ThroughCmd 編）」をご参照ください。

MB89R シリーズのカスタムコマンドについては ISO15693ThroughCmd を使用して対応可能です。
詳細は別紙「カスタムコマンド取扱説明書（ISO15693ThroughCmd 編）」をご参照ください。

RF タグコマンド名	MB89R シリーズ		
	MB89R118C	MB89R119B	MB89R112
MB89R シリーズ カスタムコマンド			
EAS	●	●	—
Write EAS	●	●	—
Read Multiple Blocks Unlimited	●	—	—
Kill ※6	—	●	—
Fast Inventory ※4	●	●	●
Refresh System Blocks ※5	—	—	●
Fast Read Single Block	●	—	●
Fast Write Single Block ※6	●	—	●
Fast Read Multiple Blocks	●	●	●
Fast Write Multiple Blocks ※6	●	●	—
Fast Write EAS ※6	●	—	—
Fast Read Multiple Blocks Unlimited	●	—	—
ReadLock Block	—	—	●
Get Multiple ReadLock status	—	—	●

●：スルーコマンドにて対応 —：RF タグ非対応

※4：アンチコリジョン処理は未対応

※5：本コマンドを実行する場合、必ず「Option_flag=1」とする必要があります。
「Option_flag=0」の場合、処理に成功しても必ず NACK 応答が返ります。

※6：本コマンドを実行する場合、必ず「Option_flag=0」とする必要があります。
「Option_flag=1」の場合、処理に成功しても必ず NACK 応答が返ります。

6.3.6 STMicro 社製 RFID

参照項	コマンド名	STMicro 社製 RFID				
		M24LR 04E-R	M24LR 16E-R/64E-R	LRIS 64K	ST25DV 04K	ST25DV 16K/64K
ISO15693						
7.10.2	Inventory	○	○	○	○	○
7.10.3	StayQuiet	○ ※1	○ ※1	○ ※1	○ ※1	○ ※1
7.10.4	ReadSingleBlock	○	● ※3	● ※3	○	○/● ※4
7.10.5	WriteSingleBlock	○	● ※3	● ※3	○	○/● ※4
7.10.6	LockBlock	—	—	—	○	○/● ※4
7.10.7	ReadMultiBlock	○	● ※3	● ※3	○	○/● ※4
7.10.8	WriteMultiBlock	—	—	—	○	○/● ※4
7.10.9	SelectTag	○ ※1	○ ※1	○ ※1	○ ※1	○ ※1
7.10.10	ResetToReady	○ ※2	○ ※2	○ ※2	○ ※2	○ ※2
7.10.11	WriteAFI	○	○	○	○	○
7.10.12	LockAFI	○	○	○	○	○
7.10.13	WriteDSFID	○	○	○	○	○
7.10.14	LockDSFID	○	○	○	○	○
7.10.15	GetSystemInfo	○ ※2	● ※2,3	● ※2,3	○ ※2	○ ※2
7.10.16	GetMBlockSecSt	○ ※2	● ※2,3	● ※2,3	○ ※2	○ ※2
タカヤ独自						
7.10.17	Inventory2	○	○	○	○	○
7.10.18	ReadBytes	○ ※5	—	—	○ ※5	○ ※5
7.10.19	WriteBytes	○ ※5	—	—	○ ※5	○ ※5
7.10.20	LockBytes	○ ※5	—	—	○ ※5	○ ※5
7.10.21	RDLOOPCmd	○ ※5	—	—	○ ※5	○ ※5
7.10.22	SimpleRead	○ ※5	—	—	○ ※5	○ ※5
7.10.23	SimpleWrite	○ ※5	—	—	○ ※5	○ ※5

○：対応 ●：スルーコマンドで対応 △：対応(条件付) —：未対応

- ※1 : UID を指定して実行することが必須のコマンドです。
- ※2 : 本コマンドを実行する場合、必ず「Option_flag=0」とする必要があります。
- ※3 : Protocol_extension_flag の値でレスポンスフォーマットが変わる為、ISO15603ThroughCmd を使用します。
- ※4 : Block255 までは本コマンドで対応可能です。
Block256 以降の処理は、ISO15693ThroughCmd を使用して Extended コマンドを実行することで対応可能です。
- ※5: 処理の対象ブロックが 255 まで、かつ各コマンドの処理可能な最大バイト数/ブロック数まで、かつ対象ブロックがパスワードプロテクト無効の場合に対応可能です。
- ※ : スルーコマンド対応のコマンド (●) については、別紙「カスタムコマンド取扱説明書 (ISO15693ThroughCmd 編)」をご参照ください。

STMicro 社製 RFID がサポートする ISO15693 のオプションコマンドの一部、およびカスタムコマンドについては ISO15693ThroughCmd を使用して対応可能です。

詳細は別紙「カスタムコマンド取扱説明書 (ISO15693ThroughCmd 編)」をご参照ください。

RF タグコマンド名	STMicro 社製 RFID				
	M24LR 04E-R	M24LR 16E-R/64E-R	LRIS 64K	ST25DV 04K	ST25DV 16K/64K
ISO15693 オプションコマンド (ISO15693ThroughCmd で対応可能)					
Extended Read Single Block	—	—	—	●	●
Extended Write Single Block	—	—	—	●	●
Extended Lock Block	—	—	—	●	●
Extended Read Multiple Block	—	—	—	●	●
Extended Write Multiple Block	—	—	—	●	●
Extended Get System Info ※1	—	—	—	●	●
Extended Get Multiple Block Security Status ※1	—	—	—	●	●
STMicro 社製 RFID カスタムコマンド					
ReadCfg ※1	●	●	—	—	—
WriteEHCfg	●	●	—	—	—
SetRstEHEn ※1	●	●	—	—	—
CheckEHEn ※1	●	●	—	—	—
WriteDOCfg	●	●	—	—	—
Write-sector Password	●	●	●	—	—
Lock-sector (Lock-SectorPassword : LIRS64K)	●	●	●	—	—
Present-sector Password	●	●	●	—	—
Read Configuration ※1	—	—	—	●	●
Write Configuration	—	—	—	●	●
Manage GPO ※1	—	—	—	●	●
Write Message ※1	—	—	—	●	●
Read Message Length ※1	—	—	—	●	●
Read Message ※1	—	—	—	●	●
Read Dynamic Configuration ※1	—	—	—	●	●
Write Dynamic Configuration ※1	—	—	—	●	●
Write Password	—	—	—	●	●
Present Password ※1	—	—	—	●	●
Fast Read Single Block	●	●	●	●	●
Fast Read Multiple Blocks	●	●	●	●	●
Fast Extended Read Single Block	—	—	—	●	●
Fast Extended Read Multiple Blocks	—	—	—	●	●
Fast Write Message ※1	—	—	—	●	●
Fast Read Message Length ※1	—	—	—	●	●
Fast Read Message ※1	—	—	—	●	●
Fast Read Dynamic Configuration ※1	—	—	—	●	●
Fast Write Dynamic Configuration ※1	—	—	—	●	●
Fast inventory Initiated ※1,2	●	●	●	—	—
Fast Initiate ※2	●	●	●	—	—
Inventory Initiated ※1,2	●	●	●	—	—
Initiate ※2	●	●	●	—	—

● : スルーコマンドにて対応 — : RF タグ非対応

- ※1：本コマンドを実行する場合、必ず「Option_flag=0」とする必要があります。
- ※2：アンチコリジョン処理は未対応

第7章 コマンドフォーマット

本章では、各コマンドのフォーマットについて説明します。

7.1 連続インベントリモード

RF タグの UID (ISO15693 準拠の RF タグのみ) を、上位機器とは非同期で繰り返し読み取るモードです。

連続インベントリモードについては、「2.4 連続インベントリモード」もご参照ください。

[レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	64h
データ長	1	08h
データ部	8	<u>UID</u> 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[レスポンス例]

- レスポンス
02 00 64 08 82 87 BB 01 00 00 07 E0 03 1D 0D

7.2 RDLOOP モード

RF タグの UID データ (ISO15693 準拠の RF タグのみ)、指定したユーザエリアのデータを、上位機器とは非同期で繰り返し読み取るモードです。

RDLOOP モードについては、「2.5 RDLOOP モード」もご参照ください。

[レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Ch
データ長	1	8 + n ※ n : 読み取りバイト数 (01h～)
データ部	8	UID 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
	n	読み取りデータ ※ n : 読み取りバイト数 (01h～) 1byte 目 : 最下位バイト (LSB) nbyte 目 : 最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[レスポンス例]

- レスポンス

02 00 4C 0C 82 87 BB 01 00 00 07 E0 31 32 33 34 03 D3 0D

[読み取り可能な最大バイト数]

RF タグ	読み取り可能な最大バイト数
Tag-it HF-I Plus	247
Tag-it HF-I Standard	44 (※)
Tag-it HF-I Pro	48 (※)
ICODE SLI	112
ICODE SLI-S/SLIX-S	160
ICODE SLI-L/SLIX-L	32
ICODE SLIX	112
ICODE SLIX2	247
my-d SRF55V02P	247
my-d SRF55V10P	247
my-d SRF55V01P (my-d Light)	60 (※)
MB89R118C	247

※ 読み取りデータの中には、RF タグのサービス領域も含まれます。

Tag-it HF-I Standard)

ユーザ領域 : 32 バイト サービス領域 : 12 バイト 計 44 バイト

Tag-it HF-I Pro)

ユーザ領域 : 32 バイト サービス領域 : 16 バイト 計 48 バイト

my-d SRF55V01P)

ユーザ領域 : 52 バイト サービス領域 : 8 バイト 計 60 バイト

7.3 オートスキャンモード

SimpleWrite で書き込まれた TR3 シリーズ独自フォーマットのデータを、上位機器とは非同期で繰り返し読み取るモードです。

オートスキャンモードについては、「2.6 オートスキャンモード」もご参照ください。

オートスキャンモードは、リーダライタ動作モード設定（項目：送信データ）の内容によって、リーダライタからのレスポンスが異なります。

送信データ	リーダライタからのレスポンス
ユーザデータのみ	[レスポンス]（送信データ：ユーザデータのみ）に記載
ユーザデータ + UID	[レスポンス]（送信データ：ユーザデータ + UID）に記載

[レスポンス]（送信データ：ユーザデータのみ）

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	44h
データ長	1	n ※ n：ユーザデータ長
データ部	n	ユーザデータ（SimpleWrite で書き込まれたデータ）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[レスポンス例]（送信データ：ユーザデータのみ）

- レスポンス
02 00 44 04 31 32 33 34 03 17 0D

[レスポンス]（送信データ：ユーザデータ + UID）

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	64h
データ長	1	n + 8 ※ n：ユーザデータ長
データ部	8	UID 1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
	1	ユーザデータ（SimpleWrite で書き込まれたデータ）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[レスポンス例]（送信データ：ユーザデータ + UID）

- レスポンス
02 00 64 0C 61 87 BB 01 00 00 07 E0 31 32 33 34 03 CA 0D

7.3.1 SimpleWrite とオートスキャンモードの関係

SimpleWrite は、TR3 独自のデータフォーマットを用いてデータを書き込むコマンドです。

TR3 独自のデータフォーマットは、

- ・ ヘッダ情報 (4 バイト)
- ・ ユーザデータ (任意)
- ・ フッタ情報 (2 バイト)
- ・ データ長 (ヘッダ情報・データ・フッタ情報の合計バイト数)

から構成されています。

オートスキャンモードは、SimpleWrite で書き込まれたデータを読み取る動作モードです。

オートスキャンモードで動作するリーダライタは、

- ① データ長の読み取り
- ② ヘッダ情報・データ・フッタ情報の読み取り
- ③ ヘッダ情報の解析
- ④ フッタ情報の解析
- ⑤ データの準備

リーダライタ動作モード設定 (項目: 送信データ) の内容が「ユーザデータ + UID」である場合は、データに UID を付加します。

の順に処理を行い、データを上位機器へ送信します。

※ 注意事項. データ長の値が 0 (00h)

上記①において、データ長の値が 0 (00h) である場合は、②～④をスキップします。

このため、リーダライタ動作モード設定 (項目: 送信データ) の内容が「ユーザデータ」の場合は、オートスキャンモードでデータを読み取ることはできません。

リーダライタ動作モード設定 (項目: 送信データ) の内容が「ユーザデータ + UID」の場合は、UID のみが含まれたレスポンスが返されます。

⇒SimpleWrite で書き込まれていない RF タグにおいても、本条件 (データ長 0) に限り、リーダライタからのレスポンスが返されます。

7.3.2 Tag-it HF-I Plus

ユーザ領域のブロック数 : 64 ブロック
 ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
 DSFID 領域 : あり

SimpleWrite で「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みが行われている場合、RF タグのメモリ内は下表のように構成されています。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	ヘッダ情報				ユーザ 領域
1	34h	33h	32h	31h	
2	38h	37h	36h	35h	
3	**	**	フッタ情報		
4	**	**	**	**	
5	**	**	**	**	
	**				
63	**	**	**	**	
				データ長 (0Eh)	DSFID

DSFID 領域に、ヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれています。
 DSFID 領域の値が 0 (00h) の場合、リーダーライタは下表のように動作します。

リーダーライタ動作モード設定 (項目: 送信データ)	リーダーライタの動作
ユーザデータのみ	レスポンスを返しません。
ユーザデータ + UID	UID のみを含んだレスポンスを返します。

〔読み取り可能なユーザデータの最大バイト数〕

リーダーライタ動作モード設定 (項目: 送信データ) の値が、
 「ユーザデータのみ」である場合は、

SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数と等しい値となります。

「ユーザデータ + UID」である場合は、

① SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数

② 255 (レスポンスのデータ部に含むことのできるデータの最大値) - 8 (UID のバイト数)

のうち、より小さい値となります。

リーダーライタ動作モード (項目: 送信データ)			読み取り可能なユーザデータの最大バイト数
ユーザデータのみ			249
ユーザデータ + UID	①の値	249	247
	②の値	247	

※ SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数については、「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

7.3.3 Tag-it HF-I Standard／Tag-it HF-I Pro

ユーザ領域のブロック数 : 8 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
DSFID 領域 : なし

SimpleWrite で「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みが行われている場合、RF タグのメモリ内は下表のように構成されています。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	**	**	**	データ長 (0Eh)	ユーザ 領域
1	ヘッダ情報				
2	34h	33h	32h	31h	
3	38h	37h	36h	35h	
4	**	**	フッタ情報		
5	**	**	**	**	
6	**	**	**	**	
7	**	**	**	**	

ブロック 0 の Byte0 に、ヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれています。
ブロック 0 の Byte0 の値が 0 (00h) の場合、リーダライタは下表のように動作します。

リーダライタ動作モード設定（項目：送信データ）	リーダライタの動作
ユーザデータのみ	レスポンスを返しません。
ユーザデータ + UID	UID のみを含んだレスポンスを返します。

〔読み取り可能なユーザデータの最大バイト数〕

リーダライタ動作モード設定（項目：送信データ）の値が、
「ユーザデータのみ」である場合は、
SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数と等しい値となります。

「ユーザデータ + UID」である場合は、

- ① SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数
- ② 255（レスポンスのデータ部に含むことのできるデータの最大値） - 8（UID のバイト数）
のうち、より小さい値となります。

リーダライタ動作モード（項目：送信データ）			読み取り可能なユーザデータの最大バイト数
ユーザデータのみ			22
ユーザデータ + UID	①の値	22	22
	②の値	247	

※ SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数については、「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

7.3.4 ICODE SLI/ICODE SLIX

ユーザ領域のブロック数 : 28 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
DSFID 領域 : あり

SimpleWrite で「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みが行われている場合、RF タグのメモリ内は下表のように構成されています。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	ヘッダ情報				ユーザ 領域
1	34h	33h	32h	31h	
2	38h	37h	36h	35h	
3	**	**	フッタ情報		
4	**	**	**	**	
5	**	**	**	**	
	**				
27	**	**	**	**	
				データ長 (0Eh)	DSFID

DSFID 領域に、ヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれています。
DSFID 領域の値が 0 (00h) の場合、リーダライタは下表のように動作します。

リーダライタ動作モード設定 (項目: 送信データ)	リーダライタの動作
ユーザデータのみ	レスポンスを返しません。
ユーザデータ + UID	UID のみを含んだレスポンスを返します。

[読み取り可能なユーザデータの最大バイト数]
リーダライタ動作モード設定 (項目: 送信データ) の値が、
「ユーザデータのみ」である場合は、
SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数と等しい値となります。

「ユーザデータ + UID」である場合は、
① SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数
② 255 (レスポンスのデータ部に含むことのできるデータの最大値) - 8 (UID のバイト数)
のうち、より小さい値となります。

リーダライタ動作モード (項目: 送信データ)	読み取り可能なユーザデータの最大バイト数
ユーザデータのみ	106
ユーザデータ + UID	①の値 106
	②の値 247

※ SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数については、「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

7.3.5 ICODE SLI-S/ICODE SLIX-S

ユーザ領域のブロック数 : 40 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
DSFID 領域 : あり

SimpleWrite で「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みが行われている場合、RF タグのメモリ内は下表のように構成されています。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	ヘッダ情報				ユーザ 領域
1	34h	33h	32h	31h	
2	38h	37h	36h	35h	
3	**	**	フッタ情報		
4	**	**	**	**	
5	**	**	**	**	
	**				
39	**	**	**	**	
					DSFID
				データ長 (0Eh)	

DSFID 領域に、ヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれています。
DSFID 領域の値が 0 (00h) の場合、リーダライタは下表のように動作します。

リーダライタ動作モード設定 (項目: 送信データ)	リーダライタの動作
ユーザデータのみ	レスポンスを返しません。
ユーザデータ + UID	UID のみを含んだレスポンスを返します。

[読み取り可能なユーザデータの最大バイト数]
リーダライタ動作モード設定 (項目: 送信データ) の値が、
「ユーザデータのみ」である場合は、
SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数と等しい値となります。

「ユーザデータ + UID」である場合は、
① SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数
② 255 (レスポンスのデータ部に含むことのできるデータの最大値) - 8 (UID のバイト数)
のうち、より小さい値となります。

リーダライタ動作モード (項目: 送信データ)	読み取り可能なユーザデータの最大バイト数
ユーザデータのみ	154
ユーザデータ + UID	①の値 154
	②の値 247

※ SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数については、「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

※ ユーザ領域にライトプロテクトがかけられている場合、SimpleWrite コマンド、およびオートスキャンモードは正常に動作しません。

7.3.6 ICODE SLI-L/SLIX-L

ユーザ領域のブロック数 : 8 ブロック
 ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
 DSFID 領域 : あり

SimpleWrite で「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みが行われている場合、RF タグのメモリ内は下表のように構成されています。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	ヘッダ情報				ユーザ 領域
1	34h	33h	32h	31h	
2	38h	37h	36h	35h	
3	**	**	フッタ情報		
4	**	**	**	**	
5	**	**	**	**	
6	**	**	**	**	
7	**	**	**	**	
				データ長 (0Eh)	DSFID

DSFID 領域に、ヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれています。

DSFID 領域の値が 0 (00h) の場合、リーダライタは下表のように動作します。

リーダライタ動作モード設定 (項目: 送信データ)	リーダライタの動作
ユーザデータのみ	レスポンスを返しません。
ユーザデータ + UID	UID のみを含んだレスポンスを返します。

〔読み取り可能なユーザデータの最大バイト数〕

リーダライタ動作モード設定 (項目: 送信データ) の値が、

「ユーザデータのみ」である場合は、

SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数と等しい値となります。

「ユーザデータ + UID」である場合は、

① SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数

② 255 (レスポンスのデータ部に含むことのできるデータの最大値) - 8 (UID のバイト数)

のうち、より小さい値となります。

リーダライタ動作モード (項目: 送信データ)			読み取り可能なユーザデータの最大バイト数
ユーザデータのみ			26
ユーザデータ + UID	①の値	26	26
	②の値	247	

※ SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数については、「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

7.3.7 ICODE SLIX2

ユーザ領域のブロック数 : 79 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
DSFID 領域 : あり

SimpleWrite で「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みが行われている場合、RF タグのメモリ内は下表のように構成されています。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	ヘッダ情報				ユーザ 領域
1	34h	33h	32h	31h	
2	38h	37h	36h	35h	
3	**	**	フッタ情報		
4	**	**	**	**	
5	**	**	**	**	
	**				
78	**	**	**	**	
				データ長 (0Eh)	DSFID

DSFID 領域に、ヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれています。
DSFID 領域の値が 0 (00h) の場合、リーダライタは下表のように動作します。

リーダライタ動作モード設定 (項目: 送信データ)	リーダライタの動作
ユーザデータのみ	レスポンスを返しません。
ユーザデータ + UID	UID のみを含んだレスポンスを返します。

[読み取り可能なユーザデータの最大バイト数]
リーダライタ動作モード設定 (項目: 送信データ) の値が、
「ユーザデータのみ」である場合は、
SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数と等しい値となります。

「ユーザデータ + UID」である場合は、
① SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数
② 255 (レスポンスのデータ部に含むことのできるデータの最大値) - 8 (UID のバイト数)
のうち、より小さい値となります。

リーダライタ動作モード (項目: 送信データ)			読み取り可能なユーザデータの最大バイト数
ユーザデータのみ			249
ユーザデータ + UID	①の値	249	247
	②の値	247	

※ SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数については、「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

7.3.8 my-d SRF55V10P

ユーザ領域のブロック数 : 125 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 8 バイト
DSFID 領域 : なし

SimpleWrite で「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みが行われている場合、RF タグのメモリ内は下表（アクセス方式別に記載）のように構成されています。

※ EEPROM 設定により my-d へのアクセス方式が変わります。
詳細は「3.6 my-d アクセス方式」および「8.10 my-d 自動識別時のアクセス方式」
をご参照ください。

<my-d カスタムコマンド（ページアクセス方式）>

ブロック No		Byte3/Byte7	Byte2/Byte6	Byte1/Byte5	Byte0/Byte4	
0	Low	サービス領域				
	High					
1	Low					
	High					
2	Low					
	High					
3	Low	**	**	**	データ長 (0Eh)	
	High	**	**	**	**	
4	Low	ヘッダ情報				
	High	34h	33h	32h	31h	
5	Low	38h	37h	36h	35h	
	High	**	**	フッタ情報		
		**				
127	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	

ブロック 3 の Byte0 に、ヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれています。
ブロック 3 の Byte0 の値が 0 (00h) の場合、リーダライタは下表のように動作します。

リーダライタ動作モード設定（項目：送信データ）	リーダライタの動作
ユーザデータのみ	レスポンスを返しません。
ユーザデータ + UID	UID のみを含んだレスポンスを返します。

<ISO オプションコマンド（ブロックアクセス方式）>

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
アクセス不可	サービス領域				ユーザ領域
247	**	**	**	**	
246	**	**	**	**	
245	**	**	**	**	
	**				
4	**	**	フッタ情報		
3	38h	37h	36h	35h	
2	34h	33h	32h	31h	
1	ヘッダ情報				
0	**	**	**	データ長 (0Eh)	

ブロック 0 の Byte0 に、ヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれています。
ブロック 0 の Byte0 の値が 0 (00h) の場合、リーダライタは下表のように動作します。

リーダライタ動作モード設定（項目：送信データ）	リーダライタの動作
ユーザデータのみ	レスポンスを返しません。
ユーザデータ + UID	UID のみを含んだレスポンスを返します。

〔読み取り可能なユーザデータの最大バイト数〕

リーダライタ動作モード設定（項目：送信データ）の値が、
「ユーザデータのみ」である場合は、
SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数と等しい値となります。

「ユーザデータ + UID」である場合は、

- ① SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数
- ② 255（レスポンスのデータ部に含むことのできるデータの最大値） - 8（UID のバイト数）のうち、より小さい値となります。

リーダライタ動作モード（項目：送信データ）			読み取り可能なユーザデータの最大バイト数
ユーザデータのみ			249
ユーザデータ + UID	①の値	249	247
	②の値	247	

※ SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数については、「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

7.3.9 my-d SRF55V02P

ユーザ領域のブロック数 : 29 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 8 バイト
DSFID 領域 : なし

SimpleWrite で「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みが行われている場合、RF タグのメモリ内は下表（アクセス方式別に記載）のように構成されています。

※ EEPROM 設定により my-d へのアクセス方式が変わります。
詳細は「3.6 my-d アクセス方式」および「8.10 my-d 自動識別時のアクセス方式」
をご参照ください。

<my-d カスタムコマンド（ページアクセス方式）>

ブロック No		Byte3/Byte7	Byte2/Byte6	Byte1/Byte5	Byte0/Byte4	
0	Low	サービス領域				
	High					
1	Low					
	High					
2	Low					
	High					
3	Low	**	**	**	データ長 (0Eh)	
	High	**	**	**	**	
4	Low	ヘッダ情報				
	High	34h	33h	32h	31h	
5	Low	38h	37h	36h	35h	
	High	**	**	フッタ情報		
		**				
31	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	

ブロック 3 の Byte0 に、ヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれています。
ブロック 3 の Byte0 の値が 0 (00h) の場合、リーダライタは下表のように動作します。

リーダライタ動作モード設定（項目：送信データ）	リーダライタの動作
ユーザデータのみ	レスポンスを返しません。
ユーザデータ + UID	UID のみを含んだレスポンスを返します。

<ISO オプションコマンド（ブロックアクセス方式）>

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
アクセス 不可	サービス領域				
	**	**	**	**	ユーザ 領域
55	**	**	**	**	
54	**	**	**	**	
53	**	**	**	**	
	**				
4	**	**	フッタ情報		
3	38h	37h	36h	35h	
2	34h	33h	32h	31h	
1	ヘッダ情報				
0	**	**	**	データ長 (0Eh)	

ブロック 0 の Byte0 に、ヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれています。
ブロック 0 の Byte0 の値が 0 (00h) の場合、リーダライタは下表のように動作します。

リーダライタ動作モード設定（項目：送信データ）	リーダライタの動作
ユーザデータのみ	レスポンスを返しません。
ユーザデータ + UID	UID のみを含んだレスポンスを返します。

〔読み取り可能なユーザデータの最大バイト数〕

リーダライタ動作モード設定（項目：送信データ）の値が、
「ユーザデータのみ」である場合は、
SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数と等しい値となります。

「ユーザデータ + UID」である場合は、

- ① SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数
- ② 255（レスポンスのデータ部に含むことのできるデータの最大値） - 8（UID のバイト数）
のうち、より小さい値となります。

リーダライタ動作モード（項目：送信データ）	読み取り可能なユーザデータの最大バイト数		
ユーザデータのみ	218		
ユーザデータ + UID	①の値	218	218
	②の値	247	

※ SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数については、「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

7.3.10 my-d Light SRF55V01P

ユーザ領域のブロック数 : 13 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
DSFID 領域 : なし

SimpleWrite で「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みが行われている場合、RF タグのメモリ内は下表のように構成されています。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	**	**	**	データ長 (0Eh)	ユーザ 領域
1	ヘッダ情報				
2	34h	33h	32h	31h	
3	38h	37h	36h	35h	
4	**	**	フッタ情報		
5	**	**	**	**	
	**				
12	**	**	**	**	
13	サービス領域				
17					

ブロック 0 の Byte0 に、ヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれています。
ブロック 0 の Byte0 の値が 0 (00h) の場合、リーダーライタは下表のように動作します。

リーダーライタ動作モード設定 (項目: 送信データ)	リーダーライタの動作
ユーザデータのみ	レスポンスを返しません。
ユーザデータ + UID	UID のみを含んだレスポンスを返します。

【読み取り可能なユーザデータの最大バイト数】
リーダーライタ動作モード設定 (項目: 送信データ) の値が、
「ユーザデータのみ」である場合は、
SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数と等しい値となります。

「ユーザデータ + UID」である場合は、
① SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数
② 255 (レスポンスのデータ部に含むことのできるデータの最大値) - 8 (UID のバイト数)
のうち、より小さい値となります。

リーダーライタ動作モード (項目: 送信データ)			読み取り可能なユーザデータの最大バイト数
ユーザデータのみ			42
ユーザデータ + UID	①の値	42	42
	②の値	247	

※ SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数については、「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

7.3.11 MB89R118C

ユーザ領域のブロック数 : 250 ブロック
 ブロックごとのバイト数 : 8 バイト
 DSFID 領域 : あり

SimpleWrite で「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みを行った場合、下表のように書き込まれます。

ブロック No		Byte3/Byte7	Byte2/Byte6	Byte1/Byte5	Byte0/Byte4	
0	Low	ヘッダ情報				ユーザ領域
	High	34h	33h	32h	31h	
1	Low	38h	37h	36h	35h	
	High	**	**	フッタ情報		
2	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	
3	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	
4	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	
5	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	
		**				
249	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	
		データ長 (0Eh)				DSFID

DSFID 領域に、ヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれています。

DSFID 領域の値が 0 (00h) の場合、リーダーライタは下表のように動作します。

リーダーライタ動作モード設定 (項目: 送信データ)	リーダーライタの動作
ユーザデータのみ	レスポンスを返しません。
ユーザデータ + UID	UID のみを含んだレスポンスを返します。

〔読み取り可能なユーザデータの最大バイト数〕

リーダーライタ動作モード設定 (項目: 送信データ) の値が、

「ユーザデータのみ」である場合は、

SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数と等しい値となります。

「ユーザデータ + UID」である場合は、

① SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数

② 255 (レスポンスのデータ部に含むことのできるデータの最大値) - 8 (UID のバイト数)

のうち、より小さい値となります。

リーダーライタ動作モード (項目: 送信データ)			読み取り可能なユーザデータの最大バイト数
ユーザデータのみ			249
ユーザデータ + UID	①の値	249	247
	②の値	247	

※ SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数については、「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

7.4 トリガーモード

リーダライタに入力されたトリガー信号が有効な間だけ、SimpleWrite で書き込まれた TR3 シリーズ独自フォーマットのデータを、上位機器とは非同期で繰り返し読み取るモードです。トリガーモードについては、「2.7 トリガーモード」もご参照ください。

[レスポンス]

オートスキャンモードと同じフォーマットのデータが返されます。

オートスキャンモードのレスポンスについては「7.3 オートスキャンモード」をご参照ください。

7.5 ポーリングモード

上位機器から指定した時間だけ、SimpleWrite で書き込まれた TR3 シリーズ独自フォーマットのデータを、上位機器とは非同期で繰り返し読み取るモードです。

ポーリングモードについては、「2.8 ポーリングモード」もご参照ください。

[レスポンス]

オートスキャンモードと同じフォーマットのデータが返されます。

オートスキャンモードのレスポンスについては「7.3 オートスキャンモード」をご参照ください。

7.6 カードディテクションモード

リーダライタが、低消費電力モードでRFタグ（カード）の検出処理を定期的に繰り返す動作モードです。カードディテクション動作モードの設定により、検出後の内部処理、およびレスポンスが異なります。

カードディテクションモードについては、「2.11 カードディテクションモード」もご参照ください。カードディテクションモードの動作パラメータは「7.9.26 カードディテクションモード設定の書き込み」をご参照ください。

各動作モード時のレスポンスフォーマットは以下の通りです。

●カードディテクション動作モード=00h : MifareClassic 指定ブロックの読み取り

[レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	6Ch
データ長	1	11h
データ部	1	E0h（詳細コマンド）
	16	読み取った MifareClassic タグのブロックデータ （1 ブロック 16 バイト）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[レスポンス例]

- レスポンス
02 00 6C 11 E0 31 32 33 34 35 36 37 38 39 30 31 32 33 34 35 36 03 A4 0D

●カードディテクション動作モード=01h : TypeA UID の読み取り

[レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	6Ch
データ長	1	05h or 08h or 0Bh
データ部	1	E1h（詳細コマンド）
	4~10	読み取った TypeA タグの UID データ （4 バイト or 7 バイト 10 バイト）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[レスポンス例]

- レスポンス
02 00 6C 08 E1 04 C5 DF 0A E0 35 80 03 A1 0D

●カードディテクション動作モード=02h : TypeA(非セキュア) 指定ブロックの読み取り

[レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	6Ch
データ長	1	11h
データ部	1	E2h (詳細コマンド)
	16	読み取った TypeA タグのブロックデータ (指定ブロックを先頭とした連続する 4 ブロック/16 バイト)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[レスポンス例]

- レスポンス
02 00 6C 11 E2 31 32 33 34 35 36 37 38 39 30 31 32 33 34 35 36 03 A6 0D

●カードディテクション動作モード=03h : ISO15693 UID の読み取り

[レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	6Ch
データ長	1	09h
データ部	1	E3h (詳細コマンド)
	8	読み取った ISO15693 タグの UID (8 バイト)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[レスポンス例]

- レスポンス
02 00 6C 09 E3 B7 68 00 00 08 01 04 E0 03 69 0D

●カードディテクション動作モード=04h : ISO15693 指定ブロックの読み取り

[レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	6Ch
データ長	1	1+(4×n) : 1 ブロック 4 バイト構成の場合 1+(8×n) : 1 ブロック 8 バイト構成の場合 ※ n : 読み取りブロック数
データ部	1	E4h (詳細コマンド)
	4×n or 8×n	読み取った ISO15693 タグのブロックデータ ※ n : 読み取りブロック数
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[レスポンス例]

- レスポンス
02 00 6C 11 E4 31 32 33 34 35 36 37 38 39 30 31 32 33 34 35 36 03 A8 0D

●カードディテクション動作モード=FFh : カード検出後コマンドモードに戻る

[レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	6Ch
データ長	1	01h
データ部	1	EEh (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[レスポンス例]

- レスポンス
02 00 6C 01 EE 03 60 0D

7.7 ノーリードコマンド

RF タグの未読み取り時にリーダライタがレスポンスするコマンドです。

ノーリードコマンドを使用するには、リーダライタのEEPROM設定値を変更する必要があります。
変更方法については「8.7 ノーリードコマンド」をご参照ください。

ノーリードコマンド使用時にコマンドが返される条件は下表の通りです。

EEPROM 設定のパラメータにより、動作が異なりますので、ご注意ください。

EEPROM 設定	参照項
自動読み取りモード動作時のトリガー信号	8.1 EEPROM アドレス一覧 アドレス 38/bit5
アンテナ自動切替	8.1 EEPROM アドレス一覧 アドレス 39/bit0
アンテナ ID 出力	8.1 EEPROM アドレス一覧 アドレス 39/bit7
アンチコリジョン設定	2.13 設定パラメータ

動作モード	EEPROM 設定		アンチコリジョン 設定	ノーリード コマンド	
	自動読み取りモード動作時 のトリガー信号	アンテナ自動切替 +アンテナ ID 出力			
連続インベントリ	無効	無効	無効	○	
			有効	×	
		有効	無効	無効	○
				有効	○
	有効		無効	無効	○
				有効	○
		有効	無効	無効	○
				有効	○
RDLOOP	無効		無効	無効	×
				有効	×
		有効	無効	無効	○
				有効	○
	有効		無効	無効	×
				有効	×
		有効	無効	無効	×
				有効	×
オートスキャン	無効		無効	無効	×
				有効	×
		有効	無効	無効	×
				有効	○
	有効		無効	無効	×
				有効	×
		有効	無効	無効	×
				有効	○
トリガーモード	任意		任意	任意	○
ポーリングモード	任意		任意	任意	○
EPC インベントリ モード	無効	任意	任意	×	
	有効			○	
EPC インベントリ リードモード	無効	任意	任意	×	
	有効			○	
カードディテクショ ンモード	任意	任意	任意	×	

○：ノーリードコマンドを返す

×：ノーリードコマンドを返さない

注意

USBインターフェースボード経由で使用する場合の注意点



USB接続時にはプラグアンドプレイで機器の認証が行われますが、R/Wが給電された直後からデータレスポンスを上げ続ける設定で使用する場合、USBの認識が正常にできず、以下のような症状が発生する可能性があります。

- ・ポートオープンができない
(デバイスマネージャではCOMは認識されるが、オープンできない)
- ・マウスなど周辺機器が誤動作する

<対策>

「ノーリードコマンドの設定＝有効」で使用する、または、タグがアンテナ上に配置されたまま電源起動する可能性がある場合、コマンドモード以外の動作モードをEEPROMに書き込まないでください

自動読み取りモードを使用する場合は、アプリケーション起動後にコマンド制御で「(EEPROMではなく) RAMへの書き込み」にて各種動作モード設定を行ってください。

ノーリードコマンドは、リーダライタ動作モード設定（項目：送信データ）の内容によって、リーダライタからのレスポンスが異なります。

送信データ	リーダライタからのレスポンス
ユーザデータのみ	[レスポンス] (送信データ：ユーザデータのみ) に記載
ユーザデータ + UID	[レスポンス] (送信データ：ユーザデータ + UID) に記載

[レスポンス] (送信データ：ユーザデータのみ)

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	44h
データ長	1	02h
データ部	1	42h (‘B’)
	1	52h (‘R’)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[レスポンス] (送信データ：ユーザデータ + UID)

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	64h
データ長	1	0Ah
データ部	8	将来拡張のための予約 (通常は 00h)
	1	42h (‘B’)
	1	52h (‘R’)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

7.8 リーダライタ制御コマンド

7.8.1 エラー情報の読み取り

リーダーライタのエラー情報を読み取るコマンドです。

リーダーライタが正常に稼働している場合は、「00h」が返されます。

リーダーライタに何らかのエラーが発生している場合は、「00h」以外の値が返されます。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	80h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	04h
データ部	1	80h (詳細コマンド)
	1	エラー情報 00h : 正常 00h 以外 : 異常 (R/W 内部のハード的な異常を検出した場合)
	2	将来拡張のための予約 (通常は 00h)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 80 03 D5 0D
- レスポンス
02 00 30 04 80 00 00 03 B9 0D

7.8.2 パワー状態の読み取り

RF 制御部のパワー状態を読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	52h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	52h (詳細コマンド)
	1	ビット 割り当て
		bit0 0 : TxON (キャリア出力 ON) 1 : TxOFF (キャリア出力 OFF)
		bit1 0 : 電源 ON レディ 1 : パワーダウン
		bit2~7 将来拡張のための予約 (通常は 0)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 52 03 A7 0D
- レスポンス
02 00 30 02 52 00 03 89 0D

7.8.3 使用アンテナ番号の読み取り

現在選択されているアンテナ番号を読み取るコマンドです。
アンテナ番号は、「00h」を起点としています。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	9Ch (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	9Ch (詳細コマンド)
	1	アンテナ番号
		00h : ANT1
		01h : ANT2
		02h : ANT3
		3Fh : ANT64
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 9C 03 F1 0D
- レスポンス
02 00 30 02 9C 00 03 D3 0D

7.8.4 カレント UID の読み取り

リーダーライタの RAM に保存されたカレント UID を読み取るコマンドです。

※ カレント UID

リーダーライタは最後に読み取った RF タグ（ISO15693 準拠の RF タグのみ）の UID を内部の RAM に保持しています。

この RAM に保存された UID をカレント UID と呼びます。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	50h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	09h
データ部	1	50h（詳細コマンド）
	8	カレント UID
		1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 50 03 A5 0D
- レスポンス
02 00 30 09 50 82 87 BB 01 00 00 07 E0 03 3A 0D

7.8.5 リーダライタ保存 UID 数の読み取り

リーダーライタの RAM に保存された UID (ISO15693 準拠の RF タグのみ) の数を読み取るコマンドです。

リーダーライタは、Inventory コマンド (16slot : アンチコリジョン)、および Inventory2 コマンドの実行によって読み取った UID をリーダーライタの RAM に保存しています。

なお、TR3XM-C106 シリーズリーダーライタの RAM に保存可能な UID 数の最大値は 100 件となります。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	53h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	53h (詳細コマンド)
	1	UID の数
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 53 03 A8 0D
- レスポンス
02 00 30 02 53 01 03 8B 0D

7.8.6 リーダライタ保存 UID データの読み取り

リーダライタの RAM に保存された UID (ISO15693 準拠の RF タグのみ) を読み取るコマンドです。

リーダライタは、Inventory (16slot : アンチコリジョン)、および Inventory2 の実行によって読み取った UID をリーダライタの RAM に保存しています。

(読み取りが行われた順に保存しています)

なお、TR3XM-C106 シリーズリーダライタの RAM に保存可能な UID 数の最大値は 100 件となります。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容	
STX	1	02h	
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）	
コマンド	1	4Fh	
データ長	1	02h	
データ部	1	54h（詳細コマンド）	
	1	<u>UID 保存番号</u>	
		01h	: 1 番目の UID
		02h	: 2 番目の UID
n	: n 番目の UID		
ETX	1	03h	
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）	
CR	1	0Dh	

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」 参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	0Bh
データ部	1	54h (詳細コマンド)
	1	UID 保存番号
	1	DSFID
	8	UID
		1byte 目
8byte 目		: UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」 参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 02 54 01 03 AB 0D
- レスポンス
02 00 30 0B 54 01 00 82 87 BB 01 00 00 07 E0 03 41 0D

7.8.7 ROM バージョンの読み取り

リーダーライタの ROM バージョン（ファームウェアバージョン）を読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	90h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	0Ah
データ部	1	90h（詳細コマンド）
	1	メジャーバージョン番号
	3	マイナーバージョン番号
	3	シリーズ名 'STV' : C106 シリーズ標準ファーム (ISO15693、ISO14443TypeA(MifareClassic コマンド非対応)、 ISO14443TypeB, ISO/IEC18092) 'STA' : C106 シリーズ MifareClassic 対応ファーム (製品型式に' MFC 'を含む) (ISO15693、ISO14443TypeA(MifareClassic コマンド対応)) 'STI' : C106 シリーズ ILT 対応ファーム (製品型式に' ILT 'を含む) (ISO15693、ISO/IEC18000-3(Mode3)) 'STF' : C106F ファーム (ISO15693、ISO14443TypeA(MifareClassic コマンド対応)、 ISO14443TypeB, ISO/IEC18092、ISO/IEC18000-3(Mode3))
	1	30h（将来拡張のための予約）
	1	機種判別 30h : TR3XM-C106-2CH 31h : TR3XM-C106 32h : TR3XM-C106-A4247 33h : TR3XM-C106-A2424 / TR3XM-C106-A3540
	1	
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 90 03 E5 0D
- レスポンス
02 00 30 0A 90 31 30 30 30 53 54 56 30 30 03 ED 0D
(ROM バージョン : 1.00 0STV01)

7.8.8 RF 送信信号の制御

リーダライタが出力する RF 送信信号（キャリア）の制御を行うコマンドです。

<注意事項>

リーダライタの EEPROM 設定が「RF 送信信号設定：コマンド実行時以外常時 OFF」の場合、「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行した時の挙動は以下の通りです。

- ・「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行した場合、約 2 秒間 RF 送信信号を出力します。
また、上記コマンド実行により RF 送信信号を出力している間に、「RF タグ制御用コマンド（※1）」を実行した場合、そのコマンド処理が終了してから約 2 秒間は RF 送信信号の出力が継続します。
- RF 送信信号を出力後、約 2 秒経過する前に「RF タグ制御用コマンド（※1）」を実行しなければ、自動的に RF 送信信号は停止します。
- ・「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行せずに「RF タグ制御用コマンド（※1）」を実行した場合の動作は以下の通りです。

RF タグ制御用コマンド（※1）	「RF 送信信号の制御（TX_ON）」を実行せずに RF タグ制御用コマンドを実行した場合の動作
「RF タグ通信コマンド」 「EPC 通信コマンド」	コマンド実行中のみ RF 送信信号が出力され、 コマンド実行後はすぐに RF 送信信号が停止します。
「ISO/IEC 14443 TypeA 通信コマンド」 「ISO/IEC 14443 TypeB 通信コマンド」 「FeliCa 通信コマンド」	コマンド実行時に RF 送信信号が出力され、 コマンド実行後も RF 送信信号は継続して出力されます。

※1：RF タグ制御用コマンドについては、「3.4 RF 送信信号設定」の「●コマンド実行時以外常時 OFF」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	4Eh
データ長	1	02h
データ部	1	9Eh（詳細コマンド）
	1	RF 送信信号の制御
		00h : OFF
		01h : ON
		02h : OFF → ON（OFF 時間：3ms）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容	
STX	1	02h	
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)	
コマンド	1	30h (ACK)	
データ長	1	02h	
データ部	1	9Eh (詳細コマンド)	
	1	ビット	割り当て
		bit0	0 : TxON (キャリア出力 ON) 1 : TxOFF (キャリア出力 OFF)
		bit1	0 : 電源 ON レディ 1 : パワーダウン
		bit2～7	将来拡張のための予約 (通常は 0)
ETX	1	03h	
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)	
CR	1	0Dh	

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 02 9E 01 03 F4 0D
- レスポンス
02 00 30 02 9E 00 03 D5 0D

7.8.9 パワー状態の制御

RF 制御部のパワー状態制御を行うコマンドです。

本コマンドを実行するとリーダーライタはパワーダウン状態へ遷移します。

なお、リーダーライタは本コマンドに対する応答を返しません。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	01h
データ部	1	52h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

リーダーライタは応答を返しません。

[NACK レスポンス]

リーダーライタは応答を返しません。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 01 52 03 A6 0D
- レスポンス
リーダーライタは応答を返しません。

7.8.10 使用アンテナ番号の設定

RF タグの読み取りを行うアンテナを切り替えるコマンドです。
アンテナ番号は、「00h」を起点としています。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	02h
データ部	1	9Ch (詳細コマンド)
	1	アンテナ番号
		00h : ANT1
		01h : ANT2
		02h : ANT3
		3Fh : ANT64
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	9Ch (詳細コマンド)
	1	アンテナ番号
		00h : ANT1
		01h : ANT2
		02h : ANT3
		3Fh : ANT64
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 02 9C 00 03 F1 0D
- レスポンス
02 00 30 02 9C 00 03 D3 0D

7.8.11 カレント UID の設定

リーダーライタの RAM にカレント UID を書き込むコマンドです。

※ カレント UID

リーダーライタは最後に読み取った RF タグ（ISO15693 準拠の RF タグのみ）の UID を内部の RAM に保持しています。

この RAM に保存された UID をカレント UID と呼びます。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	4Eh
データ長	1	09h
データ部	1	50h（詳細コマンド）
	8	カレント UID
		1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	01h
データ部	1	50h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 09 50 82 87 BB 01 00 00 07 E0 03 58 0D
- レスポンス
02 00 30 01 50 03 86 0D

7.8.12 LED の制御

リーダライタの LED を制御するコマンドです。

本コマンドで制御対象となる LED は、リーダライタモジュール基板上に実装された LED です。

なお、本コマンドで LED を制御するためには、リーダライタの汎用ポート 1 の機能が「LED 制御信号出力ポート」に設定されていることが必要です。

汎用ポート 1 の機能が「汎用ポート」に設定されている場合は、LED が制御できません。

(リーダライタから NACK 応答が返されます)

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	04h
データ部	1	55h (詳細コマンド)
	1	LED の選択 00h : 緑色 01h : 赤色
	1	LED の動作モード 00h : 指定時間の点灯 01h : 常時点滅 02h : 常時点灯または消灯
	1	「指定時間の点灯」の場合 設定値 * 50ms 間の点灯 「常時点滅」の場合 設定値 * 50ms 間隔の点滅 「常時点灯または消灯」の場合 00h : 消灯 01h : 常時点灯
	1	
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	55h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 04 55 00 00 0A 03 B6 0D
- レスポンス
02 00 30 01 50 03 86 0D

7.8.13 LED&ブザーの制御

リーダーライタのLEDとブザーを同時に制御するコマンドです。

なお、本コマンドは3色（緑・青・赤）のLEDを搭載したリーダーライタ専用のコマンドです。

なお、本コマンドでLEDとブザーを制御するためには、リーダーライタの汎用ポート1および汎用ポート3の機能がいずれも「汎用ポート」に設定されている必要があります。

汎用ポート1または汎用ポート3の機能が「汎用ポート」でない場合は、ブザーとLEDが制御できません。（リーダーライタからNACK応答が返されます）

汎用ポート	機能	入出力設定	初期値
汎用ポート1	汎用ポート	出力	0
汎用ポート2	汎用ポート	出力	0

TR3RWManagerを使用する場合、以下の通り設定します。

「リーダーライタEEPROM設定」－「EEPROM詳細設定」－「汎用ポート設定」

EEPROM詳細設定				
汎用ポート設定				
汎用ポート	機能	入出力設定	初期値	
汎用ポート1	☐ LED制御信号出力ポート ☒ 汎用ポート	☐ 入力 ☒ 出力	☒ 0	☐ 1
汎用ポート2	☒ トリガー制御信号入力ポート ☐ 汎用ポート	☒ 入力 ☐ 出力	☐ 0	☒ 1
汎用ポート3	☐ 機能選択 ☒ 汎用ポート 機能選択 ☐ RS485制御信号出力ポート ☒ エラー制御信号出力ポート	☐ 入力 ☒ 出力	☒ 0	☐ 1
汎用ポート4	汎用ポート	☒ 入力 ☐ 出力	☐ 0	☒ 1
汎用ポート5	汎用ポート	☒ 入力 ☐ 出力	☐ 0	☒ 1
汎用ポート6	汎用ポート	☒ 入力 ☐ 出力	☐ 0	☒ 1
汎用ポート7	☒ ブザー制御信号出力ポート ☐ 汎用ポート	☒ 入力 ☐ 出力	☐ 0	☒ 1
汎用ポート8	汎用ポート	☒ 入力 ☐ 出力	☐ 0	☒ 1

[EEPROM設定一覧](#)
[リーダーライタ動作モード設定](#)
[RFタグ動作モード設定](#)
☒ [汎用ポート設定](#)
[アンテナ切替設定](#)
[各種設定1](#)
[各種設定2](#)
[設定保存／復元](#)
[設定終了](#)

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	06h
データ部	1	57h (詳細コマンド)
	1	制御ポート (点灯させる LED の選択) 00h : 制御しない (LED 制御なし) 01h : 汎用ポート 1 の制御 (青色 LED の制御) 04h : 汎用ポート 3 の制御 (赤色 LED の制御) 05h : 汎用ポート 1 と 3 の制御 (青・赤 LED の制御)
	1	LED の動作モード 00h : 指定時間の点灯 01h : 常時点滅 02h : 常時点灯または消灯
	1	LED の動作モードが「指定時間の点灯」の場合 [設定値]×200ms の点灯 LED の動作モードが「常時点滅」の場合 [設定値]×200ms 間隔の点滅 LED の動作モードが「常時点灯または消灯」の場合 00h : 消灯 01h : 常時点灯
	1	ブザー音 00h : ピー 01h : ピッピッピ 02h : ピッピー 03h : ピッピッピー 04h : ピーー 05h : ピーピーピーピー 06h : ピーーー 07h : ピッピッピッピッピッ 08h : ピッピッピッピッ FFh : 時間指定連続音 (ピー)
	1	ブザー音が「時間指定連続音 (ピー)」の場合 [設定値]×200ms の鳴動 ブザー音が「時間指定連続音 (ピー)」以外の場合 00h : 鳴動しない 01h : 鳴動する
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	57h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.12 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 06 57 01 00 0A 00 01 03 BC 0D
- レスポンス
02 00 30 01 57 03 8D 0D

7.8.14 リスタート

リーダーライタをリスタート（再起動）するコマンドです。
なお、リーダーライタは本コマンドに対する応答を返しません。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	4Eh
データ長	1	01h
データ部	1	9Dh（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

リーダーライタは応答を返しません。

[NACK レスポンス]

リーダーライタは応答を返しません。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 01 9D 03 F1 0D
- レスポンス
リーダーライタは応答を返しません。

※ リスタート後のリーダーライタ状態

リーダーライタは、リスタート実行後から 200ms 間は、次のコマンドに応答できません。
リスタート後に続けてコマンド実行を行う場合には、200ms 以上の時間を空けた後に実行ください。

7.8.15 EEPROM 設定の初期化

リーダーライタの EEPROM 設定を出荷時設定に戻すコマンドです。

コマンド実行後はリスタートコマンド、あるいはリーダーライタの電源再起動を実行してください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	01h
データ部	1	6Fh (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	6Fh (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 01 6F 03 C3 0D
- レスポンス
02 00 30 01 6F 03 A5 0D

7.8.16 ブザーの制御

リーダーライタのブザーを制御するコマンドです。

なお、本コマンドでブザーを制御するためには、リーダーライタの汎用ポート 7 の機能が「ブザー制御信号出力ポート」に設定されている必要があります。

汎用ポート 7 の機能が「汎用ポート」に設定されている場合は、ブザーが制御できません。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	42h
データ長	1	02h
データ部	1	リーダーライタへの応答要求 00h : 応答を要求しない (ただし、SUM 値エラーなどが発生した場合は NACK 応答が返されます) 01h : 応答を要求する
		ブザー音
		00h : ピー
	1	01h : ピッピッピ
		02h : ピッピー
		03h : ピッピッピー
		04h : ピーー
		05h : ピーピーピーピー
		06h : ピーーー
		07h : ピッピッピッピッピッ
		08h : ピッピッピッピッ
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	00h
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 42 02 01 00 03 4A 0D
- レスポンス
02 00 30 00 03 35 0D

7.9 リーダライタ設定コマンド

7.9.1 リーダライタ動作モードの読み取り
リーダーライタの動作モードを読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	00h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	09h
データ部	1	00h (詳細コマンド)
	1	<u>リーダーライタ動作モード</u> 00h : コマンドモード [初期値] 01h : オートスキャンモード 02h : トリガーモード 03h : ポーリングモード 50h : 連続インベントリモード 58h/59h : RDLOOP モード (59h : RDLOOPCmd 実行時) 63h : EPC インベントリモード (※2) 64h : EPC インベントリリードモード (※2) 54h : カードディテクションモード (※3)
		将来拡張のための予約 (通常は 00h)
		<u>ビット</u> <u>割り当て</u>
		bit0 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit1 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		<u>アンチコリジョン</u> bit2 (※1) 0 : 無効 [初期値] 1 : 有効
		<u>読み取り動作</u> bit3 (※1) 0 : 1 回読み取り 1 : 連続読み取り [初期値]
		<u>ブザー</u> bit4 (※1) 0 : 鳴らさない 1 : 鳴らす [初期値]
		<u>送信データ</u> bit5 (※1) 0 : ユーザデータのみ [初期値] 1 : ユーザデータ + UID
		<u>通信速度</u> bit6 0 : 19200bps 1 : 9600bps 0 : 38400bps 1 : 115200bps bit7 0 : 0 : 1 : 1 : ※19200bps [初期値]
	5	将来拡張のための予約 (通常は 00h)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

- ※1 ISO14443TypeA 通信コマンド、ISO14443TypeB 通信コマンド、FeliCa 通信コマンド、EPC 通信コマンドの動作には影響しません。
- ※2 ISO/IEC18000-3(Mode3)対応機種のみ使用可能
- ※3 リーダライタの動作モードがカードディテクションモードに設定されている場合、いずれかのコマンドを受けるとただちにコマンドモードに戻るため、実動作として 54h が返ることはありません。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 00 03 55 0D
- レスポンス
02 00 30 09 00 00 00 18 00 00 00 00 00 03 56 0D

7.9.2 RF タグ動作モードの読み取り

RF タグ動作モードを読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	09h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容	
STX	1	02h	
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)	
コマンド	1	30h (ACK)	
データ長	1	02h	
データ部	1	09h (詳細コマンド)	
	1	ビット	割り当て
		bit0	将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit1～3 (※1)	符号化方式 (リーダーライタ → RF タグ) 001 : ISO14443 TypeA 010 : ISO15693 1/4 [初期値] 011 : ISO14443 TypeB 100 : ISO18000-3 Mode3 101 : FeliCa (その他 : 将来拡張のための予約)
		bit4 (※2)	変調度 (リーダーライタ → RF タグ) 0 : 10% [初期値] 1 : 100%
		bit5 (※2)	サブキャリア (RF タグ → リーダライタ) 1 : シングルサブキャリア (ASK) [固定値]
		bit6	1 [固定値]
		bit7	偶数パリティ bit0～bit7 までの「1 の個数」の合計が偶数になるよう に調整するための補正用パリティビットです。 bit0～bit6 までの「1 の個数」合計が偶数の場合 0 bit0～bit6 までの「1 の個数」合計が奇数の場合 1 となります。
ETX	1	03h	
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)	
CR	1	0Dh	

※1 本設定値は、最後に実行した「自動読み取りモード」または「RF タグ通信コマンド」に対応した規格の情報が設定されます。

※2 ISO 15693 専用パラメータであり、その他規格の動作には影響しません。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 09 03 5E 0D
- レスポンス
02 00 30 02 09 44 03 84 0D

7.9.3 アンチコリジョンモードの読み取り

アンチコリジョンモードを読み取るコマンドです。

アンチコリジョンモードについては、「3.3 アンチコリジョンモード」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	76h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	76h (詳細コマンド)
	1	アンチコリジョンモード
		00h : 通常モード [初期値]
		01h : 高速モード 1
		02h : 高速モード 2
		03h : 高速モード 3
		FFh : カスタム設定
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 76 03 CB 0D
- レスポンス
02 00 30 02 76 00 03 AD 0D

7.9.4 AFI 指定値の読み取り

リーダーライタの EEPROM に保存された AFI 指定値を読み取るコマンドです。

※ AFI 指定値

リーダーライタは、特定の AFI 値を持つ RF タグのみを通信相手とする機能を持っています。

リーダーライタの EEPROM に任意の AFI 値をあらかじめ保存しておき、保存された AFI 値と一致する AFI 値を持つ RF タグのみと通信を行います。

この EEPROM に保存された AFI 値を AFI 指定値と呼んでいます。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	51h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	51h (詳細コマンド)
	1	AFI 指定値 (初期値 : 00h)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 51 03 A6 0D
- レスポンス
02 00 30 02 51 00 03 88 0D

7.9.5 RF 送信信号設定の読み取り

RF 送信信号設定を読み取るコマンドです。

RF 送信信号設定については、「3.4 RF 送信信号設定」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	77h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	77h (詳細コマンド)
	1	RF 送信信号設定 (※1)
		00h : 起動時 ON [初期値]
		01h : 起動時 OFF (コマンド受付以降 ON)
		02h : 起動時含め、コマンド実行時以外常時 OFF
		FFh : カスタム設定
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※1 設定値 [02h : 起動時含めコマンド実行時以外常時 OFF] の場合、処理の途中でキャリアが OFF されるため、ISO14443TypeA 通信コマンド、ISO14443TypeB 通信コマンド、FeliCa 通信コマンド、EPC 通信コマンドは正常に動作しません。

コマンド処理を実行する前に「RF 送信信号の制御(TX_ON)」を実行し、次のコマンドを実行するまでの間隔を 2 秒以内に制御することで、キャリア OFF させずに処理することができます

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 77 03 CC 0D
- レスポンス
02 00 30 02 77 00 03 AE 0D

7.9.6 RF タグ通信設定の読み取り

RF タグ通信設定を読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	78h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	78h (詳細コマンド)
	1	RF タグ通信設定 (※1)
		00h : 通常設定 [初期値]
		01h : MB89R116/MB89R118
		FFh : カスタム設定
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※1 ISO14443TypeA 通信コマンド、ISO14443TypeB 通信コマンド、FeliCa 通信コマンド、EPC 通信コマンドの動作には影響しません。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 78 03 CD 0D
- レスポンス
02 00 30 02 78 00 03 AF 0D

7.9.7 S6700 互換モード設定の読み取り

S6700 互換モード設定を読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	79h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	79h (詳細コマンド)
	1	<u>S6700 互換モード設定</u>
		00h : 通常モード [初期値]
		01h : S6700 互換モード
		FFh : カスタム設定
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 79 03 CE 0D
- レスポンス
02 00 30 02 79 00 03 B0 0D

7.9.8 汎用ポート値の読み取り

リーダーライタの汎用ポート値を読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	9Fh (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	05h
データ部	1	9Fh (詳細コマンド)
	1	汎用ポートの現状値 (0 : Low / 1 : High)
		ビット 割り当て
		bit0 汎用ポート 1 の現状値
		bit1 汎用ポート 2 の現状値
		bit2 汎用ポート 3 の現状値
		bit3 汎用ポート 4 の現状値
		bit4 汎用ポート 5 の現状値
		bit5 汎用ポート 6 の現状値
		bit6 汎用ポート 7 の現状値
		bit7 汎用ポート 8 の現状値
	1	汎用ポートの機能
		ビット 割り当て
		bit0 汎用ポート 1 の機能 0 : LED 制御信号出力ポート 1 : 汎用ポート
		bit1 汎用ポート 2 の機能 0 : トリガー制御信号入力ポート 1 : 汎用ポート
		bit2 汎用ポート 3 の機能 0 : 機能選択 1 : 汎用ポート
		bit3 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit4 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit5 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit6 汎用ポート 7 の機能 0 : ブザー制御信号出力ポート 1 : 汎用ポート
		bit7 将来拡張のための予約 (通常は 0)

ラベル名	バイト数	内容
データ部	1	汎用ポートの入出力設定 (0 : 入力 / 1 : 出力) ※汎用ポート 1/2/3/7 は、汎用ポートの機能の値が「汎用ポート」に設定されている場合のみ有効
		ビット 割り当て
		bit0 汎用ポート 1 の入出力設定
		bit1 汎用ポート 2 の入出力設定
		bit2 汎用ポート 3 の入出力設定
		bit3 汎用ポート 4 の入出力設定
		bit4 汎用ポート 5 の入出力設定
		bit5 汎用ポート 6 の入出力設定
		bit6 汎用ポート 7 の入出力設定
		bit7 汎用ポート 8 の入出力設定
	1	汎用ポートの初期値 (0 : Low / 1 : High)
		ビット 割り当て
		bit0 汎用ポート 1 の初期値
		bit1 汎用ポート 2 の初期値
		bit2 汎用ポート 3 の初期値
		bit3 汎用ポート 4 の初期値
		bit4 汎用ポート 5 の初期値
		bit5 汎用ポート 6 の初期値
		bit6 汎用ポート 7 の初期値
		bit7 汎用ポート 8 の初期値
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 9F 03 F4 0D
- レスポンス
02 00 30 05 9F 58 00 00 FF 03 30 0D

7.9.9 拡張ポート値の読み取り

リーダーライタの拡張ポート値を読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	01h
データ部	1	56h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容	
STX	1	02h	
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）	
コマンド	1	30h（ACK）	
データ長	1	02h	
データ部	1	56h（詳細コマンド）	
	1	拡張ポートの現状値（0：Low / 1：High）	
		ビット	割り当て
		bit0	拡張ポート 1 の現状値
		bit1	拡張ポート 2 の現状値
		bit2	拡張ポート 3 の現状値
		bit3～7	将来拡張のための予約（通常は 0）
ETX	1	03h	
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）	
CR	1	0Dh	

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 01 56 03 AB 0D
- レスポンス
02 00 30 02 56 07 03 94 0D

7.9.10 EEPROM 設定値の読み取り

EEPROM 設定値をアドレス単位（1 バイト単位）で読み取るコマンドです。

EEPROM のアドレスおよび設定手順については、「第 8 章 EEPROM」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	4Fh
データ長	1	02h
データ部	1	B4h（詳細コマンド）
	1	読み取りアドレス
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	02h
データ部	1	B4h（詳細コマンド）
	1	EEPROM 設定値
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 02 B4 06 03 10 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

7.9.11 自動読取モード設定の読み取り

自動読み取りモードの設定値を読み取るコマンドです。

※ICODE ILT 関連事項は別紙「ISO18000-3M3 通信プロトコル説明書」も参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	02h
データ部	1	B3h (詳細コマンド)
	1	09h (パラメータ固定)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容	
STX	1	02h	
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)	
コマンド	1	30h (ACK)	
データ長	1	03h	
データ部	1	B3h (詳細コマンド)	
	1	09h	
	1	ビット	割り当て
		bit0 ※1	<u>UII バッファリング処理</u> EPC インベントリモード、EPC インベントリリードモードを使用する場合、UII データをリーダーライタ内部でバッファリングし、重複チェックを行う場合に設定します。 「行わない」に設定した場合、動作環境によっては1回の処理で同じタグデータを複数回読み取る場合があります。 本設定は、UII データがユニークである前提で使用可能な設定です。異なるタグに同じ UII データを書き込んでいる場合、本設定は「行わない」を選択する必要があります。
			0 : 行わない[初期設定] 1 : 行う
		bit1 ※1	<u>EPC 自動読取モード時の読取枚数</u> EPC インベントリモード、EPC インベントリリードモードを使用する場合、1回の処理毎のタグ読み取り枚数を返します。
			0 : 返さない[初期設定] 1 : 返す
		bit2	<u>アンテナ自動切替終了時のレスポンス</u> 「アンテナ自動切替」が有効の場合、選択アンテナ番号が0に戻るたびに、切替サイクル終了を示すレスポンスを返します。
			0 : 返さない[初期設定] 1 : 返す
		bit3-bit7	将来拡張のための予約 (通常は 0)
ETX	1	03h	
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)	
CR	1	0Dh	

※1 : ISO/IEC18000-3(Mode3)対応機種のみサポート

[NACK レスポンス]

「7.13 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 02 B3 09 03 12 0D
- レスポンス
02 00 30 03 B3 09 00 03 F4 0D

7.9.12 カードディテクションモード設定の読み取り

カードディテクションモード設定を読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Fh
データ長	1	02h
データ部	1	B3h (詳細コマンド)
	1	14h (パラメータ固定)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	06h
データ部	1	B3h (詳細コマンド)
	1	14h (パラメータ固定)
	1	カードディテクション動作モード
		00h : MifareClassic 指定ブロックの読み取り
		01h : TypeA UID の読み取り
		02h : TypeA(非セキュア) 指定ブロックの読み取り
		03h : ISO15693 UID の読み取り [初期値]
		04h : ISO15693 指定ブロックの読み取り
		FFh : カード検出後コマンドモードに戻る (※1)
	1	Mifare/TypeA 読み取りブロック番号 (初期値 : 04h)
	1	ISO15693 読取開始ブロック番号 (初期値 : 00h)
	1	ISO15693 読取終了ブロック番号 (初期値 : 01h)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※1 動作モード FFh(カード検出後コマンドモードに戻る)を選択した場合、リーダーライタはカードの読み取り処理は行わず、上位に通知だけしてコマンドモードに戻ります。
上位機器は、通知を受けた後コマンドを実行して必要な処理を行い、再度カードディテクションモードに戻す処理が必要となります。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 02 B3 14 03 1D 0D
- レスポンス
02 00 30 06 B3 14 00 04 00 01 03 07 0D

7.9.13 カードディテクションモードのチューニング

カードディテクションモードで動作させるためのチューニングを行うコマンドです。
アンテナ周囲の設置環境に合わせて内部パラメータ（検出閾値）のチューニングをおこないます。
アンテナの周囲環境が変わった場合に、1度だけ実行してください。（毎回実行する必要はありません。）

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	4Fh
データ長	1	02h
データ部	1	B3h（詳細コマンド）
	1	13h（パラメータ固定）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	06h
データ部	1	B3h（詳細コマンド）
	1	13h（パラメータ固定）
	1	検出閾値
	1	00h（将来拡張のための予約）
	1	00h（将来拡張のための予約）
	1	00h（将来拡張のための予約）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

※レスポンスに含まれる閾値は、上位側の処理に必要な情報ではありません。
※レスポンスが返るまでに約1秒かかります。タイムアウト処理にご注意ください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 02 B3 13 03 1C 0D
- レスポンス
02 00 30 06 B3 13 A1 00 00 00 03 A2 0D

7.9.14 RSSI 値の読み取り

RF タグに対する各種コマンド（リード、ライト等）を実行し、処理に成功すると、RF タグからのレスポンス信号強度（RSSI 値）がリーダーライタ内部に保持されます。

その RSSI 値を読み取るコマンドです。

本コマンドは、必ず「RF タグに対するコマンド実行後」に実行する必要があります。

<注意事項>

- Inventory(16slot)コマンド、Inventory2 コマンド実行後の RSSI 値は必ず「0」が返り、正しい値が返りませんのでご注意ください。
RSSI 値を読み取りたい場合は事前に他のコマンドを実行してください。
- ISO/IEC15693、ISO/IEC14443 TypeA、TypeB、FeliCa でのみ正しい値が返ります。
ISO/IEC18000-3(Mode3)は正しい値が返りませんのでご注意ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	4Fh
データ長	1	03h
データ部	1	B3h（詳細コマンド）
	1	11h（パラメータ固定）
	1	01h（パラメータ固定）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	04h
データ部	1	B3h（詳細コマンド）
	1	11h（パラメータ固定）
	1	01h（パラメータ固定）
	1	RSSI 値：0～13（00h～0Dh）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4F 03 B3 11 01 03 1C 0D
- レスポンス
02 00 30 04 B3 11 01 0D 03 0B 0D

7.9.15 リーダライタ動作モードの書き込み

リーダーライタの動作モードを書き込むコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	07h
データ部	1	詳細コマンド 00h : RAM への書き込み 10h : EEPROM への書き込み
	1	リーダライタ動作モード 00h : コマンドモード [初期値] 01h : オートスキャンモード 02h : トリガーモード 03h : ポーリングモード 50h : 連続インベントリモード 58h : RDLOOP モード 63h : EPC インベントリモード (※2) 64h : EPC インベントリリードモード (※2) 54h : カードディテクションモード
	1	将来拡張のための予約 (通常は 00h)
	1	ビット 割り当て bit0 将来拡張のための予約 (通常は 0) bit1 将来拡張のための予約 (通常は 0) bit2 アンチコリジョン (※1) 0 : 無効 [初期値] 1 : 有効 bit3 読み取り動作 (※1) 0 : 1 回読み取り 1 : 連続読み取り [初期値] bit4 ブザー (※1) 0 : 鳴らさない 1 : 鳴らす [初期値] bit5 送信データ (※1) 0 : ユーザデータのみ [初期値] 1 : ユーザデータ + UID bit6 通信速度 0 : 19200bps 1 : 9600bps 0 : 38400bps 1 : 115200bps bit7 0 : 0 : 1 : 1 : ※19200bps [初期値]
		将来拡張のための予約 (通常は 00h) (※3)
	1	ポーリング時間 (上位バイト) (※3)
	1	ポーリング時間 (下位バイト) (※3)
	ポーリングモード時のみ有効 設定値 * 200ms	
	ETX	03h
	SUM	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
	CR	0Dh

- ※1 ISO14443TypeA 通信コマンド、ISO14443TypeB 通信コマンド、FeliCa 通信コマンドの動作には影響しません。
- ※2 ISO/IEC18000-3(Mode3)対応機種のみ使用可能
- ※3 動作モード設定の際にポーリングモードを選択した場合のみ有効なフィールドです。ポーリングモード以外を選択した場合には不要となります。

<注意事項>

- 通信速度
通信速度の変更は、リーダーライタのリスタート後から有効となります。
- カードディテクションモード
カードディテクションモードの状態にあるリーダーライタは、上位からのコマンドを受信しても無応答となり、その処理は必ず失敗します。
コマンド受信後の動作モードはコマンドモードに遷移しますので、2 回目以降のコマンド処理は正常に動作します。
初回のコマンドは無応答となりますので、タイムアウトの処理などに配慮する必要があります。
- EEPROM への書き込み
EEPROM への書き込みを実行した場合、リーダーライタは自動的に EEPROM データの再読み込みを行います。
リーダーライタの RAM に保存されたデータは EEPROM データで上書きされます。

注意

USBインターフェースボード経由で使用する場合の注意点



USB接続時にはプラグアンドプレイで機器の認証が行われますが、R/Wが給電された直後からデータレスポンスを上げ続ける設定で使用する場合、USBの認識が正常にできず、以下のような症状が発生する可能性があります。

- ポートオープンができない
(デバイスマネージャではCOMは認識されるが、オープンできない)
- マウスなど周辺機器が誤動作する

<対策>

「ノーリードコマンドの設定＝有効」で使用する、または、タグがアンテナ上に配置されたまま電源起動する可能性がある場合、コマンドモード以外の動作モードをEEPROMに書き込まないでください

自動読み取りモードを使用する場合は、アプリケーション起動後にコマンド制御で「(EEPROMではなく) RAMへの書き込み」にて各種動作モード設定を行ってください。

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	00h
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド (RAM への書き込み／コマンドモード)
02 00 4E 04 00 00 00 18 03 6F 0D
- レスポンス
02 00 30 00 03 35 0D
- コマンド (RAM への書き込み／ポーリングモード)
02 00 4E 07 00 03 00 18 00 01 2C 03 A2 0D
- レスポンス
02 00 30 00 03 35 0D

7.9.16 RF タグ動作モードの書き込み

RF タグ動作モードを書き込むコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容	
STX	1	02h	
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)	
コマンド	1	4Eh	
データ長	1	02h	
データ部	1	詳細コマンド 09h : RAM への書き込み 19h : EEPROM への書き込み	
	1	ビット	割り当て
		bit0	将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit1~3 (※1)	符号化方式 (リーダーライタ → RF タグ) 001 : ISO14443 TypeA 010 : ISO15693 1/4 [初期値] 011 : ISO14443 TypeB 100 : ISO18000-3 Mode3 101 : FeliCa (その他 : 将来拡張のための予約)
		bit4 (※2)	変調度 (リーダーライタ → RF タグ) 0 : 10% [初期値] 1 : 100%
		bit5 (※2)	サブキャリア (RF タグ → リーダライタ) 1 : シングルサブキャリア (ASK) [固定値]
		bit6	1 [固定値]
		bit7	偶数パリティ bit0~bit7 までの「1 の個数」の合計が偶数になるように調整するための補正用パリティビットです。 bit0~bit6 までの「1 の個数」合計が偶数の場合 0 bit0~bit6 までの「1 の個数」合計が奇数の場合 1 となります。
ETX	1	03h	
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)	
CR	1	0Dh	

※1 本設定値は、「自動読み取りモード」または「RF タグ通信コマンド」の動作には影響しません。
 本設定に関わらず、使用する動作モードや RF タグ通信コマンドに合わせて、符号化方式の設定は自動的に最適値に設定されます。

また、記載している設定値以外は使用しないでください。

※2 ISO14443TypeA 通信コマンド、ISO14443TypeB 通信コマンド、FeliCa 通信コマンド、EPC 通信コマンドの動作には影響しません。

<注意事項>

- EEPROM への書き込み
EEPROM への書き込みを実行した場合、リーダーライタは自動的に EEPROM データの再読み込みを行います。
リーダーライタの RAM に保存されたデータは EEPROM データで上書きされます。
- 符号化方式
ISO15693 1/4 : 転送レート 26.48kbps
TR3XM-C106 シリーズでは、符号化方式（リーダーライタ→RF タグ）が 1/4 のみ対応となります。
- 変調度
ショートレンジリーダーライタ以外の機種は、100%に設定することはできません。
- サブキャリア
TR3XM-C106 シリーズでは、サブキャリア設定（RF タグ→リーダーライタ）はシングルサブキャリア（ASK）のみ対応となります。
- 偶数パリティ
S6700 系リーダーライタとの互換性維持のためのフィールドであり、リーダーライタは本フィールドのチェックを行いません。
(0 または 1 のどちらを設定しても正常に動作します)

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	00h
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 02 19 44 03 B2 0D
- レスポンス
02 00 30 00 03 35 0D

7.9.17 アンチコリジョンモードの書き込み

アンチコリジョンモードを書き込むコマンドです。

アンチコリジョンモードについては、「3.3 アンチコリジョンモード」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	02h
データ部	1	76h (詳細コマンド)
		<u>アンチコリジョンモード</u>
	1	00h : 通常モード [初期値]
		01h : 高速モード 1
		02h : 高速モード 2
		03h : 高速モード 3
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	76h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 02 76 00 03 CB 0D
- レスポンス
02 00 30 01 76 03 AC 0D

<注意事項>

- EEPROM への書き込み
本コマンドは、EEPROM の値を更新するコマンドです。
EEPROM の値が更新された場合、リーダーライタは自動的に EEPROM データの再読み込みを行います。リーダーライタの電源 OFF を実行しても設定は保持されます。
リーダーライタの RAM に保存されたデータは EEPROM データで上書きされます。

7.9.18 AFI 指定値の書き込み

リーダーライタの EEPROM に AFI 指定値を書き込むコマンドです。

※ AFI 指定値

リーダーライタは、特定の AFI 値を持つ RF タグのみを通信相手とする機能を持っています。

リーダーライタの EEPROM に任意の AFI 値をあらかじめ保存しておき、保存された AFI 値と一致する AFI 値を持つ RF タグのみと通信を行います。

この EEPROM に保存する AFI 値を AFI 指定値と呼んでいます。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	02h
データ部	1	51h (詳細コマンド)
	1	AFI 指定値 (初期値 : 00h)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	51h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 02 51 31 03 D7 0D
- レスポンス
02 00 30 01 51 03 87 0D

<注意事項>

- EEPROM への書き込み
本コマンドは、EEPROM の値を更新するコマンドです。
EEPROM の値が更新された場合、リーダーライタは自動的に EEPROM データの再読み込みを行います。リーダーライタの電源 OFF を実行しても設定は保持されます。
リーダーライタの RAM に保存されたデータは EEPROM データで上書きされます。

7.9.19 RF 送信信号設定の書き込み

RF 送信信号設定を書き込むコマンドです。

RF 送信信号設定については、「3.4 RF 送信信号設定」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	02h
データ部	1	77h (詳細コマンド)
	1	<u>RF 送信信号設定</u>
		00h : 起動時 ON [初期値]
		01h : 起動時 OFF (コマンド受付以降 ON)
		02h : コマンド実行時以外常時 OFF
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	77h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 02 77 00 03 CC 0D
- レスポンス
02 00 30 01 77 03 AD 0D

<注意事項>

- EEPROM への書き込み
本コマンドは、EEPROM の値を更新するコマンドです。
EEPROM の値が更新された場合、リーダーライタは自動的に EEPROM データの再読み込みを行います。リーダーライタの電源 OFF を実行しても設定は保持されます。
リーダーライタの RAM に保存されたデータは EEPROM データで上書きされます。
- なお、ISO15693 以外の RF タグを使用する場合は、「コマンド実行時以外常時 OFF」に設定しないでください。RF タグ通信コマンドが正常に動作しません。

7.9.20 RF タグ通信設定の書き込み

RF タグ通信設定を書き込むコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	02h
データ部	1	78h (詳細コマンド)
	1	RF タグ通信設定
		00h : 通常設定 [初期値] 01h : MB89R116/MB89R118
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	78h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 02 78 00 03 CD 0D
- レスポンス
02 00 30 01 78 03 AE 0D

<注意事項>

- **EEPROM** への書き込み
本コマンドは、EEPROM の値を更新するコマンドです。
EEPROM の値が更新された場合、リーダーライタは自動的に EEPROM データの再読み込みを行います。リーダーライタの電源 OFF を実行しても設定は保持されます。
リーダーライタの RAM に保存されたデータは EEPROM データで上書きされます。
- ISO14443TypeA 通信コマンド、ISO14443TypeB 通信コマンド、FeliCa 通信コマンドを実行する場合、本設定は動作に影響しません。

7.9.21 S6700 互換モード設定の書き込み

S6700 互換モード設定を書き込むコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	02h
データ部	1	79h (詳細コマンド)
	1	S6700 互換モード設定
		00h : 通常モード [初期値] 01h : S6700 互換モード
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	79h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 02 79 00 03 CE 0D
- レスポンス
02 00 30 01 79 03 AF 0D

<注意事項>

- EEPROM への書き込み
本コマンドは、EEPROM の値を更新するコマンドです。
EEPROM の値が更新された場合、リーダーライタは自動的に EEPROM データの再読み込みを行います。リーダーライタの電源 OFF を実行しても設定は保持されます。
リーダーライタの RAM に保存されたデータは EEPROM データで上書きされます。

7.9.22 汎用ポート値の書き込み

リーダーライタの汎用ポート値を書き込むコマンドです。

なお、本コマンドで汎用ポート値の書き込みを行うためには、各汎用ポートの入出力設定が「出力」に設定されていることが必要です。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	03h
データ部	1	9Fh (詳細コマンド)
	1	書き込みを行う汎用ポートの指定 (0 : 書き込まない / 1 : 書き込む)
		ビット 割り当て
		bit0 汎用ポート 1 の値
		bit1 汎用ポート 2 の値
		bit2 汎用ポート 3 の値
		bit3 汎用ポート 4 の値
		bit4 汎用ポート 5 の値
		bit5 汎用ポート 6 の値
		bit6 汎用ポート 7 の値
		bit7 汎用ポート 8 の値
	1	書き込む値 (0 : Low / 1 : High)
		ビット 割り当て
		bit0 汎用ポート 1 の値
		bit1 汎用ポート 2 の値
		bit2 汎用ポート 3 の値
		bit3 汎用ポート 4 の値
		bit4 汎用ポート 5 の値
		bit5 汎用ポート 6 の値
		bit6 汎用ポート 7 の値
		bit7 汎用ポート 8 の値
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	9Fh (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 03 9F 05 05 03 FF 0D
- レスポンス
02 00 30 01 9F 03 D5 0D

7.9.23 拡張ポート値の書き込み

リーダーライタの拡張ポート値を書き込むコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容	
STX	1	02h	
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)	
コマンド	1	4Eh	
データ長	1	02h	
データ部	1	56h (詳細コマンド)	
	1	書き込む値 (0 : Low / 1 : High)	
		ビット	割り当て
		bit0	拡張ポート 1 の値
		bit1	拡張ポート 2 の値
		bit2	拡張ポート 3 の値
		bit3	将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit4	将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit5	将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit6	将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit7	将来拡張のための予約 (通常は 0)
ETX	1	03h	
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)	
CR	1	0Dh	

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容	
STX	1	02h	
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)	
コマンド	1	30h (ACK)	
データ長	1	02h	
データ部	1	56h (詳細コマンド)	
	1	拡張ポートの値 (0 : Low / 1 : High)	
		ビット	割り当て
		bit0	拡張ポート 1 の値
		bit1	拡張ポート 2 の値
		bit2	拡張ポート 3 の値
		bit3	将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit4	将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit5	将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit6	将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit7	将来拡張のための予約 (通常は 0)
ETX	1	03h	
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)	
CR	1	0Dh	

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 02 56 07 03 B2 0D
- レスポンス
02 00 30 02 56 07 03 94 0D

7.9.24 EEPROM 設定値の書き込み

EEPROM 設定値をアドレス単位（1 バイト単位）で書き込むコマンドです。

EEPROM のアドレスおよび設定手順については、「第 8 章 EEPROM」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	4Eh
データ長	1	03h
データ部	1	B4h（詳細コマンド）
	1	書き込みアドレス
	1	書き込みデータ
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	01h
データ部	1	B4h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 03 B4 06 00 03 10 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

7.9.25 自動読取モード設定の書き込み

自動読み取りモードの設定値を書き込むコマンドです。

※EPC 関連パラメータ(bit0/bit1)は ISO/IEC18000-3(Mode3)対応機種のみサポートします。

別紙「ISO18000-3M3 通信プロトコル説明書」を併せて参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容	
STX	1	02h	
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)	
コマンド	1	4Eh	
データ長	1	03h	
データ部	1	B3h (詳細コマンド)	
	1	09h (RAM への書き込み)	
		89h (EEPROM への書き込み) ※1	
	1	ビット	割り当て
		bit0 ※2	<u>UII バッファリング処理</u> EPC インベントリモード、EPC インベントリリードモードを使用する場合、UII データをリーダー内部でバッファリングし、重複チェックを行う場合に設定します。 「行わない」に設定した場合、動作環境によっては 1 回の処理で同じタグデータを複数回読み取る場合があります。 本設定は、UII データがユニークである前提で使用可能な設定です。異なるタグに同じ UII データを書き込んでいる場合、本設定は「行わない」を選択する必要があります。
			0 : 行わない[初期設定] 1 : 行う
		bit1 ※2	<u>EPC 自動読取モード時の読取枚数</u> EPC インベントリモード、EPC インベントリリードモードを使用する場合、1 回の処理毎のタグ読み取り枚数を返します。 0 : 返さない[初期設定] 1 : 返す ※3
			<u>アンテナ自動切替終了時のレスポンス</u> 「アンテナ自動切替」が有効の場合、選択アンテナ番号が 0 に戻るたびに、切替サイクル終了を示すレスポンスを返します。 0 : 返さない[初期設定] 1 : 返す ※4
		bit3-bit7	将来拡張のための予約 (通常は 0)
ETX	1	03h	
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)	
CR	1	0Dh	

- ※1：リーダライタに設定を書き込み、次回電源投入時に設定した内容で起動します
 ※2：ISO/IEC18000-3(Mode3)対応機種のみサポート
 ※3：USB インターフェースボード経由で使用する場合、または RS232C インターフェースボードを接続して「USB/RS-232C 変換ケーブル」を経由して接続する場合、以下の点にご注意ください。

「EPC 自動読取モード時の読取枚数：返す」の場合には、「リーダライタ動作モードの設定」で EEPROM に「EPC インベントリモード」や「EPC インベントリリードモード」等の「自動読み取りモード」を書き込まないでください。

「自動読み取りモード」を書き込んだ場合、リーダライタの電源 ON 時にアンテナ上に RF タグを置いていなくても、リーダライタから上位機器に「読み取り枚数のレスポンス」が連続して上がってきます。

そのため、上位機器側の USB 機器のプラグアンドプレイ認証が出来なくなり、リーダライタが上位機器側で認識できなくなる場合があります。

- ※4：USB インターフェースボード経由で使用する場合、または RS232C インターフェースボードを接続して「USB/RS-232C 変換ケーブル」を経由して接続する場合、以下の点にご注意ください。

「アンテナ自動切替：有効」および「アンテナ自動切替終了時のレスポンス：返す」を設定している場合には、「リーダライタ動作モードの設定」で EEPROM に「連続インベントリモード」等の「自動読み取りモード」を書き込まないでください。

「自動読み取りモード」を書き込んだ場合、リーダライタの電源 ON 時にアンテナ上に RF タグを置いていなくても、リーダライタから上位機器に「アンテナ自動切替終了時のレスポンス」が連続して上がってきます。

そのため、上位機器側の USB 機器のプラグアンドプレイ認証が出来なくなり、リーダライタが上位機器側で認識できなくなる場合があります。

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	B3h (詳細コマンド)
	1	09h (RAM への書き込み) 89h (EEPROM への書き込み)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.13 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 03 B3 09 00 03 12 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B3 09 03 F3 0D

7.9.26 カードディテクションモード設定の書き込み

カードディテクションモード設定を書き込むコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Eh
データ長	1	06h
データ部	1	B3h (詳細コマンド)
	1	14h (パラメータ固定)
	1	カードディテクション動作モード
		00h : MifareClassic 指定ブロックの読み取り
		01h : TypeA UID の読み取り
		02h : TypeA(非セキュア) 指定ブロックの読み取り
		03h : ISO15693 UID の読み取り [初期値]
		04h : ISO15693 指定ブロックの読み取り
		FFh : カード検出後コマンドモードに戻る (※1)
	1	Mifare/TypeA 読み取りブロック番号 (初期値 : 04h)
	1	ISO15693 読取開始ブロック番号 (初期値 : 00h)
	1	ISO15693 読取終了ブロック番号 (初期値 : 01h)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※1 動作モード FFh(カード検出後コマンドモードに戻る)を選択した場合、リーダーライタはカードの読み取り処理は行わず、上位に通知だけしてコマンドモードに戻ります。
上位機器は、通知を受けた後コマンドを実行して必要な処理を行い、再度カードディテクションモードに戻す処理が必要となります。

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	B3h (詳細コマンド)
	1	14h (パラメータ固定)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4E 06 B3 14 00 04 00 01 03 25 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B3 14 03 FE 0D

7.10 RF タグ通信コマンド

本章で説明するコマンドは、全て ISO15693 準拠の RF タグに対応したコマンドです。

7.10.1 オプションフラグ

RF タグ通信コマンド（一部コマンドを除く）のコマンドフォーマットに含まれるオプションフラグ（サイズ：1 バイト）について説明します。

※ISO14443TypeA コマンド、ISO14443TypeB 通信コマンド、FeliCa 通信コマンド、EPC 通信コマンドを実行する際、オプションフラグは使用しません。

[フォーマット]

ビット	フラグ	内容
bit0	UID_flag	UID 指定オプション
bit1		
bit2	select_flag	Select 状態の RF タグとの交信
bit3	address_flag	将来拡張のための予約（通常は 0）
bit4	option_flag	読み込み系コマンド・書き込み系コマンドのオプション
bit5	AFI_flag	AFI 値を指定した RF タグとの交信
bit6	Nb_slot_flag	Inventory のオプション
bit7	将来拡張のための予約（通常は 0）	

● UID_flag (bit0/bit1)

任意の UID を指定して RF タグとの交信を行うためのオプションです。

Bit1	bit0	内容
0	0	<u>UID を指定しない</u> すべての RF タグを交信対象とします。
0	1	<u>コマンド毎に UID を指定する</u> コマンド中に任意の UID を含めて、同一の UID を持つ RF タグのみを交信対象とします。
1	0	<u>カレント UID を指定する</u> リーダライタの RAM に保存されたカレント UID と同一の UID を持つ RF タグのみを交信対象とします。
1	1	将来拡張のための予約（使用しないでください）

● select_flag (bit2)

Select 状態の RF タグのみと交信を行うためのオプションです。

Bit2	内容
0	すべての RF タグを交信対象とします。
1	Select 状態の RF タグのみを交信対象とします。

● option_flag (bit4)

読み取り系コマンドの場合

レスポンスにブロックセキュリティステータス（当該ブロックのロック情報）を含めるためのオプションです。

Bit4	内容
0	レスポンスにブロックセキュリティステータスを含めません。
1	レスポンスにブロックセキュリティステータスを含めます。

※ 読み込み系コマンド

- ・ ReadSingleBlock
- ・ ReadMultiBlock

書き込み系コマンドの場合

送信対象の RF タグ種別を指定するためのオプションです。

Bit4	内容
0	ICODE SLI または my-d
1	Tag-it HF-I

※ 書き込み系コマンド

- ・ WriteSingleBlock
- ・ LockBlock
- ・ WriteMultiBlock
- ・ WriteAFI
- ・ LockAFI
- ・ WriteDSFID
- ・ LockDSFID

● AFI_flag (bit5)

AFI 値を指定して RF タグとの通信を行うためのオプションです。

本オプションは、Inventory および Inventory2 の使用時のみ有効です。

Inventory については「7.10.2 Inventory」をご参照ください。

Inventory2 については「7.10.17 Inventory2」をご参照ください。

Bit5	内容
0	すべての RF タグを通信対象とします。
1	リーダライタの EEPROM に保存された AFI 指定値と同一の AFI 値を持つ RF タグのみを通信対象とします。 AFI 指定値については、「7.9.18 AFI 指定値の書き込み」をご参照ください。

● Nb_slot_flag (bit6)

アンチコリジョン処理を行うためのオプションです。

本オプションは、Inventory の使用時のみ有効です。

Inventory については「7.10.2 Inventory」をご参照ください。

Bit6	内容
0	アンチコリジョン処理を行います。(16slot)
1	アンチコリジョン処理を行いません。(1slot)

7.10.2 Inventory

RF タグの UID (ISO15693 準拠の RF タグのみ) を読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	02h
データ部	1	01h (詳細コマンド)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照)
		値 意味
		40h Nb_slot_flag (bit6) : 1 アンチコリジョン処理を行わない
		00h Nb_slot_flag (bit6) : 0 アンチコリジョン処理を行う
		60h AFI_flag (bit5) : 1 Nb_slot_flag (bit6) : 1 AFI 値を指定する + アンチコリジョン処理を行わない
		20h AFI_flag (bit5) : 1 Nb_slot_flag (bit6) : 0 AFI 値を指定する + アンチコリジョン処理を行う
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	0Ah
データ部	1	01h (詳細コマンド)
	1	DSFID
	8	<u>UID</u> 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB)
		8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 02 01 40 03 C0 0D
- レスポンス
02 00 30 0A 01 00 82 87 BB 01 00 00 07 E0 03 EC 0D

※1 アンチコリジョン処理

アンチコリジョン処理の実行有無は、オプションフラグ内の Nb_slot_flag (bit6) の値によって決定します。

Nb_slot_flag (bit6)	内容
0	アンチコリジョン処理を行います。(16slot)
1	アンチコリジョン処理を行いません。(1slot)

※2 最大読み取り件数 (アンチコリジョン処理)

アンチコリジョン処理実行時に読み取り可能な RF タグ数の最大値は 100 件です。

※3 アンチコリジョン処理後の RF タグの状態

アンチコリジョン処理後、RF タグは Quiet 状態となります。

RF タグの状態遷移については「4.1 RF タグの状態遷移 (ISO15693)」をご参照ください。

※4 Inventory 実行時のリーダライタの動作

Inventory 実行時のリーダライタの動作は、リーダライタの動作モード設定 (項目 : 読み取り動作) の内容によって異なります。

リーダライタの動作モード設定については「第 2 章 リーダライタの動作モード」、「7.9.15 リーダライタ動作モードの書き込み」をご参照ください。

読み取り動作	リーダライタの動作
1 回読み取り	Inventory のみを実行します。
連続読み取り	Inventory の実行前に RF タグの Quiet 状態を解除する処理を実行します。 Quiet 状態解除処理後に Inventory を実行するため、Quiet 状態の RF タグに対しても Inventory が有効となります。

※5 レスポンスのバイト数

レスポンスのバイト数は、RF タグ 1 枚につき 17 バイトです。

複数枚の RF タグを検出した場合は、RF タグ 1 枚ごとに 17 バイトのレスポンスとなります。

100 枚の RF タグを検出した場合は、17 (バイト) × 100 (枚) = 1700 バイトのレスポンスとなります。

- ※6 AFI 値の指定
AFI 値を指定した RF タグとの通信有無は、オプションフラグ内の AFI_flag (bit5) の値によって決定します。

AFI_flag (bit5)	内容
0	すべての RF タグを通信対象とします。
1	リーダライタの EEPROM に保存された AFI 指定値と同一の AFI 値を持つ RF タグのみを通信対象とします。 AFI 指定値については、「4.3.3 AFI のコード」「7.9.18 AFI 指定値の書き込み」をご参照ください。

7.10.3 StayQuiet

RF タグを静止状態へ遷移させるコマンドです。

RF タグの状態遷移について「4.1 RF タグの状態遷移 (ISO15693)」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	02h : UID を含まない 0Ah : UID を含む
データ部	1	02h (詳細コマンド)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照)
	(8)	<u>UID</u> オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	00h
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

必ず、ACK 応答となります。(NACK は返りません)

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 02 02 40 03 C1 0D
- レスポンス
02 00 30 00 03 35 0D

<注意事項>

- 本コマンドは、RF タグの UID を指定して実行することが必須のコマンドです。
(ISO15693 で規定されています)
- UID の指定を行わずに本コマンドを実行した場合は、リーダライタが自動的に UID を指定して RF タグとの通信を行います。
このとき使用される UID は、リーダライタの RAM に保存されたカレント UID です。
カレント UID については、「7.8.4 カレント UID の読み取り」、「7.8.11 カレント UID の設定」をご参照ください。

7.10.4 ReadSingleBlock

RF タグのユーザ領域のうち、任意の 1 ブロックを読み取るコマンドです。

また、データと同時にブロックのロック情報（当該ブロックがロックされているかどうか）を読み取ることができます。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	78h
データ長	1	03h : UID を含まない 0Bh : UID を含む
データ部	1	20h（詳細コマンド）
	1	ブロック番号（00h～）
	1	オプションフラグ（「7.10.1 オプションフラグ」参照）
	(8)	<u>UID</u> オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス – ブロックサイズが 4 バイトの RF タグ]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	05h : ロック情報を含まない 06h : ロック情報を含む
データ部	1	20h（詳細コマンド）
	(1)	<u>ロック情報</u> オプションフラグ内の option_flag において「レスポンスにブロックセキュリティステータスを含める」を選択している場合のみ含まれます。 00h : ロックされていません。 01h : ロックされています。
	4	<u>読み取りデータ</u> 1byte 目 : ブロックの最下位バイト（LSB） 4byte 目 : ブロックの最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス – ブロックサイズが 8 バイトの RF タグ]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	09h : ロック情報を含まない 0Ah : ロック情報を含む
データ部	1	20h (詳細コマンド)
	(1)	<u>ロック情報</u> オプションフラグ内の option_flag において「レスポンスにブロックセキュリティステータスを含める」を選択している場合のみ含まれます。 00h : ロックされていません。 01h : ロックされています。
	8	<u>読み取りデータ</u> 1byte 目 : ブロックの最下位バイト (LSB) 8byte 目 : ブロックの最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 03 20 00 40 03 E0 0D
- レスポンス
02 00 30 05 20 31 32 33 34 03 24 0D

7.10.5 WriteSingleBlock

RF タグのユーザ領域のうち、任意の 1 ブロックヘータを書き込むコマンドです。

[コマンド – ブロックサイズが 4 バイトの RF タグ]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	07h : UID を含まない 0Fh : UID を含む
データ部	1	21h (詳細コマンド)
	1	ブロック番号 (00h～)
	4	書き込みデータ 1byte 目 : ブロックの最下位バイト (LSB) 4byte 目 : ブロックの最上位バイト (MSB)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照) ※RF タグにより異なります。詳細はタグ仕様をご確認ください。
		bit4 通信対象の RF タグ種別
		0 ICODE SLI、MB89R119C...他
		1 Tag-it HF-I...他
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[コマンド – ブロックサイズが8バイトのRF タグ]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	0Bh : UID を含まない 13h : UID を含む
データ部	1	21h (詳細コマンド)
	1	ブロック番号 (00h～)
	8	書き込みデータ 1byte 目 : ブロックの最下位バイト (LSB) 8byte 目 : ブロックの最上位バイト (MSB)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照) ※RF タグにより異なります。詳細はタグ仕様をご確認ください。
		bit4 通信対象の RF タグ種別
		0 my-d、MB89R118...他
		1 MB89R118...他
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	21h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 07 21 00 31 32 33 34 50 03 BF 0D
- レスポンス
02 00 30 01 21 03 57 0D

※1 ロック済みブロックへの書き込み

通信対象の RF タグ種別によって、ロック済みのブロックへ書き込みを行った際のレスポンスが異なります。

なお、S6700 互換モードについては「3.5 S6700 互換モード設定」をご参照ください。

S6700 互換モード設定	通信対象の RF タグ種別	レスポンス
通常モード	Tag-it HF-I シリーズ ICODE SLI シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	ロック済みブロックへの書き込みは、NACK レスポンスとなります。
S6700 互換モード	Tag-it HF-I シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	
	ICODE SLI シリーズ	書き込み済みのデータと同じデータの書き込みを行った場合に ACK レスポンスとなります。 ただし、UID 指定で同じデータの書き込みを行った場合は NACK レスポンスとなります。 書き込み済みのデータと異なるデータの書き込みを行った場合は、NACK レスポンスとなります。

7.10.6 LockBlock

RF タグのユーザ領域のうち、任意の 1 ブロックをロック（書き換え不可）するコマンドです。
一度実施したロックは、解除することができません。

「通常モード」で本コマンドを実行し、タグからの応答が受信できなかった場合は、リーダライタ内部で自動的にベリファイ処理を行い ACK、NACK を判断します。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	78h
データ長	1	03h : UID を含まない 0Bh : UID を含む
データ部	1	22h（詳細コマンド）
	1	ブロック番号（00h～）
	1	オプションフラグ（「7.10.1 オプションフラグ」参照） ※RF タグにより異なります。詳細はタグ仕様をご確認ください。
		bit4 交信対象の RF タグ種別
		0 ICODE SLI、my-d、MB89R シリーズ...他
		1 Tag-it HF-I...他
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	01h
データ部	1	22h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 03 22 00 50 03 F2 0D
- レスポンス
02 00 30 01 22 03 58 0D

※1 ロック済みブロックのロック

通信対象の RF タグ種別と S6700 互換モード設定値の組み合わせによって、ロック済みのブロックへロックを行った際のレスポンスが異なります。

なお、S6700 互換モードについて「3.5 S6700 互換モード設定」をご参照ください。

S6700 互換モード設定	通信対象の RF タグ種別	レスポンス
通常モード	Tag-it HF-I シリーズ ICODE SLI シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	ロック済みブロックへのロックは、NACK レスポンスとなります。
S6700 互換モード	Tag-it HF-I シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	
	ICODE SLI シリーズ	ACK レスポンスとなります。 ただし、UID 指定でロックした場合は NACK レスポンスとなります。

7.10.7 ReadMultiBlock

RF タグのユーザ領域のうち、単一のブロックまたは連続する複数のブロックを一度に読み取るコマンドです。

また、データと同時にブロックのロック情報（当該ブロックがロックされているかどうか）を読み取ることができます。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	78h
データ長	1	04h : UID を含まない 0Ch : UID を含む
データ部	1	23h（詳細コマンド）
	1	読み取り開始ブロック番号（00h～）
	1	読み取りブロック数（00h～） ※ 読み取るブロック数 - 1 の値を設定します。
	1	オプションフラグ（「7.10.1 オプションフラグ」参照）
	(8)	<u>UID</u> オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス – ブロックサイズが4バイトのRF タグ]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	1+(4×n) : ロック情報を含まない 1+(5×n) : ロック情報を含む ※ n : 読み取りブロック数 (00h～) + 1
データ部	1	23h (詳細コマンド)
	(1)	ロック情報 オプションフラグ内の option_flag において「レスポンスにブロックセキュリティステータスを含める」を選択している場合のみ含まれます。 00h : ロックされていません。 01h : ロックされています。
	4	読み取りデータ 1byte 目 : ブロックの最下位バイト (LSB) 4byte 目 : ブロックの最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※ 複数ブロックの読み取りを実行した場合は、データ部（ロック情報・読み取りデータ）の値が「読み取ったブロック数」回、繰り返されます。

[ACK レスポンス – ブロックサイズが8バイトのRF タグ]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	1+(8×n) : ロック情報を含まない 1+(9×n) : ロック情報を含む ※ n : 読み取りブロック数 (00h～) + 1
データ部	1	23h (詳細コマンド)
	(1)	ロック情報 オプションフラグ内の option_flag において「レスポンスにブロックセキュリティステータスを含める」を選択している場合のみ含まれます。 00h : ロックされていません。 01h : ロックされています。
	8	読み取りデータ 1byte 目 : ブロックの最下位バイト (LSB) 8byte 目 : ブロックの最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※ 複数ブロックの読み取りを実行した場合は、データ部（ロック情報・読み取りデータ）の値が「読み取ったブロック数」回、繰り返されます。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 04 23 00 01 40 03 E5 0D
- レスポンス
02 00 30 09 23 31 32 33 34 35 36 37 38 03 05 0D

[読み取り可能な最大ブロック数]

RF タグ	読み取り可能な最大ブロック数	
	ロック情報を含まない	ロック情報を含む
Tag-it HF-I Plus	63	50
Tag-it HF-I Standard	未サポートのコマンド	
Tag-it HF-I Pro	未サポートのコマンド	
ICODE SLI	28	28
ICODE SLI-S	未サポートのコマンド	
ICODE SLI-L	未サポートのコマンド	
ICODE SLIX	28	28
ICODE SLIX-S	未サポートのコマンド	
ICODE SLIX2	63	50
my-d SRF55V02P	56	50
my-d SRF55V10P	63	50
my-d SRF55V01P (my-d Light)	未サポートのコマンド	
MB89R118C	2	2
MB89R119B	63	50
MB89R112	7	7

7.10.8 WriteMultiBlock

RF タグのユーザ領域のうち、単一のブロックまたは連続する複数のブロックヘータを書き込むコマンドです。

本コマンドに対応した RF タグは、富士通製「MB89R118C／MB89R119B」のみです。

尚、S6700 互換モードの場合、オプションフラグの設定により動作が異なります。

Option_flag=0：コマンド成功の場合でも、常に NACK 応答を返します。

Option_flag=1：正常処理であれば、ACK 応答を返します。

※通常モードの場合、上記設定に関係なく正常処理であれば、ACK 応答を返します。

[コマンド - ブロックサイズが 4 バイトの RF タグ]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	4 + (4×n) : UID を含まない 12 + (4×n) : UID を含む ※ n : 書き込みブロック数 (00h～) + 1
データ部	1	24h (詳細コマンド)
	1	書き込み開始ブロック番号 (00h～)
	1	書き込みブロック数 (00h～) ※ 書き込むブロック数 - 1 の値を設定します。
	4	書き込みデータ ※ [書き込むブロック数] 回、繰り返します。 1byte 目 : ブロックの最下位バイト (LSB) 4byte 目 : ブロックの最上位バイト (MSB)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照) ※RF タグにより異なります。詳細はタグ仕様をご確認ください。
		bit4 通信対象の RF タグ種別
		0 MB89R119B...他 1 MB89R119B...他
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※ 複数ブロックの書き込みを実行する場合は、データ部 (書き込みデータ) の値を「書き込むブロック数」回、繰り返します。

[コマンド – ブロックサイズが 8 バイトの RF タグ]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	4 + (8×n) : UID を含まない 12 + (8×n) : UID を含む ※ n : 書き込みブロック数 (00h～) + 1
データ部	1	24h (詳細コマンド)
	1	書き込み開始ブロック番号 (00h～)
	1	書き込みブロック数 (00h～) ※ 書き込むブロック数 - 1 の値を設定します。
	8	書き込みデータ ※ [書き込むブロック数] 回、繰り返します。 1byte 目 : ブロックの最下位バイト (LSB) 8byte 目 : ブロックの最上位バイト (MSB)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照) ※RF タグにより異なります。詳細はタグ仕様をご確認ください。
		bit4 通信対象の RF タグ種別
		0 MB89R118C...他 1 MB89R118C...他
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
	1	ETX
	1	SUM
	1	CR

※ 複数ブロックの書き込みを実行する場合は、データ部（書き込みデータ）の値を「書き込むブロック数」回、繰り返します。

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	24h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 0C 24 00 01 31 32 33 34 35 36 37 38 50 03 A2 0D
- レスポンス
02 00 30 01 24 03 5A 0D

[書き込み可能な最大ブロック数]

RF タグ	書き込み可能な最大ブロック数	
	UID を指定しない	UID を指定する
Tag-it HF-I Plus	未サポートのコマンド	
Tag-it HF-I Standard	未サポートのコマンド	
Tag-it HF-I Pro	未サポートのコマンド	
ICODE SLI	未サポートのコマンド	
ICODE SLI-S	未サポートのコマンド	
ICODE SLI-L	未サポートのコマンド	
ICODE SLIX	未サポートのコマンド	
ICODE SLIX-S	未サポートのコマンド	
ICODE SLIX2	未サポートのコマンド	
my-d SRF55V01P (my-d Light)	未サポートのコマンド	
MB89R118C	2	2
MB89R119B	2	2
MB89R112	未サポートのコマンド	

7.10.9 SelectTag

RF タグを選択状態へ遷移させるコマンドです。

RF タグの状態遷移について「4.1 RF タグの状態遷移 (ISO15693)」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	02h : UID を含まない 0Ah : UID を含む
データ部	1	25h (詳細コマンド)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照)
	(8)	<u>UID</u> オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	25h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 02 25 40 03 E4 0D
- レスポンス
02 00 30 01 25 03 5B 0D

7.10.10 ResetToReady

RF タグをレディ状態へ遷移させるコマンドです。

RF タグの状態遷移について「4.1 RF タグの状態遷移 (ISO15693)」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	02h : UID を含まない 0Ah : UID を含む
データ部	1	26h (詳細コマンド)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照)
	(8)	<u>UID</u> オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	26h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 02 26 40 03 E5 0D
- レスポンス
02 00 30 01 26 03 5C 0D

7.10.11 WriteAFI

RF タグの AFI 領域にデータを書き込むコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	03h : UID を含まない 0Bh : UID を含む
データ部	1	27h (詳細コマンド)
	1	AFI 値
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照) ※RF タグにより異なります。詳細はタグ仕様をご確認ください。
		bit4 交信対象の RF タグ種別
		0 ICODE SLI、my-d、MB89R シリーズ...他
		1 Tag-it HF-I、MB89R シリーズ...他
データ部	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	27h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 03 27 31 50 03 28 0D
- レスポンス
02 00 30 01 27 03 5D 0D

- ※1 ロック済み AFI 領域への書き込み
 通信対象の RF タグ種別と S6700 互換モード設定値の組み合わせによって、ロック済みの AFI 領域へ書き込みを行った際のレスポンスが異なります。
 なお、S6700 互換モードについて「3.5 S6700 互換モード設定」をご参照ください。

S6700 互換モード設定	通信対象の RF タグ種別	レスポンス
通常モード	Tag-it HF-I シリーズ ICODE SLI シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	ロック済み AFI 領域への書き込みは、NACK レスポンスとなります。
	Tag-it HF-I シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	
S6700 互換モード	ICODE SLI シリーズ	書き込み済みのデータと同じデータの書き込みを行った場合に ACK レスポンスとなります。 ただし、UID 指定で同じデータの書き込みを行った場合は NACK レスポンスとなります。
		書き込み済みのデータと異なるデータの書き込みを行った場合は、NACK レスポンスとなります。

7.10.12 LockAFI

RF タグの AFI 領域をロック（書き換え不可）するコマンドです。
一度実施したロックは解除することができません。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	78h
データ長	1	02h : UID を含まない 0Ah : UID を含む
データ部	1	28h（詳細コマンド）
	1	オプションフラグ（「7.10.1 オプションフラグ」参照） ※RF タグにより異なります。詳細はタグ仕様をご確認ください。
		bit4 交信対象の RF タグ種別
		0 ICODE SLI、my-d、MB89R シリーズ...他
		1 Tag-it HF-I、MB89R シリーズ...他
	(8)	<u>UID</u> オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	01h
データ部	1	28h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 02 28 50 03 F7 0D
- レスポンス
02 00 30 01 28 03 5E 0D

7.10.13 WriteDSFID

RF タグの DSFID 領域にデータを書き込むコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	03h : UID を含まない 0Bh : UID を含む
データ部	1	29h (詳細コマンド)
	1	DSFID 値
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照) ※RF タグにより異なります。詳細はタグ仕様をご確認ください。
		bit4 交信対象の RF タグ種別
		0 ICODE SLI、my-d、MB89R シリーズ...他
		1 Tag-it HF-I、MB89R シリーズ...他
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	29h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 03 29 00 50 03 F9 0D
- レスポンス
02 00 30 01 29 03 5F 0D

- ※1 ロック済み DSFID 領域への書き込み
 通信対象の RF タグ種別と S6700 互換モード設定値の組み合わせによって、ロック済みの DSFID 領域へ書き込みを行った際のレスポンスが異なります。
 なお、S6700 互換モードについて「3.5 S6700 互換モード設定」をご参照ください。

S6700 互換モード設定	通信対象の RF タグ種別	レスポンス
通常モード	Tag-it HF-I シリーズ ICODE SLI シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	ロック済み DSFID 領域への書き込みは、NACK レスポンスとなります。
	Tag-it HF-I シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	
S6700 互換モード	ICODE SLI シリーズ	書き込み済みのデータと同じデータの書き込みを行った場合に ACK レスポンスとなります。 ただし、UID 指定で同じデータの書き込みを行った場合は NACK レスポンスとなります。
		書き込み済みのデータと異なるデータの書き込みを行った場合は、NACK レスポンスとなります。

7.10.14 LockDSFID

RF タグの DSFID 領域をロック（書き換え不可）するコマンドです。
一度実施したロックは解除することができません。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	78h
データ長	1	02h : UID を含まない 0Ah : UID を含む
データ部	1	2Ah（詳細コマンド）
	1	オプションフラグ（「7.10.1 オプションフラグ」参照） ※RF タグにより異なります。詳細はタグ仕様をご確認ください。
		bit4 交信対象の RF タグ種別
		0 ICODE SLI、my-d、MB89R シリーズ...他
		1 Tag-it HF-I、MB89R シリーズ...他
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	01h
データ部	1	2Ah（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 02 2A 50 03 F9 0D
- レスポンス
02 00 30 01 2A 03 60 0D

7.10.15 GetSystemInfo
RF タグのシステム情報を読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	02h : UID を含まない 0Ah : UID を含む
データ部	1	2Bh (詳細コマンド)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照)
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	0Fh (0Ah~0Fh)
データ部	1	2Bh (詳細コマンド)
	1	情報フラグ
		ビット 割り当て
		bit0 DSFID のサポート状況 0 : サポートしない (DSFID のフィールドがない) 1 : サポートする (DSFID のフィールドがある)
		bit1 AFI のサポート状況 0 : サポートしない (AFI のフィールドがない) 1 : サポートする (AFI のフィールドがある)
		bit2 メモリサイズのサポート状況 0 : サポートしない (メモリサイズのフィールドがない) 1 : サポートする (メモリサイズのフィールドがある)
		bit3 IC 基準情報のサポート状況 0 : サポートしない (IC 基準情報のフィールドがない) 1 : サポートする (IC 基準情報のフィールドがある)
		bit4 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit5 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit6 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit7 将来拡張のための予約 (通常は 0)
	8	UID 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
	(1)	DSFID 情報フラグの bit0 が「0」である場合、本フィールドは存在しません。
	(1)	AFI 情報フラグの bit1 が「0」である場合、本フィールドは存在しません。
	(2)	メモリサイズ 情報フラグの bit2 が「0」である場合、本フィールドは存在しません。
		ビット 割り当て
		bit0~7 ブロック数 ※1
		bit8~12 ブロックサイズ (バイト)
		bit13 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit14 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit15 将来拡張のための予約 (通常は 0)
	(1)	IC 基準情報 情報フラグの bit3 が「0」である場合、本フィールドは存在しません。
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※1 ICODE SLI-L の場合、「ブロック数=48(30h)」が返りますが、実際のブロック数は「8」となります。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 02 2B 40 03 EA 0D
- レスポンス
02 00 30 0F 2B 0F 82 87 BB 01 00 00 07 E0 00 31 3F 03 88 03 25 0D

7.10.16 GetMBlockSecSt

RF タグのユーザ領域のうち、単一のブロックまたは連続する複数のブロックのロック情報（ブロックがロックされているかどうか）を読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	78h
データ長	1	04h : UID を含まない 0Ch : UID を含む
データ部	1	2Ch（詳細コマンド）
	1	読み取り開始ブロック番号（00h～）
	1	読み取りブロック数（00h～） ※ 読み取るブロック数 - 1 の値を設定します。
	1	オプションフラグ（「7.10.1 オプションフラグ」参照）
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	1 + n ※ n : 読み取りブロック数（00h～） + 1
データ部	1	2Ch（詳細コマンド）
	(1)	ロック情報 00h : ロックされていません。 01h : ロックされています。
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

※ 複数ブロックの読み取りを実行した場合は、データ部（ロック情報）の値が[読み取ったブロック数]回、繰り返されます。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 04 2C 00 01 40 03 EE 0D
- レスポンス
02 00 30 03 2C 00 00 03 64 0D

7.10.17 Inventory2

アンテナの発信範囲内に滞在するすべての RF タグ (ISO15693 準拠の RF タグのみ) から UID を読み取るコマンドです。

- ・読み取った RF タグの UID 数のみをリーダーライタから受け取るパラメータ
- ・UID 数と UID を同時にリーダーライタから受け取るパラメータがあります。

また、アンチコリジョンモードの設定値によってレスポンスの順番が異なります。
アンチコリジョンモードについては「3.3 アンチコリジョンモード」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	03h
データ部	1	F0h (詳細コマンド)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照)
	1	読み取りパラメータ
		00h : UID 数のみ 01h : UID 数と UID
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス] (読み取りパラメータ : UID 数のみ)

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	F0h (詳細コマンド)
	1	UID 数
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス] (読み取りパラメータ : UID 数のみ)

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド/レスポンス例] (読み取りパラメータ : UID 数のみ)

- ・ コマンド
02 00 78 03 F0 40 00 03 B0 0D
- ・ レスポンス
02 00 30 02 F0 01 03 28 0D

[ACK レスポンス] (読み取りパラメータ : UID 数と UID)

- アンチコリジョンモード : 通常モード、高速処理モード 1、高速処理モード 2
はじめに、「[ACK レスポンス] (読み取りパラメータ : UID 数のみ)」に記載のレスポンスが返された後、下表のレスポンスが「UID 数」回、返されます。
- アンチコリジョンモード : 高速処理モード 3
下表のレスポンスが返された後、最後に「[ACK レスポンス] (読み取りパラメータ : UID 数のみ)」に記載のレスポンスが返されます。

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	49h
データ長	1	09h
データ部	1	DSFID
	8	UID 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB)
		8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス] (読み取りパラメータ : UID 数と UID)

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例] (読み取りパラメータ : UID 数と UID)

- コマンド
02 00 78 03 F0 40 01 03 B1 0D
- レスポンス (通常モード、高速処理モード 1、高速処理モード 2)
<UID 数→UID の順に返る>
02 00 30 02 F0 02 03 29 0D
02 00 49 09 00 82 87 BB 01 00 00 07 E0 03 03 0D
02 00 49 09 00 64 87 BB 01 00 00 07 E0 03 E5 0D
- レスポンス (高速処理モード 3)
<UID→UID 数の順に返る>
02 00 49 09 00 82 87 BB 01 00 00 07 E0 03 03 0D
02 00 49 09 00 64 87 BB 01 00 00 07 E0 03 E5 0D
02 00 30 02 F0 02 03 29 0D

- ※1 最大読み取り件数
読み取り可能な RF タグ数の最大値は、100 件です。
- ※2 Inventory2 実行後の RF タグの状態
Inventory2 実行後、RF タグは **Quiet** 状態となります。
RF タグの状態遷移については「4.1 RF タグの状態遷移 (ISO15693)」をご参照ください。
- ※3 Inventory2 実行時のリーダライタの動作
Inventory2 実行時のリーダライタの動作は、リーダライタの動作モード設定（項目：読み取り動作）の内容によって異なります。
リーダライタの動作モード設定については「第 2 章 リーダライタの動作モード」、「7.9.15 リーダライタ動作モードの書き込み」をご参照ください。

読み取り動作	リーダライタの動作
1 回読み取り	Inventory2 のみを実行します。
連続読み取り	Inventory2 の実行前に RF タグの Quiet 状態を解除する処理を実行します。 Quiet 状態解除処理後に Inventory2 を実行するため、 Quiet 状態の RF タグに対しても Inventory2 が有効となります。

- ※4 レスポンスのバイト数
レスポンスのバイト数は、RF タグ 1 枚につき 17 バイトです。
複数枚の RF タグを検出した場合は、RF タグ 1 枚ごとに 17 バイトのレスポンスとなります。
100 枚の RF タグを検出した場合は、17 (バイト) × 100 (枚) = 1700 バイトのレスポンスとなります。
- ※5 AFI 値の指定
AFI 値を指定した RF タグとの交信有無は、オプションフラグ内の AFI_flag (bit5) の値によって決定します。

AFI_flag (bit5)	内容
0	すべての RF タグを交信対象とします。
1	リーダライタの EEPROM に保存された AFI 指定値と同一の AFI 値を持つ RF タグのみを交信対象とします。 AFI 指定値については、「7.9.17 AFI 指定値の書き込み」をご参照ください。

7.10.18 ReadBytes

RF タグのユーザ領域のうち、単一のブロックまたは連続する複数のブロックからバイト単位でデータを読み取るコマンドです。

本コマンドは、EEPROMの設定（アドレス49 bit0 : ReadBytes/RDLOOP系の内部処理）により、タグに対して実行されるコマンドが異なるため処理時間も変動します。

読み取るデータ長が多くなるほど、[bit0=1 : Read Multi Block] とした方が処理時間は短くなります。

設定方法については、「8.11 ReadBytes/RDLOOP系の内部処理」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	78h
データ長	1	04h : UID を含まない 0Ch : UID を含む
データ部	1	A0h（詳細コマンド）
	1	読み取り開始ブロック番号（00h～）
	1	読み取りバイト数（01h～）
	1	オプションフラグ（「7.10.1 オプションフラグ」参照）
	(8)	<u>UID</u> オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	1 + n ※ n : 読み取りバイト数（01h～）
データ部	1	A0h（詳細コマンド）
	n	<u>読み取りデータ</u> ※ n : 読み取りバイト数（01h～） 1byte 目 : 最下位バイト（LSB） nbyte 目 : 最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 04 A0 00 04 40 03 65 0D
- レスポンス
02 00 30 05 A0 31 32 33 34 03 A4 0D

[読み取り可能な最大バイト数]

RF タグ	読み取り可能な最大バイト数
Tag-it HF-I Plus	254
Tag-it HF-I Standard	44
Tag-it HF-I Pro	48
ICODE SLI	112
ICODE SLI-S	160
ICODE SLI-L	32
ICODE SLIX	112
ICODE SLIX-S	160
ICODE SLIX2	254
my-d SRF55V02P	254
my-d SRF55V10P	254
my-d SRF55V01P (my-d Light)	60
MB89R118C	254
MB89R119B	未サポート
MB89R112	未サポート

7.10.19 WriteBytes

RF タグのユーザ領域のうち、単一のブロックまたは連続する複数のブロックへバイト単位でデータを書き込むコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	4 + n : UID を含まない 12 + n : UID を含む ※ n : 書き込みバイト数 (01h～)
データ部	1	A1h (詳細コマンド)
	1	書き込み開始ブロック番号 (00h～)
	1	書き込みバイト数 (01h～)
	(n)	書き込みデータ ※ n : 書き込みバイト数 (01h～)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照)
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	詳細コマンド
		S6700 互換モード
		値 通信対象の RF タグ種別
		00h Tag-It HF-I Plus
		A1h Tag-It HF-I Pro/Standard ICODE SLI、my-d、富士通製 RF タグ
		通常モード
		値 通信対象の RF タグ種別
		A1h Tag-it HF-I、ICODE SLI、my-d、富士通製 RF タグ
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※ S6700 互換モードでは、通信対象の RF タグ種別によって詳細コマンドの値が異なります。
S6700 互換モードについては「3.5 S6700 互換モード設定」をご参照ください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 08 A1 00 04 31 32 33 34 40 03 34 0D
- レスポンス
02 00 30 01 A1 03 D7 0D

[書き込み可能な最大バイト数]

RF タグ	書き込み可能な最大バイト数	
	UID を指定しない	UID を指定する
Tag-it HF-I Plus	250	242
Tag-it HF-I Standard	32	32
Tag-it HF-I Pro	32	32
ICODE SLI	112	112
ICODE SLI-S	160	160
ICODE SLI-L	32	32
ICODE SLIX	112	112
ICODE SLIX-S	160	160
ICODE SLIX2	250	242
my-d SRF55V02P	232	232
my-d SRF55V10P	250	242
my-d SRF55V01P (my-d Light)	52	52
MB89R118C	250	242
MB89R119B	未サポート	
MB89R112	未サポート	

- ※1 ロック済みブロックへの書き込み
 発信対象の RF タグ種別によって、ロック済みのブロックへ書き込みを行った際のレスポンスが異なります。

S6700 互換モード設定	発信対象の RF タグ種別	レスポンス
通常モード	Tag-it HF-I シリーズ ICODE SLI シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	ロック済みブロックへの書き込みは、NACK レスポンスとなります。
S6700 互換モード	Tag-it HF-I シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	
	ICODE SLI シリーズ	書き込み済みのデータと同じデータの書き込みを行った場合に ACK レスポンスとなります。 ただし、UID 指定で同じデータの書き込みを行った場合は NACK レスポンスとなります。 書き込み済みのデータと異なるデータの書き込みを行った場合は、NACK レスポンスとなります。

- ※2 書き込みバイト数に関する注意
 書き込みバイト数が RF タグブロックサイズの整数倍でない場合、最終ブロックには不定なデータ書き込みが行われます。

例)

Tag-it HF-I (ブロックサイズ: 4 バイト) に対して
 「31h 32h 33h 34h 35h」の 5 バイトを書き込んだ場合

[書き込み前]

ブロック番号	MSB			LSB
0	00	00	00	00
1	00	00	00	00

[書き込み後]

ブロック番号	MSB			LSB
0	34	33	32	31
1	**	**	**	35

※ 「**」の箇所が不定なデータで上書きされます。

7.10.20 LockBytes

RF タグのユーザ領域のうち、単一のブロックまたは連続する複数のブロックを一度にロック（書き換え不可）するコマンドです。

一度実施したロックは、解除することができません。

「通常モード」で本コマンドを実行し、タグからの応答が受信できなかった場合は、リーダライタ内部で自動的にベリファイ処理を行い ACK、NACK を判断します。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	78h
データ長	1	04h : UID を含まない 0Ch : UID を含む
データ部	1	F6h（詳細コマンド）
	1	ロック開始ブロック番号（00h～）
	1	ロックブロック数（00h～） ※ ロックするブロック数 - 1 の値を設定します。
	1	オプションフラグ（「7.10.1 オプションフラグ」参照）
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	01h
データ部	1	F6h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 04 F6 00 01 40 03 B8 0D
- レスポンス
02 00 30 01 F6 03 2C 0D

※1 ロック済みブロックのロック

交信対象の RF タグ種別と S6700 互換モード設定値の組み合わせによって、ロック済みのブロックへロックを行った際のレスポンスが異なります。

なお、S6700 互換モードについて「3.5 S6700 互換モード設定」をご参照ください。

S6700 互換モード設定	交信対象の RF タグ種別	レスポンス
通常モード	Tag-it HF-I シリーズ ICODE SLI シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	ロック済みブロックへのロックは、NACK レスポンスとなります。
S6700 互換モード	Tag-it HF-I シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	
	ICODE SLI シリーズ	ACK レスポンスとなります。 ただし、UID 指定でコマンドを実行した場合は NACK レスポンスとなります。

7.10.21 RDLOOPCmd

リーダライタの動作モードを RDLOOP モードへ遷移させるコマンドです。
取得データのフォーマットについては、「7.2 RDLOOP モード」を参照してください。

以下、本コマンド使用時の注意事項になります。

- 本コマンドは、リーダライタの動作モード設定（項目：アンチコリジョン）の内容によって、アンチコリジョン処理の実行有無が異なります。

アンチコリジョン	リーダライタの動作
無効	アンチコリジョン処理を行いません。
有効	アンチコリジョン処理を行います。

- 本コマンドは、リーダライタの動作モード設定（項目：読み取り動作）の内容によって、リーダライタの動作が異なります。

読み取り動作	リーダライタの動作
1 回読み取り	一度読み取った RF タグを Quiet 状態へ遷移させます。 RF タグがアンテナの交信範囲内に滞在し続ける間、同一の RF タグを繰り返し読み取ることはありません。
連続読み取り	リーダライタは、RF タグの Quiet 状態を解除する処理を自動的に行います。RF タグがアンテナの交信範囲内に滞在し続ける間、同一の RF タグを繰り返し読み取ります。

リーダライタの動作モード設定については「第 2 章 リーダライタの動作モード」、「7.9.15 リーダライタ動作モードの書き込み」をご参照ください。

- 本コマンドはトリガー機能有効にて使用する場合、コマンドモード移行設定では機能しません。
- 本コマンドは、EEPROMの設定（アドレス49 bit0 : ReadBytes/RDLOOP系の内部処理）により、タグに対して実行されるコマンドが異なるため処理時間も変動します。
読み取るデータ長が多くなるほど、[bit0=1 : Read Multi Block] とした方が処理時間は短くなります。

設定方法については、「8.11 ReadBytes/RDLOOP系の内部処理」をご参照ください。

<注意事項>

- ・本コマンドにおけるパラメータ設定は、リーダライタ本体の EEPROM 設定に優先して実行されます。
- ・本コマンドのパラメータ設定において、RF タグ未読み取り時の NACK 応答「bit1=1(返す)」設定の場合、タグからのレスポンスが無い（タグの読み取りが無い）時はコマンドの ACK レスポンスとは別に「データ長：0」の NACK レスポンスを返します。

[コマンドに対する ACK レスポンス]

02 00 30 01 F2 03 28 0D

[NACK レスポンス] ※bit1=1 設定時

02 00 31 00 03 36 0D

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	06h
データ部	1	F2h (詳細コマンド)
	1	コマンドパラメータ
		ビット 割り当て
		bit0 <u>実行種別</u> 0 : リーダライタ動作モードを RDLOOP モードへ遷移させます。 1 : リーダライタ動作モードを一時的に RDLOOP モードへ遷移させます。RF タグの読み取り処理完了後、すぐにコマンドモードへ戻ります。
		bit1 <u>RF タグ未読み取り時の NACK 応答</u> 0 : 返さない 1 : 返す
		bit2 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit3 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit4 将来拡張のための予約 (通常は 0)
		bit5 <u>RF タグ読み取り時の LED</u> 0 : 非点灯 1 : 点灯 ※ リーダライタケース内部の基板上 LED : 緑色
		bit6 <u>RF タグ未読み取り時の LED</u> 0 : 非点灯 1 : 点灯 ※ リーダライタケース内部の基板上 LED : 赤色
		bit7 <u>RF タグ読み取り時のブザー</u> 0 : 鳴らさない 1 : 鳴らす
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照)
	1	読み取り開始ブロック番号 (00h～)
	1	読み取りバイト数 (01h～)
	1	AFI 指定値
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	F2h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 06 F2 00 00 00 04 00 03 79 0D
- レスポンス
02 00 30 01 F2 03 28 0D

7.10.22 SimpleRead

RF タグのユーザ領域のうち、SimpleWrite で書き込まれたデータを読み取るコマンドです。

本コマンドは、リーダライタ動作モード設定（項目：送信データ）の内容によって、リーダライタからのレスポンスが異なります。

送信データ	リーダライタからのレスポンス
ユーザデータのみ	[ACK レスポンス]（送信データ：ユーザデータのみ）に記載
ユーザデータ + UID	[ACK レスポンス]（送信データ：ユーザデータ + UID）に記載

また、本コマンドは、リーダライタ動作モード設定（項目：アンチコリジョン）の内容によって、アンチコリジョン処理の実行有無が異なります。

アンチコリジョン	リーダライタの動作
無効	アンチコリジョン処理を行いません。
有効	アンチコリジョン処理を行います。

リーダライタの動作モード設定については「第 2 章 リーダライタの動作モード」、「7.9.15 リーダライタ動作モードの書き込み」をご参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	52h
データ長	1	00h
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]（送信データ：ユーザデータのみ）

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	44h
データ長	1	n ※ n：ユーザデータ長
データ部	n	ユーザデータ（SimpleWrite で書き込まれたデータ）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

※ アンチコリジョン処理が行われた場合は、「検出された RF タグの枚数」回、本レスポンスが返されます。

[NACK レスポンス]（送信データ：ユーザデータのみ）

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]（送信データ：ユーザデータのみ）

- コマンド
02 00 52 00 03 57 0D
- レスポンス
02 00 44 04 31 32 33 34 03 17 0D

[ACK レスポンス] (送信データ : ユーザデータ + UID)

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	64h
データ長	1	n + 8 ※ n : ユーザデータ長
データ部	8	<u>UID</u> 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
		ユーザデータ (SimpleWrite で書き込まれたデータ)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※ アンチコリジョン処理が行われた場合は、「検出された RF タグの枚数」回、本レスポンスが返されます。

[NACK レスポンス] (送信データ : ユーザデータ + UID)

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例] (送信データ : ユーザデータ + UID)

- コマンド
02 00 52 00 03 57 0D
- レスポンス
02 00 64 0C 61 87 BB 01 00 00 07 E0 31 32 33 34 03 CA 0D

7.10.23 SimpleWrite

TR3 シリーズ独自のデータフォーマットを用いてバイト単位でデータを書き込むコマンドです。
※ データフォーマットについては、「7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様」をご参照ください。

本コマンドで書き込まれたデータは、以下の方法でのみ読み取りできます。

- SimpleRead
- オートスキャンモード
- トリガーモード
- ポーリングモード

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	4Ah
データ長	1	4 + n ※ n : 書き込みバイト数 (00h～)
データ部	1	将来拡張のための予約 (00h)
	1	将来拡張のための予約 (00h)
	1	将来拡張のための予約 (00h)
	1	将来拡張のための予約 (00h)
	(n)	書き込みデータ ※ n : 書き込みバイト数 (00h～)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	00h
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 4A 08 00 00 00 00 31 32 33 34 03 21 0D
- レスポンス
02 00 30 00 03 35 0D

※1 ロック済みブロックへの書き込み

通信対象の RF タグ種別によって、ロック済みのブロックへ書き込みを行った際のレスポンスが異なります。

S6700 互換モード設定	通信対象の RF タグ種別	レスポンス
通常モード	Tag-it HF-I シリーズ ICODE SLI シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	ロック済みブロックへの書き込みは、NACK レスポンスとなります。
	Tag-it HF-I シリーズ my-d シリーズ 富士通製 RF タグ	
S6700 互換モード	ICODE SLI シリーズ	書き込み済みのデータと同じデータの書き込みを行った場合に ACK レスポンスとなります。 ただし、UID 指定で同じデータの書き込みを行った場合は NACK レスポンスとなります。
		書き込み済みのデータと異なるデータの書き込みを行った場合は、NACK レスポンスとなります。

7.10.24 Write2Blocks

RF タグのユーザ領域のうち、連続する 2 ブロックヘータを書き込むコマンドです。
本コマンドは、Tag-it HF-I Plus 専用のカスタムコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	0Bh : UID を含まない 13h : UID を含む
データ部	1	A2h (詳細コマンド)
	1	書き込み開始ブロック番号 (00h～) 偶数ブロックのみが設定できます。 奇数ブロックを設定した場合は NACK 応答となります。
	8	書き込みデータ 1byte 目 : 下位ブロックの最下位バイト (LSB) 8byte 目 : 上位ブロックの最上位バイト (MSB)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照)
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	A2h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 0B A2 00 31 32 33 34 35 36 37 38 50 03 1E 0D
- レスポンス
02 00 30 01 A2 03 D8 0D

7.10.25 Lock2Blocks

RF タグのユーザ領域のうち、連続する 2 ブロックをロック（書き換え不可）するコマンドです。
本コマンドは、Tag-it HF-I Plus 専用のカスタムコマンドです。
一度実施したロックは、解除することができません。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	78h
データ長	1	03h : UID を含まない 0Bh : UID を含む
データ部	1	A3h（詳細コマンド）
	1	ロック開始ブロック番号（00h～） 偶数ブロックのみが設定できます。 奇数ブロックを設定した場合は NACK 応答となります。
	1	オプションフラグ（「7.10.1 オプションフラグ」参照）
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	01h
データ部	1	A3h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 03 A3 00 50 03 73 0D
- レスポンス
02 00 30 01 A3 03 D9 0D

7.10.26 Kill

RF タグを無効にする（交信できない状態へ遷移させる）コマンドです。
本コマンドは、Tag-it HF-I Pro 専用のカスタムコマンドです。
一度実施した Kill（RF タグの無効化）は、解除することができません。

<注意事項>

- 本コマンドは、必ず RF タグの UID を指定して実行することが必要です。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	78h
データ長	1	0Eh
データ部	1	A8h（詳細コマンド）
	1	オプションフラグ（「7.10.1 オプションフラグ」参照）
	8	UID 1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） 8byte 目 : UID の最上位バイト（MSB）
	4	パスワード 1byte 目 : パスワードの最下位バイト（LSB） 4byte 目 : パスワードの最上位バイト（MSB） ※ RF タグのメモリ領域に書き込まれているパスワードを設定します。 パスワードが一致した場合のみ RF タグの無効化が行われます。
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	01h
データ部	1	A8h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 0E A8 51 2D 7B C1 E5 D2 C4 07 E0 01 02 03 04 03 59 0D
- レスポンス
02 00 30 01 A8 03 DE 0D

7.10.27 WriteSingleBlockPwd

ロックされたブロックに書き込まれているデータを書き換えるコマンドです。
本コマンドは、Tag-it HF-I Pro 専用のカスタムコマンドです。

<注意事項>

- 本コマンドは、必ず RF タグの UID を指定して実行することが必要です。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	13h
データ部	1	A9h (詳細コマンド)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照)
	8	<u>UID</u> 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
	4	<u>パスワード</u> 1byte 目 : パスワードの最下位バイト (LSB) 4byte 目 : パスワードの最上位バイト (MSB) ※ RF タグのメモリ領域に書き込まれているパスワードを設定します。 パスワードが一致した場合のみデータの書き換えが行われます。
	1	ブロック番号 (00h～)
	4	<u>書き込みデータ</u> 1byte 目 : ブロックの最下位バイト (LSB) 4byte 目 : ブロックの最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	A9h (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 13 A9 51 2D 7B C1 E5 D2 C4 07 E0 01 02 03 04 00 31 32 33 34 03 29 0D
- レスポンス
02 00 30 01 A9 03 DF 0D

7.10.28 Myd_Read

RF タグのユーザ領域のうち、任意の 1 ブロックを読み取るコマンドです。
本コマンドは、my-d 専用のカスタムコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	04h : UID を含まない 0Ch : UID を含む
データ部	1	B0h (詳細コマンド)
	1	ブロック番号 (00h～)
	1	将来拡張のための予約 (00h)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照)
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	09h
データ部	1	B0h (詳細コマンド)
	8	読み取りデータ 1byte 目 : ブロックの最下位バイト (LSB) 8byte 目 : ブロックの最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 04 B0 03 00 40 03 74 0D
- レスポンス
02 00 30 09 B0 31 32 33 34 35 36 37 38 03 92 0D

7.10.29 Myd_Write

RF タグのユーザ領域のうち、任意の 1 ブロックヘータを書き込むコマンドです。
本コマンドは、my-d 専用のカスタムコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	78h
データ長	1	0Ch : UID を含まない 14h : UID を含む
データ部	1	B1h (詳細コマンド)
	1	ブロック番号 (00h～)
	1	将来拡張のための予約 (00h)
	8	書き込みデータ 1byte 目 : ブロックの最下位バイト (LSB) 8byte 目 : ブロックの最上位バイト (MSB)
	1	オプションフラグ (「7.10.1 オプションフラグ」参照)
	(8)	UID オプションフラグ内の UID_flag において「コマンド毎に UID を指定する」を選択している場合のみ設定します。 1byte 目 : UID の最下位バイト (LSB) 8byte 目 : UID の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	詳細コマンド
		S6700 互換モード
		30h
		通常モード
		B1h
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※ S6700 互換モード設定値によって、詳細コマンドの値が異なります。
S6700 互換モードについては「3.5 S6700 互換モード設定をご参照ください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 78 0C B1 03 00 31 32 33 34 35 36 37 38 40 03 21 0D
- レスポンス
02 00 30 01 30 03 66 0D

7.10.30 ISO15693ThroughCmd

RF タグと直接交信するためのコマンドです。

リーダーライタは、上位機器から受信したコマンドをそのまま RF タグへ送信します。

詳細は、別紙「カスタムコマンド通信プロトコル説明書（ISO15693ThroughCmd 編）」を参照ください。

ICODE SLI シリーズ、MB89R シリーズなどのカスタムコマンド制御が可能です。

<注意事項>

- 本コマンドは S6700 互換モードでは使用できません。通常モードでご使用ください。
- アンチコリジョン処理には未対応です。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	78h
データ長	1	データ部のデータ長
データ部	1	FFh（詳細コマンド）
	1	<u>コマンド種別</u> 80h : コマンド送信のみ 81h : リード系コマンド 82h : ライト系コマンド 91h : Fast リード系コマンド 92h : Fast ライト系コマンド
	1	<u>受信データのデータ長（0～254）</u> RF タグが返信するデータ（フラグから CRC まで）のデータ長を設定します。 コマンド種別が 80h の場合は 0 を設定します。
	1	<u>RF タグへ送信するコマンド（4～200）</u> フラグから CRC の直前までを設定します。 （CRC はリーダーライタが自動的に計算します）
	1	
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

■コマンド種別：80h（コマンド送信のみ）の場合

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	データ部のデータ長
データ部	1	00h
	1	FFh
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

※コマンド種別が 80h の場合は、必ず ACK 応答となります。

■コマンド種別：81h（リード系コマンド）／82h(ライト系コマンド)の場合

■コマンド種別：91h（Fast リード系コマンド）／92h(Fast ライト系コマンド) の場合

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	データ部のデータ長
データ部	1	FFh（詳細コマンド）
	3～254	RF タグからの受信データ（フラグから CRC まで）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

※レスポンスの内容は IC タグからの情報の全てが含まれます。

なお、レスポンスに含まれる CRC データはリーダーライタ内部でチェックを行い、計算が正しい場合のみ ACK 応答を返します。計算が間違っていた場合は NACK 応答を返します。
また、CRC の算出は下表の定義に従います。

CRC タイプ	長さ	多項式	方向	プリセット	留数
ISO/IEC 13239	16 ビット	$X^{16} + X^{12} + X^5 + 1 =$ ‘8408’	逆方向	‘FFFF’	‘F0B8’ ,

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

7.11 RF タグ別 SimpleWrite 仕様

SimpleWrite による RF タグへのエンコードフォーマットを説明します。

SimpleWrite は、TR3 独自のデータフォーマットを用いてデータを書き込むコマンドです。

TR3 独自のデータフォーマットは、

- ・ ヘッダ情報 (4 バイト)
- ・ ユーザデータ (任意)
- ・ フッタ情報 (2 バイト)
- ・ データ長 (ヘッダ情報・データ・フッタ情報の合計バイト数)

から構成されています。

SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数は、次の制限のうち最も小さい値となります。

- 1) SimpleWrite のデータ部分に挿入可能な最大バイト数による制限

SimpleWrite のデータ部分に挿入可能な最大バイト数は、251 バイトです。

この制限により、251 バイトを超えるデータを書き込むことはできません。

SimpleWrite のコマンドフォーマットについては「7.10.23 SimpleWrite」をご参照ください。

- 2) 利用可能なユーザ領域サイズによる制限

SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数は、RF タグのユーザ領域サイズからユーザデータ以外のデータを除いたバイト数です。

(SimpleWrite では、RF タグのユーザ領域にユーザデータ以外のデータも書き込みます)

- 3) データ長領域のサイズによる制限

TR3 独自のデータフォーマットに含まれるデータ長は、1 バイトの領域に書き込まれます。

(RF タグメモリ内のどの位置に書き込まれるかは、RF タグの種別によって異なります)

この制限により、255 からユーザデータ以外のデータを除いた値が SimpleWrite で書き込み可能なデータの最大バイト数となります。

7.11.1 Tag-it HF-I Plus

ユーザ領域のブロック数 : 64 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
DSFID 領域 : あり

SimpleWrite にて「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みを行った場合、下表のように書き込まれます。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	ヘッダ情報				ユーザ 領域
1	34h	33h	32h	31h	
2	38h	37h	36h	35h	
3	**	**	フッタ情報		
4	**	**	**	**	
5	**	**	**	**	
	**				
63	**	**	**	**	
				データ長 (0Eh)	DSFID

- ヘッダ情報
ブロック 0 の Byte0 からヘッダ情報（4 バイト）が書き込まれます。
ヘッダ情報の詳細については非公開としています。
- データ開始位置
ブロック 1 の Byte0 からデータ（SimpleWrite コマンドフォーマットのデータ部に含まれる書き込みデータの値）が書き込まれます。
- フッタ情報
ブロック 3 の Byte0 からフッタ情報（2 バイト）が書き込まれます。
フッタ情報の詳細については非公開としています。
- データ長
DSFID 領域（1 バイト）にはヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれます。

[書き込み可能なデータの最大バイト数]

書き込み可能なデータの最大バイト数は「249」となります。

条件	書き込み可能なバイト数
SimpleWrite のデータ部分に挿入可能な最大バイト数による制限	251 (255 - 4)
利用可能なユーザ領域サイズによる制限	250 (256 - 6)
データ長領域のサイズによる制限	249 (255 - 6)

7.11.2 Tag-it HF-I Standard／Tag-it HF-I Pro

ユーザ領域のブロック数 : 8 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
DSFID 領域 : なし

SimpleWrite にて「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みを行った場合、下表のように書き込まれます。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	**	**	**	データ長 (0Eh)	ユーザ 領域
1	ヘッダ情報				
2	34h	33h	32h	31h	
3	38h	37h	36h	35h	
4	**	**	フッタ情報		
5	**	**	**	**	
6	**	**	**	**	
7	**	**	**	**	

- ヘッダ情報
ブロック 1 の Byte0 からヘッダ情報（4 バイト）が書き込まれます。
ヘッダ情報の詳細については非公開としています。
- データ開始位置
ブロック 2 の Byte0 からデータ（SimpleWrite コマンドフォーマットのデータ部に含まれる書き込みデータの値）が書き込まれます。
- フッタ情報
ブロック 4 の Byte0 からフッタ情報（2 バイト）が書き込まれます。
フッタ情報の詳細については非公開としています。
- データ長
ブロック 0 の Byte0 にはヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれます。

[書き込み可能なデータの最大バイト数]

書き込み可能なデータの最大バイト数は「22」となります。

条件	書き込み可能なバイト数
SimpleWrite のデータ部分に挿入可能な最大バイト数による制限	251 (255 - 4)
利用可能なユーザ領域サイズによる制限	22 (32 - 10)
データ長領域のサイズによる制限	249 (255 - 6)

7.11.3 ICODE SLI/ICODE SLIX

ユーザ領域のブロック数 : 28 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
DSFID 領域 : あり

SimpleWrite にて「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みを行った場合、下表のように書き込まれます。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	ヘッダ情報				ユーザ 領域
1	34h	33h	32h	31h	
2	38h	37h	36h	35h	
3	**	**	フッタ情報		
4	**	**	**	**	
5	**	**	**	**	
	**				
27	**	**	**	**	
				データ長 (0Eh)	DSFID

- ヘッダ情報
ブロック 0 の Byte0 からヘッダ情報（4 バイト）が書き込まれます。
ヘッダ情報の詳細については非公開としています。
- データ開始位置
ブロック 1 の Byte0 からデータ（SimpleWrite コマンドフォーマットのデータ部に含まれる書き込みデータの値）が書き込まれます。
- フッタ情報
ブロック 3 の Byte0 からフッタ情報（2 バイト）が書き込まれます。
フッタ情報の詳細については非公開としています。
- データ長
DSFID 領域（1 バイト）にはヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれます。

〔書き込み可能なデータの最大バイト数〕

書き込み可能なデータの最大バイト数は「106」となります。

条件	書き込み可能なバイト数
SimpleWrite のデータ部分に挿入可能な最大バイト数による制限	251 (255 - 4)
利用可能なユーザ領域サイズによる制限	106 (112 - 6)
データ長領域のサイズによる制限	249 (255 - 6)

7.11.4 ICODE SLI-S/ICODE SLIX-S

ユーザ領域のブロック数 : 40 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
DSFID 領域 : あり

SimpleWrite にて「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みを行った場合、下表のように書き込まれます。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	ヘッダ情報				ユーザ 領域
1	34h	33h	32h	31h	
2	38h	37h	36h	35h	
3	**	**	フッタ情報		
4	**	**	**	**	
5	**	**	**	**	
	**				
39	**	**	**	**	
				データ長 (0Eh)	DSFID

- ヘッダ情報
ブロック 0 の Byte0 からヘッダ情報（4 バイト）が書き込まれます。
ヘッダ情報の詳細については非公開としています。
- データ開始位置
ブロック 1 の Byte0 からデータ（SimpleWrite コマンドフォーマットのデータ部に含まれる書き込みデータの値）が書き込まれます。
- フッタ情報
ブロック 3 の Byte0 からフッタ情報（2 バイト）が書き込まれます。
フッタ情報の詳細については非公開としています。
- データ長
DSFID 領域（1 バイト）にはヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれます。

〔書き込み可能なデータの最大バイト数〕

書き込み可能なデータの最大バイト数は「154」となります。

条件	書き込み可能なバイト数
SimpleWrite のデータ部分に挿入可能な最大バイト数による制限	251 (255 - 4)
利用可能なユーザ領域サイズによる制限	154 (160 - 6)
データ長領域のサイズによる制限	249 (255 - 6)

7.11.5 ICODE SLI-L/SLIX-L

ユーザ領域のブロック数 : 8 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
DSFID 領域 : あり

SimpleWrite にて「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みを行った場合、下表のように書き込まれます。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	ヘッダ情報				ユーザ 領域
1	34h	33h	32h	31h	
2	38h	37h	36h	35h	
3	**	**	フッタ情報		
4	**	**	**	**	
5	**	**	**	**	
6	**	**	**	**	
7	**	**	**	**	
				データ長 (0Eh)	DSFID

- ヘッダ情報
ブロック 0 の Byte0 からヘッダ情報（4 バイト）が書き込まれます。
ヘッダ情報の詳細については非公開としています。
- データ開始位置
ブロック 1 の Byte0 からデータ（SimpleWrite コマンドフォーマットのデータ部に含まれる書き込みデータの値）が書き込まれます。
- フッタ情報
ブロック 3 の Byte0 からフッタ情報（2 バイト）が書き込まれます。
フッタ情報の詳細については非公開としています。
- データ長
DSFID 領域（1 バイト）にはヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれます。

〔書き込み可能なデータの最大バイト数〕

書き込み可能なデータの最大バイト数は「26」となります。

条件	書き込み可能なバイト数
SimpleWrite のデータ部分に挿入可能な最大バイト数による制限	251 (255 - 4)
利用可能なユーザ領域サイズによる制限	26 (32 - 6)
データ長領域のサイズによる制限	249 (255 - 6)

7.11.6 ICODE SLIX2

ユーザ領域のブロック数 : 79 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
DSFID 領域 : あり

SimpleWrite にて「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みを行った場合、下表のように書き込まれます。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	ヘッダ情報				ユーザ 領域
1	34h	33h	32h	31h	
2	38h	37h	36h	35h	
3	**	**	フッタ情報		
4	**	**	**	**	
5	**	**	**	**	
	**				
78	**	**	**	**	
				データ長 (0Eh)	DSFID

- ヘッダ情報
ブロック 0 の Byte0 からヘッダ情報（4 バイト）が書き込まれます。
ヘッダ情報の詳細については非公開としています。
- データ開始位置
ブロック 1 の Byte0 からデータ（SimpleWrite コマンドフォーマットのデータ部に含まれる書き込みデータの値）が書き込まれます。
- フッタ情報
ブロック 3 の Byte0 からフッタ情報（2 バイト）が書き込まれます。
フッタ情報の詳細については非公開としています。
- データ長
DSFID 領域（1 バイト）にはヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれます。

[書き込み可能なデータの最大バイト数]

書き込み可能なデータの最大バイト数は「249」となります。

条件	書き込み可能なバイト数
SimpleWrite のデータ部分に挿入可能な最大バイト数による制限	251 (255 - 4)
利用可能なユーザ領域サイズによる制限	310 (316 - 6)
データ長領域のサイズによる制限	249 (255 - 6)

7.11.7 my-d SRF55V10P

ユーザ領域のブロック数 : 125 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 8 バイト
DSFID 領域 : なし

SimpleWrite にて「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みを行った場合、下表のように書き込まれます。

なお、アクセス方式によりデータを格納するブロックが異なります。

※ EEPROM 設定により my-d へのアクセス方式が変わります。

詳細は「3.6 my-d アクセス方式」および「8.10 my-d 自動識別時のアクセス方式」をご参照ください。

<my-d カスタムコマンド (ページアクセス方式) >

ブロック No		Byte3/Byte7	Byte2/Byte6	Byte1/Byte5	Byte0/Byte4	
0	Low	サービス領域				
	High					
1	Low					
	High					
2	Low					
	High					
3	Low	**	**	**	データ長 (0Eh)	
	High	**	**	**	**	
4	Low	ヘッダ情報				ユーザ 領域
	High	34h	33h	32h	31h	
5	Low	38h	37h	36h	35h	
	High	**	**	フッタ情報		
		**				
127	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	

- ヘッダ情報
ブロック 4 の Byte0 からヘッダ情報 (4 バイト) が書き込まれます。
ヘッダ情報の詳細については非公開としています。
- データ開始位置
ブロック 4 の Byte4 からデータ (SimpleWrite コマンドフォーマットのデータ部に含まれる書き込みデータの値) が書き込まれます。
- フッタ情報
ブロック 5 の Byte4 からフッタ情報 (2 バイト) が書き込まれます。
フッタ情報の詳細については非公開としています。
- データ長
ブロック 3 の Byte0 にはヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれます。

<ISO オプションコマンド（ブロックアクセス方式）>

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
アクセス 不可	サービス領域				ユーザ 領域
	**	**	**	**	
247	**	**	**	**	
246	**	**	**	**	
245	**	**	**	**	
	**				
4	**	**	フッタ情報		
3	38h	37h	36h	35h	
2	34h	33h	32h	31h	
1	ヘッダ情報				
0	**	**	**	データ長 (0Eh)	

- ヘッダ情報
ブロック 1 の Byte0 からヘッダ情報（4 バイト）が書き込まれます。
ヘッダ情報の詳細については非公開としています。
- データ開始位置
ブロック 2 の Byte0 からデータ（SimpleWrite コマンドフォーマットのデータ部に含まれる書き込みデータの値）が書き込まれます。
- フッタ情報
ブロック 4 の Byte0 からフッタ情報（2 バイト）が書き込まれます。
フッタ情報の詳細については非公開としています。
- データ長
ブロック 0 の Byte0 にはヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれます。

[書き込み可能なデータの最大バイト数]

書き込み可能なデータの最大バイト数は「249」となります。

条件	書き込み可能なバイト数
SimpleWrite のデータ部分に挿入可能な最大バイト数による制限	251 (255 - 4)
利用可能なユーザ領域サイズによる制限	986 (1000 - 14)
データ長領域のサイズによる制限	249 (255 - 6)

7.11.8 my-d SRF55V02P

ユーザ領域のブロック数 : 29 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 8 バイト
DSFID 領域 : なし

SimpleWrite にて「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みを行った場合、下表のように書き込まれます。

なお、アクセス方式によりデータを格納するブロックが異なります。

※ EEPROM 設定により my-d へのアクセス方式が変わります。

詳細は「3.6 my-d アクセス方式」および「8.10 my-d 自動識別時のアクセス方式」をご参照ください。

<my-d カスタムコマンド（ページアクセス方式）>

ブロック No		Byte3/Byte7	Byte2/Byte6	Byte1/Byte5	Byte0/Byte4	
0	Low	サービス領域				
	High					
1	Low					
	High					
2	Low					
	High					
3	Low	**	**	**	データ長 (0Eh)	
	High	**	**	**	**	
4	Low	ヘッダ情報				ユーザ 領域
	High	34h	33h	32h	31h	
5	Low	38h	37h	36h	35h	
	High	**	**	フッタ情報		
		**				
31	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	

- ヘッダ情報
ブロック 4 の Byte0 からヘッダ情報（4 バイト）が書き込まれます。
ヘッダ情報の詳細については非公開としています。
- データ開始位置
ブロック 4 の Byte4 からデータ（SimpleWrite コマンドフォーマットのデータ部に含まれる書き込みデータの値）が書き込まれます。
- フッタ情報
ブロック 5 の Byte4 からフッタ情報（2 バイト）が書き込まれます。
フッタ情報の詳細については非公開としています。
- データ長
ブロック 3 の Byte0 にはヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれます。

<ISO オプションコマンド（ブロックアクセス方式）>

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
アクセス 不可	サービス領域				
	**	**	**	**	
55	**	**	**	**	
54	**	**	**	**	
53	**	**	**	**	
	**				ユーザ 領域
4	**	**	フッタ情報		
3	38h	37h	36h	35h	
2	34h	33h	32h	31h	
1	ヘッダ情報				
0	**	**	**	データ長 (0Eh)	

- ヘッダ情報
ブロック 1 の Byte0 からヘッダ情報（4 バイト）が書き込まれます。
ヘッダ情報の詳細については非公開としています。
- データ開始位置
ブロック 2 の Byte0 からデータ（SimpleWrite コマンドフォーマットのデータ部に含まれる書き込みデータの値）が書き込まれます。
- フッタ情報
ブロック 4 の Byte0 からフッタ情報（2 バイト）が書き込まれます。
フッタ情報の詳細については非公開としています。
- データ長
ブロック 0 の Byte0 にはヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれます。

[書き込み可能なデータの最大バイト数]

書き込み可能なデータの最大バイト数は「218」となります。

条件	書き込み可能なバイト数
SimpleWrite のデータ部分に挿入可能な最大バイト数による制限	251 (255 - 4)
利用可能なユーザ領域サイズによる制限	218 (232 - 14)
データ長領域のサイズによる制限	249 (255 - 6)

7.11.9 my-d Light SRF55V01P

ユーザ領域のブロック数 : 13 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 4 バイト
DSFID 領域 : なし

SimpleWrite にて「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みを行った場合、下表のように書き込まれます。

ブロック No	Byte3	Byte2	Byte1	Byte0	
0	**	**	**	データ長 (0Eh)	ユーザ 領域
1	ヘッダ情報				
2	34h	33h	32h	31h	
3	38h	37h	36h	35h	
4	**	**	フッタ情報		
5	**	**	**	**	
	**				
12	**	**	**	**	
13	サービス領域				
17					

- ヘッダ情報
ブロック 1 の Byte0 からヘッダ情報（4 バイト）が書き込まれます。
ヘッダ情報の詳細については非公開としています。
- データ開始位置
ブロック 2 の Byte0 からデータ（SimpleWrite コマンドフォーマットのデータ部に含まれる書き込みデータの値）が書き込まれます。
- フッタ情報
ブロック 4 の Byte0 からフッタ情報（2 バイト）が書き込まれます。
フッタ情報の詳細については非公開としています。
- データ長
ブロック 0 の Byte0 にはヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれます。

[書き込み可能なデータの最大バイト数]

書き込み可能なデータの最大バイト数は「42」となります。

条件	書き込み可能なバイト数
SimpleWrite のデータ部分に挿入可能な最大バイト数による制限	251 (255 - 4)
利用可能なユーザ領域サイズによる制限	42 (52 - 10)
データ長領域のサイズによる制限	249 (255 - 6)

7.11.10 MB89R118C

ユーザ領域のブロック数 : 250 ブロック
ブロックごとのバイト数 : 8 バイト
DSFID 領域 : あり

SimpleWrite にて「12345678」の 8 バイトのデータ書き込みを行った場合、下表のように書き込まれます。

ブロック No		Byte3/Byte7	Byte2/Byte6	Byte1/Byte5	Byte0/Byte4	
0	Low	ヘッダ情報				ユーザ領域
	High	34h	33h	32h	31h	
1	Low	38h	37h	36h	35h	
	High	**	**	フッタ情報		
2	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	
3	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	
4	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	
5	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	
		**				
249	Low	**	**	**	**	
	High	**	**	**	**	
		データ長 (0Eh)				DSFID

- ヘッダ情報
ブロック 0 の Byte0 からヘッダ情報（4 バイト）が書き込まれます。
ヘッダ情報の詳細については非公開としています。
- データ開始位置
ブロック 0 の Byte4 からデータ（SimpleWrite コマンドフォーマットのデータ部に含まれる書き込みデータの値）が書き込まれます。
- フッタ情報
ブロック 1 の Byte4 からフッタ情報（2 バイト）が書き込まれます。
フッタ情報の詳細については非公開としています。
- データ長
DSFID 領域（1 バイト）にはヘッダ情報～フッタ情報までのデータ長が書き込まれます。

[書き込み可能なデータの最大バイト数]

書き込み可能なデータの最大バイト数は「249」となります。

条件	書き込み可能なバイト数
SimpleWrite のデータ部分に挿入可能な最大バイト数による制限	251 (255 - 4)
利用可能なユーザ領域サイズによる制限	1994 (2000 - 6)
データ長領域のサイズによる制限	249 (255 - 6)

7.12 ISO/IEC 14443 TypeA 通信コマンド

7.12.1 ActivateIdle

ISO14443TypeA に準拠した RF タグ（カード）を Active 状態へ遷移させるコマンドです。
併せて UID を返します。

このコマンドを実行すると、内部的には「REQA⇒Anticol⇒Select」の処理をカスケードレベルの自動判定にて必要な処理までを繰り返し、ACK 応答に UID を含めてレスポンスを返します。
タグの状態が IDLE 状態／HALT 状態いずれの場合でも正常に処理が可能です。
「4.2 RF タグの状態遷移(ISO14443TypeA)」 「ActivateIdle 内部処理の概略フロー（後掲）」
を併せて参照ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	76h
データ長	1	01h
データ部	1	01h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容		
STX	1	02h		
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」 参照）		
コマンド	1	30h（ACK）		
データ長	1	データ部のデータ長		
データ部	1	01h（詳細コマンド）		
	1	UID 長 MifareUltralight : 44h		
		bit7	bit6	UID 長
		0	0	シングル : 4 バイト
		0	1	ダブル : 7 バイト
1		0	トリプル : 10 バイト	
1	1	1	未使用	
4~10	<u>UID</u> 1byte 目 : UID の最下位バイト（LSB） nbyte 目 : UID の最上位バイト（MSB） n : 4 or 7 or 10			
ETX	1	03h		
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」 参照）		
CR	1	0Dh		

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 76 01 01 03 7D 0D
- レスポンス
02 00 30 09 01 44 04 53 B3 A9 DF 02 80 03 97 0D

<ActivateIdle 内部処理概略フロー>

「4.2 RF タグの状態遷移(ISO14443TypeA)」記載の一連の処理を行っています。



7.12.2 REQA

ISO/IEC 14443-3 の REQA コマンドを RF タグ（カード）へ送信します。
IDLE 状態の RF タグに対して実行するコマンドです。
処理終了後、RF タグは READY1 状態に遷移します。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	76h
データ長	1	01h
データ部	1	20h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容		
STX	1	02h		
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」 参照）		
コマンド	1	30h（ACK）		
データ長	1	03h		
データ部	1	20h（詳細コマンド）		
	1	ATQA 下位バイト MifareUltralight：44h		
		bit7	bit6	UID 長
		0	0	シングル ：4 バイト
		0	1	ダブル ：7 バイト
		1	0	トリプル ：10 バイト
1	1	未使用		
1	ATQA 上位バイト MifareUltralight：00h			
ETX	1	03h		
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」 参照）		
CR	1	0Dh		

※ ATQA の詳細は、ISO14443-3 を参照してください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 76 01 20 03 9C 0D
- レスポンス
02 00 30 03 20 44 00 03 9C 0D

7.12.3 WUPA

ISO/IEC 14443-3 の WUPA コマンドを RF タグ（カード）へ送信します。
IDLE 状態、または HALT 状態の RF タグに対して実行するコマンドです。
処理終了後、RF タグは READY1 状態または READY1*状態に遷移します。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	76h
データ長	1	01h
データ部	1	21h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容		
STX	1	02h		
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」 参照）		
コマンド	1	30h（ACK）		
データ長	1	03h		
データ部	1	21h（詳細コマンド）		
	1	ATQA 下位バイト MifareUltralight：44h		
		bit7	bit6	UID 長
		0	0	シングル ：4 バイト
		0	1	ダブル ：7 バイト
		1	0	トリプル ：10 バイト
1	1	未使用		
1	ATQA 上位バイト MifareUltralight：00h			
ETX	1	03h		
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」 参照）		
CR	1	0Dh		

※ ATQA の詳細は、ISO14443-3 を参照してください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 76 01 21 03 9D 0D
- レスポンス
02 00 30 03 21 44 00 03 9D 0D

7.12.4 Anticoll

ISO/IEC 14443-3 の ANTICOLLISION コマンド（カスケードレベル 1）を RF タグ（カード）へ送信します。

READY1 状態または READY1*状態の RF タグに対して実行するコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	76h
データ長	1	01h
データ部	1	22h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容																				
STX	1	02h																				
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）																				
コマンド	1	30h（ACK）																				
データ長	1	06h																				
データ部	1	22h（詳細コマンド）																				
	5	レスポンスデータ 5 バイト UID のサイズによりレスポンスデータの内容が異なる																				
		<table><tr><th>シングル</th><th>ダブル</th><th>トリプル</th></tr><tr><td>uid0</td><td>CT</td><td>CT</td></tr><tr><td>uid1</td><td>uid0</td><td>uid0</td></tr><tr><td>uid2</td><td>uid1</td><td>uid1</td></tr><tr><td>uid3</td><td>uid2</td><td>uid2</td></tr><tr><td>BCC</td><td>BCC</td><td>BCC</td></tr></table>			シングル	ダブル	トリプル	uid0	CT	CT	uid1	uid0	uid0	uid2	uid1	uid1	uid3	uid2	uid2	BCC	BCC	BCC
		シングル	ダブル	トリプル																		
		uid0	CT	CT																		
		uid1	uid0	uid0																		
		uid2	uid1	uid1																		
uid3		uid2	uid2																			
BCC	BCC	BCC																				
MifareUltralight : CT=88h																						
ETX	1	03h																				
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）																				
CR	1	0Dh																				

※ レスポンスデータの詳細は、ISO14443-3 を参照してください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 76 01 22 03 9E 0D
- レスポンス
02 00 30 06 22 88 04 53 B3 6C 03 5B 0D

7.12.5 Select1

ISO/IEC 14443-3 の SELECT コマンド（カスケードレベル 1）を RF タグ（カード）へ送信します。

Anticol1 の次に実行するコマンドです。

UID 長がシングル（4 バイト）の RF タグは、本コマンドを受けると ACIVE 状態または ACTIVE* 状態に遷移します。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容	
STX	1	02h	
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）	
コマンド	1	76h	
データ長	1	06h	
データ部	1	23h（詳細コマンド）	
	5	Anticoll のレスポンスデータ 5 バイトを設定	
ETX	1	03h	
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）	
CR	1	0Dh	

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	02h
データ部	1	23h（詳細コマンド）
	1	SAK Ultra light : 04h(UID 未完)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

※ コマンドのパラメータ、レスポンスデータの詳細は、ISO14443-3 を参照してください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 76 06 23 88 04 53 B3 6C 03 A2 0D
- レスポンス
02 00 30 02 23 04 03 5E 0D

7.12.6 Anticol2

ISO/IEC 14443-3 の ANTICOLLISION コマンド（カスケードレベル 2）を RF タグ（カード）へ送信します。

READY2 状態または READY2*状態にある UID 長ダブル、トリプルの RF タグに対して、Select1 の次に実行するコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	76h
データ長	1	01h
データ部	1	24h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容	
STX	1	02h	
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）	
コマンド	1	30h（ACK）	
データ長	1	06h	
データ部	1	24h（詳細コマンド）	
	5	レスポンスデータ 5 バイト	
		UID のサイズによりレスポンスデータの内容が異なる	
		ダブル	トリプル
		uid3	CT
		uid4	uid3
uid5		uid4	
uid6		uid5	
BCC	BCC		
MifareUltralight : CT=88h			
ETX	1	03h	
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）	
CR	1	0Dh	

※ レスポンスデータの詳細は、ISO14443-3 を参照してください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 76 01 24 03 A0 0D
- レスポンス
02 00 30 06 24 A9 DF 02 80 F4 03 5D 0D

7.12.7 Select2

ISO/IEC 14443-3 の SELECT コマンド（カスケードレベル 2）を RF タグ（カード）へ送信します。

Anticol2 の次に実行するコマンドです。

UID 長がダブル（7 バイト）の RF タグは、本コマンドを受けると ACTIVE 状態または ACTIVE* 状態に遷移します。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容												
STX	1	02h												
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）												
コマンド	1	76h												
データ長	1	06h												
データ部	1	25h（詳細コマンド）												
	5	Anticol2 のレスポンスデータ 5 バイトを設定												
		<table><tr><th>ダブル</th><th>トリプル</th></tr><tr><td>uid3</td><td>CT</td></tr><tr><td>uid4</td><td>uid3</td></tr><tr><td>uid5</td><td>uid4</td></tr><tr><td>uid6</td><td>uid5</td></tr><tr><td>BCC</td><td>BCC</td></tr></table>		ダブル	トリプル	uid3	CT	uid4	uid3	uid5	uid4	uid6	uid5	BCC
ダブル		トリプル												
uid3		CT												
uid4		uid3												
uid5		uid4												
uid6		uid5												
BCC	BCC													
ETX	1	03h												
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）												
CR	1	0Dh												

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	02h
データ部	1	25h（詳細コマンド）
	1	SAK Ultra light : 0x00（UID完了、ISO14443-4に不適合）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

※ コマンドのパラメータ、レスポンスデータの詳細は、ISO14443-3 を参照してください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 76 06 25 A9 DF 02 80 F4 03 A4 0D
- レスポンス
02 00 30 02 25 00 03 5C 0D

7.12.8 Anticol3

ISO/IEC 14443-3 の ANTICOLLISION コマンド（カスケードレベル 3）を RF タグ（カード）へ送信します。

READY3 状態または READY3*状態の UID 長トリプルの RF タグに対して、Select2 の次に実行するコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	76h
データ長	1	01h
データ部	1	26h（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容						
STX	1	02h						
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」 参照）						
コマンド	1	30h（ACK）						
データ長	1	06h						
データ部	1	26h（詳細コマンド）						
	5	レスポンスデータ 5 バイト						
		<table><tr><th>トリプル</th></tr><tr><td>uid6</td></tr><tr><td>uid7</td></tr><tr><td>uid8</td></tr><tr><td>uid9</td></tr><tr><td>BCC</td></tr></table>		トリプル	uid6	uid7	uid8	uid9
トリプル								
uid6								
uid7								
uid8								
uid9								
BCC								
ETX	1	03h						
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」 参照）						
CR	1	0Dh						

※ レスポンスデータの詳細は、ISO14443-3 を参照してください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

7.12.9 Select3

ISO/IEC 14443-3 の SELECT コマンド (カスケードレベル 3) を RF タグ (カード) へ送信します。

Anticol3 の次に実行するコマンドです。

UID 長がトリプル(10 バイト)の RF タグは、本コマンドを受けると ACTIVE 状態または ACTIVE* 状態に遷移します。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	76h
データ長	1	06h
データ部	1	27h (詳細コマンド)
	5	Anticol3 のレスポンスデータ 5 バイトを設定
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	02h
データ部	1	27h (詳細コマンド)
	1	SAK
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※ コマンドのパラメータ、レスポンスデータの詳細は、ISO14443-3 を参照してください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

7.12.10 HLTA

ISO/IEC 14443-3 の HLTA コマンドを RF タグ（カード）へ送信します。

Active 状態（セレクト後）の時有効です。

処理終了後、RF タグは HALT 状態に遷移します。

尚、このコマンドは、タグからのレスポンスがない仕様の為、必ず NACK レスポンスを返します。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	76h
データ長	1	01h
データ部	1	29（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 76 01 29 03 A5 0D
- レスポンス
02 00 31 0A 04 00 00 00 00 00 00 00 00 00 03 44 0D

7.12.11 ReadNFCT2

本コマンドは、NFC Forum Type2 Tag Read Command です。
データリード用のコマンド（4 ブロック／16 バイト読込）で、RF タグが ACTIVE 状態（セレクト後）の時、有効です。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	76h
データ長	1	02h
データ部	1	28h（詳細コマンド）
	1	読み込み開始ブロック ・ Mifare Ultralight(MF0ICU1)の場合 指定範囲：0～15（データブロック：4～15）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	11h
データ部	1	28h（詳細コマンド）
	16	データ 16 バイト ・ 4 ブロック分のデータを取得
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 76 02 28 00 03 A5 0D
- レスポンス
02 00 30 11 28 04 53 B3 6C A9 DF 02 80 F4 48 00 00 00 00 00 00 03 2A 0D

7.12.12 WriteNFCT2

本コマンドは、NFC Forum Type2 Tag Write Command です。

データライト用のコマンド（1 ブロック／4 バイト書込）で、RF タグが ACTIVE 状態（セレクト後）の時有効です。

このコマンドはライト後にリーダーライタ内部でベリファイ処理を行い、ベリファイ処理に成功したら ACK 応答を返します。

[注意]

例えば、NTAG の CC 領域、PWD 領域、PACK 領域等を書き換える際は、書き換えた値が読めない可能性があり、正しく書けたとしてもベリファイ処理に失敗して NACK 応答となる場合がありますので、このような領域への書き込みについては「TypeAThroughCmd」をご使用ください。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	76h
データ長	1	06h
データ部	1	2Ah（詳細コマンド）
	1	書き込み開始ブロック ・ Mifare Ultralight(MF0ICU1)の場合 指定範囲：2～15（※1）
	4	書き込みデータ 4 バイト 1byte 目 : ブロックの最下位バイト（LSB） 4byte 目 : ブロックの最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

※1 Mifare Ultralight（MF0ICU1）書き込み開始ブロックの指定範囲 注意事項

- Block2 の MSB 側 2 バイトは、ユーザエリアをロックするためのステータスです。
本エリアを書き換える（bit* = 1 とする）ことでユーザエリアがロックされ、ロックされたユーザエリアは書き換えができなくなりますのでご注意ください。
（詳細は RF タグの仕様をご確認ください。）
- Block2 の LSB 側 2 バイトは、書き換え不可（リードオンリー）の領域です。
Block2 を書き換える場合、事前に Block2 のデータを読み取り、LSB 側 2 バイトは読み取ったデータをそのままコマンドにセットしてください。
LSB 側 2 バイトに異なるデータをセットしてコマンドを実行すると、MSB 側 2 バイトが正しく書き込めた場合でも、ベリファイに失敗して NACK 応答が返信されます。
- Block2、Block3 は OTP（One Time Programmable）領域となっています。一度「1」を書き込んだ bit は「0」に戻せませんので、本コマンドを実行する際はご注意ください。OTP 領域を書き換える場合、事前にデータを読み取り、書き換えたい bit のみ「1」に変更して書き込みデータをセットしてください。

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	01h
データ部	1	2Ah (詳細コマンド)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 76 06 2A 04 31 32 33 34 03 79 0D
- レスポンス
02 00 30 01 2A 03 60 0D

7.12.13 CompatibilityWrite

データライト用のコマンドで、RF タグが ACTIVE 状態（セレクト後）の時有効です。
コマンドには 16 バイトのデータをセットしますが、実際に書き込まれるのは LSB 側 4 バイトのみです。
このコマンドは、R/W 側でデータのベリファイを行っています。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	76h
データ長	1	12h
データ部	1	2Bh（詳細コマンド）
	1	書き込み開始ブロック ・ MIFARE Ultralight(MF0ICU1)の場合 指定範囲：2～15（※1）
	16	書き込みデータ 16 バイト LSB 側 4 バイトのみが書き込まれる 1byte 目 : ブロックの最下位バイト（LSB） 16byte 目 : ブロックの最上位バイト（MSB）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	30h（ACK）
データ長	1	01h
データ部	1	2Bh（詳細コマンド）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

※1 Mifare Ultralight（MF0ICU1）書き込み開始ブロックの指定範囲 注意事項

- Block2 の MSB 側 2 バイトは、ユーザエリアをロックするためのステータスです。
本エリアを書き換える（bit*=1 とする）ことでユーザエリアがロックされ、ロックされたユーザエリアは書き換えができなくなりますのでご注意ください。
（詳細は RF タグの仕様をご確認ください。）
- Block2 の LSB 側 2 バイトは、書き換え不可（リードオンリー）の領域です。
Block2 を書き換える場合、事前に Block2 のデータを読み取り、LSB 側 2 バイトは読み取ったデータをそのままコマンドにセットしてください。
- LSB 側 2 バイトに異なるデータをセットしてコマンドを実行すると、MSB 側 2 バイトが正しく書き込めた場合でも、ベリファイに失敗して NACK 応答が返信されます。
- Block2、Block3 は OTP（One Time Programmable）領域となっています。一度「1」を書き込んだ bit は「0」に戻せませんので、本コマンドを実行する際はご注意ください。OTP 領域を書き換える場合、事前にデータを読み取り、書き換えたい bit のみ「1」に変更して書き込みデータをセットしてください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 76 12 2B 04 32 33 34 35 01 01 01 01 01 01 01 01 01 01 03 96 0D
- レスポンス
02 00 30 01 2B 03 61 0D

7.12.14 TypeAThroughCmd

ISO14443TypeA の RF タグ（カード）と直接交信するためのコマンドです。
リーダライタは、上位機器から受信したコマンドをそのまま RF タグへ送信します。
なお、本コマンドはアンチコリジョン処理には未対応です。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h（「5.2 通信フォーマットの詳細」参照）
コマンド	1	76h
データ長	1	データ部のデータ長
データ部	1	00h（詳細コマンド）
	1	コマンド種別
		01h リードコマンド(ビットデータ受信不可)
		06h ショートフレームコマンド
		09h リードコマンド(ビットデータ受信対応)
		0Ah ライトコマンド (ビットデータ受信対応、データ受信完了待ち時間指定)
		0Fh リード/ライトコマンド (ビットデータ受信不可、データ受信完了待ち時間指定)
	1	受信データバイト長（CRC データ 2 バイトを除くデータ長）（※1）
	1～252	コマンド種別：01h、06h をセットした場合
		1～252 TypeAのRFタグへ送信するコマンド（※2）
		コマンド種別：09h をセットした場合（※3）
		1～26 TypeAのRFタグへ送信するコマンド（※2）
		コマンド種別：0Ah をセットした場合（※4）
		1 データ受信完了待ち時間（下位バイト）
		1 データ受信完了待ち時間（上位バイト） 設定時間：100ms 以下としてください
		1～26 TypeA の RF タグへ送信するコマンド（※2）
		コマンド種別：0Fh をセットした場合
		1 データ受信完了待ち時間（下位バイト）
		1 データ受信完了待ち時間（上位バイト） 設定時間：100ms 以下としてください
		1～250 TypeA の RF タグへ送信するコマンド（※2）
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値（「5.4 SUM の計算方法」参照）
CR	1	0Dh

- ※1 指定した受信データバイト長より短いデータが返される場合があります。
実際に返されるレスポンスのデータ長を必ず確認してご使用ください。
また、コマンド種別09h、0Ahの場合、RFタグからの受信データは、最大40バイトまでしか受信できません。
- ※2 CRCデータ2バイトは、リーダライタが自動計算して付加するためセット不要です。
- ※3 リーダライタのコマンド送信完了から5ms以内に受信完了しないRFタグのレスポンスは受信できません。

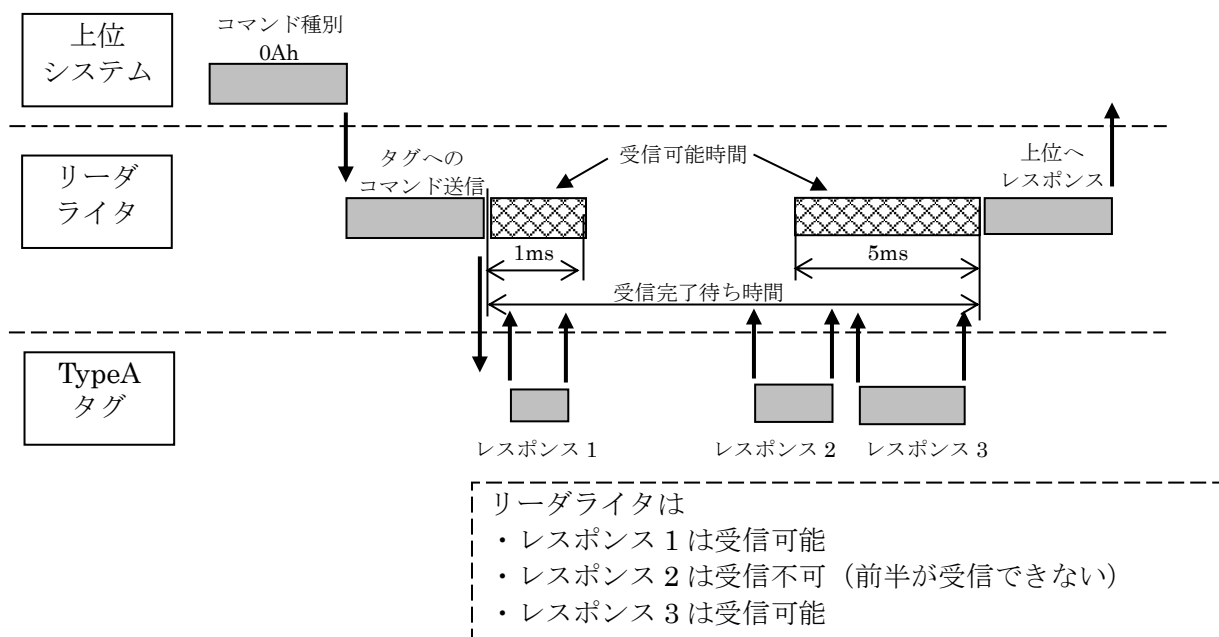
※4 リーダライタのコマンド送信完了からRFタグのレスポンス受信が完了するまでの時間を指定します。

ただし、リーダーライタは以下のタイミング以外ではRFタグのレスポンスを受信できません。

- ・ コマンド送信完了から1ms以内
- ・ コマンド送信完了から指定値の前5ms～指定値まで

RFタグの仕様を確認し、この間にRFタグのレスポンスが送信完了するように、データ受信完了待ち時間を正しく設定してください。

下記図も参照してください。



コマンド種別 0Ah を指定した場合の受信可能時間

[ACK レスpons: コマンド種別: 01h、06h、0Fh の場合]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	データ部のデータ長
データ部	1	00h (詳細コマンド)
	1~250	TypeA の RF タグ (カード) からの受信データ (※1)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※1 1RF タグから受信したデータが 3 バイト以上の場合、リーダーライタ内部で CRC のチェックを行い、CRC が正しい場合のみ「CRC データ 2 バイトを除くデータ」をレスポンスデータとしてセットします。

RF タグから受信したデータが 3 バイトに満たない場合、リーダーライタ内部では CRC チェックを行わず、全ての受信データをそのままレスポンスデータとしてセットします。

[ACK レスpons: コマンド種別: 09h、0Ah の場合]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	データ部のデータ長
データ部	1	00h (詳細コマンド)
	1	受信データのデータ長
	1	受信データの最後のバイトの有効ビット長 (0~7) 8 ビット有効の時は 0 となります。
	1~40 (※2)	TypeA の RF タグ (カード) からの受信データ (※1) (※3)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※1 RF タグから受信したデータが 3 バイト以上の場合、リーダーライタ内部で CRC のチェックを行い、CRC が正しい場合のみ「CRC データ 2 バイトを除くデータ」をレスポンスデータとしてセットします。

RF タグから受信したデータが 3 バイトに満たない場合、リーダーライタ内部では CRC チェックを行わず、全ての受信データをそのままレスポンスデータとしてセットします。

※2 コマンド種別 09h、0Ah の場合、RF タグからの受信データは、最大 40 バイトまでしか受信できません。

※3 RF タグから受信したデータが 4 ビットデータの場合、データが「Ah」の場合のみ ACK 応答となります。

「Ah」以外のデータは NACK 応答となります。

[NACK レスpons]

「7.14 NACK レスponsとエラーコード」参照。

7.13 FeliCa 通信コマンド

7.13.1 REQc

FeliCa の IDm を読み取るコマンドです。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	73h
データ長	1	05h
データ部	1	01h (詳細コマンド)
	1	システムコードの上位バイト
	1	システムコードの下位バイト
	1	00h を設定してください。
	1	タイムスロット番号 (00h を設定してください)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	13h
データ部	1	01h (詳細コマンド)
	1	情報フィールドのデータ長
	1	01h
	8	IDm (NFCID2)
		1byte 目 : IDm の最下位バイト (LSB)
		8byte 目 : IDm の最上位バイト (MSB)
	8	Pad
		1byte 目 : Pad の最下位バイト (LSB)
		8byte 目 : Pad の最上位バイト (MSB)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※ レスポンスデータの詳細は、JIS X 6319-4 の ATQC の形式の項を参照ください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
02 00 73 05 01 FF FF 00 00 03 7C 0D
- レスポンス
02 00 30 13 01 12 01 01 01 06 01 EC 09 AB 08 03 01 4B 02 4F 49 93 FF 03 88 0D

7.13.2 FeliCaThroughCmd

FeliCa と直接交信するためのコマンドです。

リーダライタは、上位機器から受信したコマンドをそのまま FeliCa へ送信します。

なお、本コマンドはアンチコリジョン処理には未対応です。

[コマンド]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	73h
データ長	1	データ部のデータ長
データ部	1	00h (詳細コマンド)
	1	コマンド種別
		01h リードコマンド
		0Dh ライトコマンド (データ受信完了待ち時間指定)
		0Fh リード/ライトコマンド (データ受信完了待ち時間指定)
	1	受信データ長 (情報フィールドのデータ長) (※2) 先頭フィールド (プリアンブル、同期コード) 及び最終フィールド (CRC 2 バイト) を除いた受信データのバイト数を指定
	1~252	コマンド種別 : 01h
		FeliCa へ送信するコマンド (※2) コマンドには、先頭フィールド (プリアンブル、同期コード) 及び最終フィールド (CRC 2 バイト) は含めない
		コマンド種別 : 0Dh (※1)
		1 データ受信完了待ち時間 (下位バイト)
		1 データ受信完了待ち時間 (上位バイト) 設定時間 : 1 秒以下としてください
		1~250 FeliCa へ送信するコマンド (※2) コマンドには、先頭フィールド (プリアンブル、同期コード) 及び最終フィールド (CRC 2 バイト) は含めない
		コマンド種別 : 0Fh (※1)
		1 データ受信完了待ち時間 (下位バイト)
		1 データ受信完了待ち時間 (上位バイト) 設定時間 : 14ms 以下としてください
		1~250 FeliCa へ送信するコマンド (※2) コマンドには、先頭フィールド (プリアンブル、同期コード) 及び最終フィールド (CRC 2 バイト) は含めない
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

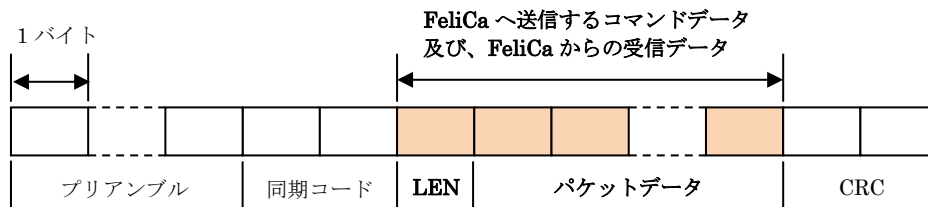
※1 「コマンド種別 : 0Fh」は他機種との互換性を確保するために準備しているコマンドです。
通常は、「コマンド種別 : 0Fh」ではなく「コマンド種別 : 0Dh」を使用してください。

※2 次頁参照

※2 データ部(4 バイト目以降)の構成は下図に示す通りです。

「FeliCa へ送信するコマンド」は、「LEN+パケットデータ」で構成され、「LEN」には「(LEN+パケットデータ) のバイト数」を設定してください。
受信パケットも同様のフォーマットになります。

＜FeliCa コマンドフォーマット＞



※LEN：コマンドデータ長、または受信データ長を表すパラメータ

[コマンド／レスポンス例]

●Read Without Encryption コマンド

・コマンド

02 00 73 13 00 01 1D 10 06 01 2E 34 D3 47 41 B0 47 01 0B 00 01 80 01 03 02 0D

・レスポンス

02 00 30 1E 00 1D 07 01 2E 34 D3 47 41 B0 47 00 00 01 D1 02 6F 53 70 91 01 3B 54 02 6A
61 E3 82 BF E3 03 27 0D

●Write Without Encryption コマンド

・コマンド

02 00 73 25 00 0D 0C 64 00 20 08 01 2E 34 D3 47 41 B0 47 01 09 00 01 80 01 11 11 11 11 11
11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 03 93 0D

・レスポンス

02 00 30 0D 00 0C 09 01 2E 34 D3 47 41 B0 47 00 00 03 0C 0D

[ACK レスポンス]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	30h (ACK)
データ長	1	データ部のデータ長
データ部	1	00h (詳細コマンド)
	1～250	FeliCa からの受信データ (情報フィールドのみ) (※1) 先頭フィールド (プリアンブル、同期コード) 及び最終フィールド (CRC 2 バイト) は含まない
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

※1 指定した受信データバイト長よりも短いデータが返信されることがありますので、このコマンドを使用する場合は、レスポンスのデータ長及びステータスフラグ 1 などを必ず確認してください。

[NACK レスポンス]

「7.14 NACK レスポンスとエラーコード」参照。

7.14 NACK レスポンスとエラーコード

リーダライタから送信される NACK レスポンスと NACK レスポンスに含まれるエラーコードについて説明します。

[NACK レスポンス 1]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	31h (NACK)
データ長	1	0Ah
データ部	1	エラーコード 1
	9	将来拡張のための予約 (通常は 00h)
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

[NACK レスポンス 2]

ラベル名	バイト数	内容
STX	1	02h
アドレス	1	00h (「5.2 通信フォーマットの詳細」参照)
コマンド	1	31h (NACK)
データ長	1	02h
データ部	1	エラーコード 1 (05h)
	1	エラーコード 2
ETX	1	03h
SUM	1	SUM 値 (「5.4 SUM の計算方法」参照)
CR	1	0Dh

- ※1 NACK レスポンス 1 と NACK レスポンス 2 について
エラーコード 1 の内容が「05h」(CMD_ISO15693_ERROR) の場合のみ NACK レスポンス 2 のフォーマットとなります。(データ長「02h」の NACK レスポンス)
その他の場合は、NACK レスポンス 1 のフォーマットとなります。
- ※2 NACK レスポンス 1 において、「将来拡張のための予約 (通常は 00h)」と記載していますが、使用方法により 00h 以外のデータがセットされる場合があります。
ただし、そのデータは意味を持ちませんので、上位側としては無視してください。
- ※3 エラーコード 2 について
エラーコード 1 の内容が「05h」(CMD_ISO15693_ERROR) の場合のみデータが付加されます。
エラーコード 2 の内容は、ISO15693 で定義されているエラーです。
(RF タグから返されるエラーです)

[エラーコード 1]

種別	エラーコード	シンボル	説明
RF タグ アクセス異常	01h	CMD_CRC_ERROR	RF タグから受信したデータの CRC を検査した結果、一致しない。
	02h	CMD_TIME_OVER	RF タグからの受信データが途中で途切れた。
	03h	CMD_RX_ERROR	アンチコリジョン処理中にエラーが発生した。
	04h	CMD_RXBUSY_ERROR	RF タグからの応答がない。
	05h	CMD_ISO15693_ERROR	ISO15693 で定義されているエラー。エラーコード 2 を参照。
	07h	CMD_ERROR	コマンド実行中にリーダライタ内部でエラーが発生。
	08h	CMD_ERROR_DETECT	コマンド処理中にエラーを検出。
コマンド 形式異常	42h	SUM_ERROR	上位機器から送信されたコマンドの SUM 値が不正。
	44h	FORMAT_ERROR	上位機器から送信されたコマンドのフォーマットが不正。

[エラーコード 2]

種別	エラーコード	説明
ISO/IEC15693	01h	コマンドがサポートされていない。 要求コードが認識されない。
	02h	コマンドが認識されない。 形式エラーが発生した。
	03h	コマンドオプションがサポートされていない。
	0Fh	原因不明のエラー、またはサポートされていないエラーコード。
	10h	指定ブロックが使用できない。 指定ブロックが存在しない。
	11h	指定ブロックがロックされている。 再度ロックすることはできない。
	12h	指定ブロックがロックされている。 内容を変更することはできない。
	13h	指定ブロックが正常にプログラムされなかった。
	14h	指定ブロックが正常にロックされなかった。
RF タグ製造者	A0h～DFh	RF タグ製造者が独自に定義するエラーコード。
ISO/IEC15693	その他	将来拡張のための予約。

第8章 EEPROM

本章では、EEPROM のアドレス一覧、および設定項目と設定手順について説明します。
EEPROM の設定値変更後は、リーダーライトをリスタートする必要があります。

8.1 EEPROM アドレス一覧

アドレス	設定項目	設定値	初期値
6	bit0	-	-
	bit1	-	-
	bit2	-	-
	bit3	-	-
	bit4	ノーリードコマンドの設定 0 = 無効 1 = 有効	0
	bit5	-	-
	bit6	-	-
	bit7	-	-
7	bit0	-	-
	bit1	自動読み取りモード動作時の AFI 指定 0 = 無効 1 = 有効	0
	bit2	-	-
	bit3	SimpleWrite コマンド実行時の UID 指定 0 = 無効 1 = 有効	0
	bit4	-	-
	bit5	-	-
	bit6	-	-
	bit7	-	-
22	bit0	リトライ回数 リトライ回数 (1~255)	1
	bit1		
	bit2		
	bit3		
	bit4		
	bit5		
	bit6		
	bit7		
28	bit0	リーダーライタの ID リーダーライタの ID (0~255)	0
	bit1		
	bit2		
	bit3		
	bit4		
	bit5		
	bit6		
	bit7		
30	bit0	汎用ポート 1 の機能 0 = LED 制御信号出力ポート 1 = 汎用ポート	0
	bit1	汎用ポート 2 の機能 0 = トリガー制御信号入力ポート 1 = 汎用ポート	0
	bit2	汎用ポート 3 の機能 0 = 機能選択 1 = 汎用ポート	0
	bit3	-	-
	bit4	-	-
	bit5	-	-
	bit6	汎用ポート 7 の機能 0 = ブザー制御信号出力ポート 1 = 汎用ポート	0
	bit7	-	-

アドレス	設定項目		設定値	初期値
31	bit0	汎用ポート 3 の機能詳細	0 = RS485 制御信号出力ポート 1 = エラー制御信号出力ポート	1
	bit1	-	-	-
	bit2	-	-	-
	bit3	-	-	-
	bit4	-	-	-
	bit5	-	-	-
	bit6	-	-	-
	bit7	-	-	-
32	bit0	汎用ポート 1 の入出力設定	0 = 入力 1 = 出力	0
	bit1	汎用ポート 2 の入出力設定	0 = 入力 1 = 出力	0
	bit2	汎用ポート 3 の入出力設定	0 = 入力 1 = 出力	0
	bit3	汎用ポート 4 の入出力設定	0 = 入力 1 = 出力	0
	bit4	汎用ポート 5 の入出力設定	0 = 入力 1 = 出力	0
	bit5	汎用ポート 6 の入出力設定	0 = 入力 1 = 出力	0
	bit6	汎用ポート 7 の入出力設定	0 = 入力 1 = 出力	0
	bit7	汎用ポート 8 の入出力設定	0 = 入力 1 = 出力	0
33	bit0	汎用ポート 1 の初期値	0 1	1
	bit1	汎用ポート 2 の初期値	0 1	1
	bit2	汎用ポート 3 の初期値	0 1	1
	bit3	汎用ポート 4 の初期値	0 1	1
	bit4	汎用ポート 5 の初期値	0 1	1
	bit5	汎用ポート 6 の初期値	0 1	1
	bit6	汎用ポート 7 の初期値	0 1	1
	bit7	汎用ポート 8 の初期値	0 1	1
36	bit0	RF タグの メモリブロックサイズ	4 (Tag-it HF-I/ICODE SLI/my-d) 8 (MB89R116/MB89R118)	4
	bit1			
	bit2			
	bit3			
	bit4			
	bit5			
	bit6			
	bit7			

アドレス	設定項目	設定値	初期値
38	bit0	-	-
	bit1	-	-
	bit2	-	-
	bit3	-	-
	bit4	ブザー種別 0 = 標準 (他励式) 1 = ブザー音大 (自励式)	0
	bit5	自動読み取りモード動作時のトリガー信号 (※1) 0 = 無効 1 = 有効	0
	bit6	-	-
	bit7	-	-
39	bit0	アンテナ自動切替 0 = 無効 1 = 有効	0
	bit1	接続アンテナ数 0 = アンテナ数 1	0
	bit2		
	bit3		
	bit4	アンテナ自動切替制御信号 (※2) 0 = 通常ポート(内蔵 2CH 有効) 1 = 拡張ポート(内蔵 2CH 無効)	0
	bit5	カスケード接続 0 = 無効 1 = 有効	0
	bit6	-	-
	bit7	アンテナ ID 出力 0 = 無効 1 = 有効	0
42	bit0	カスケードポート 1 接続アンテナ数 0 = 未使用	0
	bit1		
	bit2		
	bit3		
	bit4	カスケードポート 2 接続アンテナ数 0 = 未使用	0
	bit5		
	bit6		
	bit7		
43	bit0	カスケードポート 3 接続アンテナ数 0 = 未使用	0
	bit1		
	bit2		
	bit3		
	bit4	カスケードポート 4 接続アンテナ数 0 = 未使用	0
	bit5		
	bit6		
	bit7		
44	bit0	カスケードポート 5 接続アンテナ数 0 = 未使用	0
	bit1		
	bit2		
	bit3		
	bit4	カスケードポート 6 接続アンテナ数 0 = 未使用	0
	bit5		
	bit6		
	bit7		

※1 : TR3XM-C106 シリーズでは製品型式に[-2CH]の記載がある機種を除き、トリガー信号を検知できないため、本設定を有効とした場合自動読み取りモードで読み取りができません。

※2 : TR3XM-C106 シリーズの製品型式に[-2CH]の記載がある機種は「アンテナ自動切替制御信号」が内蔵 2CH 有効/無効の設定になります。内蔵 2CH が無効の場合、内蔵 CH は 0 (ANT1) に固定されます。

アドレス	設定項目		設定値	初期値
45	bit0	カスケードポート 7 接続アンテナ数	接続アンテナ数 (0～8) 0 = 未使用	0
	bit1			
	bit2			
	bit3			
	bit4	カスケードポート 8 接続アンテナ数	接続アンテナ数 (0～8) 0 = 未使用	0
	bit5			
	bit6			
	bit7			
46	bit0	RDLOOP モード 読み取り開始ブロック番号	読み取り開始ブロック番号 (0～255)	0
	bit1			
	bit2			
	bit3			
	bit4			
	bit5			
	bit6			
	bit7			
47	bit0	RDLOOP モード 読み取りバイト数	読み取りバイト数 (1～247)	4
	bit1			
	bit2			
	bit3			
	bit4			
	bit5			
	bit6			
	bit7			
48	bit0	-	-	-
	bit1	-	-	-
	bit2	-	-	-
	bit3	-	-	-
	bit4	-	-	-
	bit5	my-d 自動識別時の アクセス方式	0 = my-d カスタムコマンド 1 = ISO15693 オプションコマンド	0
	bit6	-	-	-
	bit7	-	-	-
49	bit0	ReadBytes／RDLOOP系の 内部処理	0 = Read Single Block 1 = Read Multi Block	0
	bit1	-	-	-
	bit2	-	-	-
	bit3	-	-	-
	bit4	-	-	-
	bit5	-	-	-
	bit6	-	-	-
	bit7	-	-	-

8.2 RDLOOP モード動作時の読み取り範囲

RDLOOP モード動作時の読み取り範囲を設定する手順について説明します。

8.2.1 読み取り開始ブロック番号

読み取り開始ブロック番号（0～255）の設定を行います。

読み取り開始ブロック番号は、EEPROM アドレス「46」に定義されています。
アドレス「46」の値を書き換えます。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 46 (2Eh) への書き込み

読み取り開始ブロック番号：「0 (00h)」
02 00 4E 03 B4 2E 00 03 38 0D

- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

8.2.2 読み取りバイト数

読み取りバイト数（1～247）の設定を行います。

読み取りバイト数は、EEPROM アドレス「47」に定義されています。
アドレス「47」の値を書き換えます。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 47 (2Fh) への書き込み

読み取りバイト数：「112 (70h)」
02 00 4E 03 B4 2F 70 03 A9 0D

- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

8.3 自動読み取りモード動作時の AFI 指定

自動読み取りモード動作時の AFI 指定を設定する手順について説明します。

- 自動読み取りモード動作時の AFI 指定
本設定値を「有効」にした場合は、リーダライタの EEPROM に書き込まれた AFI 指定値と同じ AFI 値を持つ RF タグのみと交信します。
本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。
リーダライタの EEPROM に AFI 指定値を書き込む方法については「7.9.18 AFI 指定値の書き込み」をご参照ください。

自動読み取りモード動作時の AFI 指定は、EEPROM アドレス「7」に定義されています。
EEPROM アドレス「7」の値を読み取り、bit1 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「7」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 7 (07h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 07 03 11 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え (bit1 を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目	設定値	初期値
7	bit0	-	0
	bit1	自動読み取りモード動作時の AFI 指定 0 = 無効 <u>1 = 有効</u>	0
	bit2	-	0
	bit3	SimpleWrite コマンド実行時の UID 指定 変更しない	0
	bit4	-	0
	bit5	-	0
	bit6	-	0
	bit7	-	0

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 7 (07h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 07 02 03 13 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

8.4 リトライ回数

リトライ回数（1～255）を設定する手順について説明します。

- リトライ処理
リトライ処理については「3.2 リトライ処理」をご参照ください。

リトライ回数は、EEPROM アドレス「22」に定義されています。
アドレス「22」の値を書き換えます。

アドレス	設定項目	設定値	初期値
22	bit0	リトライ回数（1～255）	1
	bit1		
	bit2		
	bit3		
	bit4		
	bit5		
	bit6		
	bit7		

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 22（16h）への書き込み

リトライ回数：「5（05h）」
02 00 4E 03 B4 16 05 03 25 0D

- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

8.5 SimpleWrite コマンド実行時の UID 指定

SimpleWrite コマンド実行時の UID 指定を設定する手順について説明します。

- SimpleWrite コマンド実行時の UID 指定
リーダライタの SimpleWrite は、以下の手順で実行されます。

手順 1. UID の読み取り

RF タグの UID を読み取ります。

手順 2. ユーザデータの書き込み

RF タグのユーザ領域へ TR3 シリーズ独自フォーマットのデータを書き込みます。

本設定値を「有効」にした場合は、手順 1 で読み取った UID を指定して手順 2 のデータ書き込みを実行します。

（手順 2 の実行時点で、手順 1 の実行時点では存在しなかった RF タグがアンテナ交信範囲内に存在していても、手順 1 で読み取った UID を持つ RF タグのみにデータを書き込むことができます。）

SimpleWrite コマンド実行時の UID 指定は、EEPROM アドレス「7」に定義されています。
EEPROM アドレス「7」の値を読み取り、bit3 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「7」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 7 (07h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 07 03 11 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え (bit3 を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目	設定値	初期値
7	bit0	—	0
	bit1	自動読み取りモード動作時の AFI 指定	変更しない
	bit2	—	0
	bit3	SimpleWrite コマンド実行時の UID 指定	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>
	bit4	—	0
	bit5	—	0
	bit6	—	0
	bit7	—	0

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 7 (07h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 07 08 03 19 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

8.6 自動読み取りモード動作時のトリガー信号

自動読み取りモード動作時のトリガー信号を設定する手順について説明します。
TR3XM-C106 シリーズでは製品型式に「-2CH」の記載がある機種のみサポートしております。

- 自動読み取りモード動作時のトリガー信号
本設定値を「有効」に設定した場合は、トリガー信号未入力時には RF タグの読み取りを行わず、トリガー信号入力時にのみ RF タグの読み取りを行います。
本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。

8.6.1 汎用ポートの機能

汎用ポート 2 の機能を設定します。

汎用ポートの機能設定は、EEPROM アドレス「30」に定義されています。
EEPROM アドレス「30」の値を読み取り、bit1 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「30」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 30 (1Eh) の読み取り
02 00 4F 02 B4 1E 03 28 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え (bit1 を太字／下線の設定値へ書き換え)

アドレス	設定項目	設定値	初期値
30	bit0	汎用ポート 1 の機能	変更しない
	bit1	汎用ポート 2 の機能	0 = トリガー制御信号入力ポート 1 = 汎用ポート
	bit2	汎用ポート 3 の機能	変更しない
	bit3	-	-
	bit4	-	-
	bit5	-	-
	bit6	汎用ポート 7 の機能	変更しない
	bit7	-	-

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 30 (1Eh) への書き込み
02 00 4E 03 B4 1E 00 03 28 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

8.6.2 汎用ポートの入出力

汎用ポート 2 の入出力の設定は不要(入力、出力のいずれも可)です。

8.6.3 汎用ポートの初期値

汎用ポート 2 の初期値の設定は不要(0、1 のいずれも可)です。

8.6.4 自動読み取りモード動作時のトリガー信号

自動読み取りモード動作時のトリガー信号は、EEPROM アドレス「38」に定義されています。
EEPROM アドレス「38」の値を読み取り、bit5 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「38」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 38 (26h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 26 03 30 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え (bit5 を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
38	bit0	—	—
	bit1	—	—
	bit2	—	—
	bit3	—	—
	bit4	ブザー種別	変更しない
	bit5	自動読み取りモード動作時のトリガー信号	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>
	bit6	—	—
	bit7	—	—

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 38 (26h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 26 20 03 50 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

8.7 ノーリードコマンド

RF タグが読み取れなかった場合に、リーダーライタがノーリードコマンドを送信するかどうかを設定します。

- ノーリードコマンド
本設定値を「有効」に設定した場合は、RF タグを読み取れなかった場合にノーリードコマンドがリーダーライタから送信されます。
ノーリードコマンドの詳細については「7.7 ノーリードコマンド」をご参照ください。

ノーリードコマンドの設定は、EEPROM アドレス「6」に定義されています。
EEPROM アドレス「6」の値を読み取り、bit4 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「6」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 6 (06h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 06 03 10 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え (bit4 を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目	設定値	初期値
6	bit0	-	-
	bit1	-	-
	bit2	-	-
	bit3	-	-
	bit4	ノーリードコマンドの設定 0 = 無効 <u>1 = 有効</u>	0
	bit5	-	-
	bit6	-	-
	bit7	-	-

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 6 (06h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 06 10 03 20 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

8.8 自動読み取りモード動作時の読み取りエラー信号

RF タグが読み取れなかった場合に、読み取りエラー信号を出力するかどうかを設定します。
TR3XM-C106 シリーズでは製品型式に[-2CH]の記載がある機種のみサポートしております。

- 自動読み取りモード動作時の読み取りエラー信号
本設定値を「有効」に設定した場合は、RF タグの読み取りを行っている間、汎用ポート 3 の値が「0」となります。RF タグの読み取りを行っていない間は、汎用ポートの値が「1」となります。

本設定値は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード（連続インベントリモード、RDLOOP モードなど）においてアンチコリジョン設定を「無効」としている場合のみ適用されます。

8.8.1 汎用ポートの機能

汎用ポート 3 の機能を設定します。

汎用ポートの機能設定は、EEPROM アドレス「30」に定義されています。
EEPROM アドレス「30」の値を読み取り、bit2 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「30」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 30 (1Eh) の読み取り
02 00 4F 02 B4 1E 03 28 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え (bit2 を太字／下線の設定値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値	初期値
30	bit0	汎用ポート 1 の機能	変更しない	0
	bit1	汎用ポート 2 の機能	変更しない	0
	bit2	汎用ポート 3 の機能	0 = 機能選択 1 = 汎用ポート	0
	bit3	—	—	—
	bit4	—	—	—
	bit5	—	—	—
	bit6	汎用ポート 7 の機能	変更しない	0
	bit7	—	—	—

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 30 (1Eh) への書き込み
02 00 4E 03 B4 1E 00 03 28 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

8.8.2 汎用ポートの機能詳細

汎用ポート 3 の機能詳細を設定します。

汎用ポートの機能詳細設定は、EEPROM アドレス「31」に定義されています。

EEPROM アドレス「31」の値を読み取り、bit0 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「31」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 31 (1Fh) の読み取り
02 00 4F 02 B4 1F 03 29 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え (bit0 を太字／下線の設定値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値	初期値
31	bit0	汎用ポート 3 の機能詳細	0 = RS485 制御信号出力ポート <u>1 = エラー制御信号出力ポート</u>	0
	bit1	—	—	—
	bit2	—	—	—
	bit3	—	—	—
	bit4	—	—	—
	bit5	—	—	—
	bit6	—	—	—
	bit7	—	—	—

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 31 (1Fh) への書き込み
02 00 4E 03 B4 1F 01 03 2A 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

8.8.3 汎用ポートの入出力

汎用ポート 3 の入出力の設定は不要(入力、出力のいずれも可)です。

8.8.4 汎用ポートの初期値

汎用ポート 3 の初期値の設定は不要(0、1 のいずれも可)です。

8.9 RF タグのメモリブロックサイズ

RF タグのメモリブロックサイズを設定する手順について説明します。

- RF タグのメモリブロックサイズ
Tag-it HF-I/ICODE SLI/my-d は「4」を設定します。
MB89R118C は「8」を設定します。

なお、RF タグ通信設定の書き込みコマンドを使用した場合は、コマンドのパラメータに応じて自動的に適切な値へ設定されます。

コマンドの詳細は「7.9.19 RF タグ通信設定の書き込み」をご参照ください。

RF タグのメモリブロックサイズは、EEPROM アドレス「36」に定義されています。
アドレス「36」の値を書き換えます。

アドレス	設定項目		設定値	初期値
36	bit0	RF タグの メモリブロックサイズ	4(Tag-it HF-I/ICODE SLI/ my-d) 8(MB89R118C)	4
	bit1			
	bit2			
	bit3			
	bit4			
	bit5			
	bit6			
	bit7			

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 36 (24h) への書き込み

RF タグのメモリブロックサイズ：「4 (04h)」
02 00 4E 03 B4 24 04 03 32 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

8.10 my-d 自動識別時のアクセス方式

my-d 自動識別時のアクセス方式を設定する手順について説明します。

- my-d 自動識別時のアクセス方式
アクセス方式については「3.6 my-d アクセス方式」をご参照ください。

My-d 自動識別時のアクセス方式は、EEPROM アドレス「48」に定義されています。
EEPROM アドレス「48」の値を読み取り、bit5 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「48」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 48 (30h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 30 03 3A 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え

アドレス	設定項目		設定値	初期値
48	bit0	-	-	-
	bit1	-	-	-
	bit2	-	-	-
	bit3	-	-	-
	bit4	-	-	-
	bit5	my-d 自動識別時の アクセス方式	0 = my-d カスタムコマンド 1 = ISO15693 オプションコマンド	0
	bit6	-	-	-
	bit7	-	-	-

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 48 (30h) への書き込み

my-d 自動識別時のアクセス方式 : ISO15693 オプションコマンド
02 00 4E 03 B4 30 20 03 5A 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

8.11 ReadBytes／RDLOOP 系の内部処理

本設定は、以下のコマンド及び動作モードに適用されます。

- ・ ReadBytes コマンド
- ・ RDLOOPCmd コマンド
- ・ RDLOOP モード

本設定では、上記コマンド及び動作モードの内部処理に使用するコマンドが選択出来ます。
RFタグに対して実行されるコマンドが異なるため、処理時間が変動します。

- ・ Read Single Block (1ブロック読み取り)
- ・ Read Multi Block (複数ブロック指定読み取り)

読み取るデータ長が多くなるほど、[bit0=1 : Read Multi Block] とした方が処理時間は短くなります。

ReadBytes／RDLOOPCmd／RDLOOP モードにおける内部処理コマンドを設定する手順について説明します。

ReadBytes／RDLOOP 系動作の内部処理コマンドは、EEPROM アドレス「49」に定義されています。

EEPROM アドレス「49」の値を読み取り、bit0 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「49」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 49 (31h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 31 03 3B 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え

アドレス	設定項目		設定値	初期値
49	bit0	ReadBytes／RDLOOP系の内部処理	0 = Read Single Block 1 = Read Multi Block	0
	bit1	-	-	-
	bit2	-	-	-
	bit3	-	-	-
	bit4	-	-	-
	bit5	-	-	-
	bit6	-	-	-
	bit7	-	-	-

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 49 (31h) への書き込み

ReadBytes／RDLOOP 系動作の内部処理 : Read Multi Block
02 00 4E 03 B4 31 01 03 3C 0D

- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

第9章 アンテナ切替

TR3XM-C106 シリーズでは、1CH 型と 2CH 型、アンテナ一体型の機種が存在します。
本章では、1CH 型と 2CH 型の機種を対象としたアンテナ切替を使用するための設定手順について説明します。

アンテナ切替の詳細は別紙「TR3 シリーズアンテナ切替取扱説明書」も合わせて参照ください。

9.1 アンテナ切替対応表

TR3XM-C106 シリーズでは、1CH 型と 2CH 型、アンテナ一体型の機種が存在します。アンテナ切替可能な機種は 1CH 型と 2CH 型のみとなります。

TR3XM-C106 シリーズの製品型式とアンテナ切替対応およびアンテナ接続可能数は以下の通りです。

製品型式	アンテナ 接続仕様	アンテナ 切替	アンテナ 接続可能数
TR3XM-C106	1CH 型	○	～8
TR3XM-C106-MFC			
TR3XM-C106-ILT			
TR3XM-C106F			
TR3XM-C106-2CH	2CH 型	○	～64 (※1)
TR3XM-C106-MFC-2CH			
TR3XM-C106-ILT-2CH			
TR3XM-C106-A4247	アンテナ 一体型	×	-
TR3XM-C106-MFC-A4247			
TR3XM-C106-ILT-A4247			
TR3XM-C106-A2424			
TR3XM-C106-MFC-A2424			
TR3XM-C106-ILT-A2424			
TR3XM-C106-A3540			

※1：2CH 型は内蔵 2CH の使用およびカスケード接続の設定によりアンテナ接続可能数が異なります。

内蔵 2CH	カスケード 接続	アンテナ 接続可能数
有効 (※2)	無効	～2
	有効	～16
無効 (※2) (内蔵 CH は 0(ANT1)固定)	無効	～8
	有効	～64

※2：2CH 型では、EEPROM アドレス 39 の bit4「アンテナ自動切替制御信号」で内蔵 2CH 有効/無効の設定が可能です。内蔵 2CH が無効の場合、内蔵 CH は 0 (ANT1) に固定されます。

9.2 1CH 型 [1～8CH まで]

TR3XM-C106 シリーズ 1CH 型機種のアナテナ切替[1～8CH まで]を設定する手順について説明します。

製品型式とアナテナ切替の対応に關しましては「9.1 アンテナ切替対応表」をご参照ください。

2CH 型機種は設定内容が異なります。「9.3 2CH 型 [1～2CH まで(内蔵 2CH 有効)]」以降の項目をご参照ください。

下表の設定への変更例を示します。

設定項目	設定値
アンテナ自動切替	1 = 有効
接続アンテナ数	8
カスケード接続	0 = 無効
アンテナ ID 出力	1 = 有効

- アンテナ自動切替
リーダライタが自動的にアンテナを切り替える機能です。
本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。
- アンテナ ID 出力
リーダライタが RF タグとの交信結果を(上位機器に対して)送信する際に、交信に使用したアンテナ番号を送信データ内に含める機能です。
本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。

9.2.1 汎用ポートの機能

汎用ポート 1～3 の機能を設定します。

汎用ポートの機能設定は、EEPROM アドレス「30」に定義されています。
EEPROM アドレス「30」の値を読み取り、bit0～2 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「30」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 30 (1Eh) の読み取り
02 00 4F 02 B4 1E 03 28 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え (bit0～2 を太字／下線の設定値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
30	bit0	汎用ポート 1 の機能	0 = LED 制御信号出力ポート <u>1 = 汎用ポート</u>
	bit1	汎用ポート 2 の機能	0 = トリガー制御信号入力ポート <u>1 = 汎用ポート</u>
	bit2	汎用ポート 3 の機能	0 = 機能選択 <u>1 = 汎用ポート</u>
	bit3	—	—
	bit4	—	—
	bit5	—	—
	bit6	汎用ポート 7 の機能	変更しない
	bit7	—	—

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 30 (1Eh) への書き込み
02 00 4E 03 B4 1E 07 03 2F 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.2.2 汎用ポートの入出力

汎用ポート 1～3 の入出力を設定します。

汎用ポートの入出力設定は、EEPROM アドレス「32」に定義されています。
EEPROM アドレス「32」の値を読み取り、bit0～2 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「32」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 32 (20h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 20 03 2A 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え (bit0～2 を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
32	bit0	汎用ポート 1 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit1	汎用ポート 2 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit2	汎用ポート 3 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit3	汎用ポート 4 の入出力設定	変更しない
	bit4	汎用ポート 5 の入出力設定	変更しない
	bit5	汎用ポート 6 の入出力設定	変更しない
	bit6	汎用ポート 7 の入出力設定	変更しない
	bit7	汎用ポート 8 の入出力設定	変更しない

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 32 (20h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 20 07 03 31 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.2.3 汎用ポートの初期値

汎用ポート 1～3 の初期値を設定します。

汎用ポートの初期値は、EEPROM アドレス「33」に定義されています。
EEPROM アドレス「33」の値を読み取り、bit0～2 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「33」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 33 (21h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 21 03 2B 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 FF 03 EA 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え (bit0～2 を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
33	bit0	汎用ポート 1 の初期値	<u>0</u> 1
	bit1	汎用ポート 2 の初期値	<u>0</u> 1
	bit2	汎用ポート 3 の初期値	<u>0</u> 1
	bit3	汎用ポート 4 の初期値	変更しない
	bit4	汎用ポート 5 の初期値	変更しない
	bit5	汎用ポート 6 の初期値	変更しない
	bit6	汎用ポート 7 の初期値	変更しない
	bit7	汎用ポート 8 の初期値	変更しない

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 33 (21h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 21 F8 03 23 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.2.4 アンテナ切替に関する各種設定

アンテナ切替に関する各種設定を行います。

アンテナ切替に関する設定は、EEPROM アドレス「39」に定義されています。
EEPROM アドレス「39」の値を読み取り、必要に応じて各 bit 値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「39」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 39 (27h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 27 03 31 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 10 03 FB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え（各 bit 値を太字／下線の値へ書き換え）

アドレス	設定項目		設定値
39	bit0	アンテナ自動切替	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>
	bit1	接続アンテナ数	接続アンテナ数 (0～7) <u>7 = アンテナ数 8</u>
	bit2		
	bit3		
	bit4	アンテナ自動切替制御信号	<u>0 = 通常ポート</u> 1 = 拡張ポート
	bit5	カスケード接続	<u>0 = 無効</u> 1 = 有効
	bit6	—	—
	bit7	アンテナ ID 出力	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 39 (27h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 27 8F 03 C0 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.3 2CH 型 [1～2CH まで(内蔵 2CH 有効)]

TR3XM-C106 シリーズ 2CH 型機種のアンテナ切替[1～2CH まで(内蔵 2CH 有効)]を設定する手順について説明します。

製品型式とアンテナ切替の対応に関しましては「9.1 アンテナ切替対応表」をご参照ください。

下表の設定への変更例を示します。

設定項目	設定値
アンテナ自動切替	1 = 有効
接続アンテナ数	2
カスケード接続	0 = 無効
アンテナ ID 出力	1 = 有効

- アンテナ自動切替
リーダライタが自動的にアンテナを切り替える機能です。
本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。
- アンテナ ID 出力
リーダライタが RF タグとの交信結果を(上位機器に対して)送信する際に、交信に使用したアンテナ番号を送信データ内に含める機能です。
本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。

9.3.1 アンテナ切替に関する各種設定

アンテナ切替に関する各種設定を行います。

アンテナ切替に関する設定は、EEPROM アドレス「39」に定義されています。
EEPROM アドレス「39」の値を読み取り、必要に応じて各 bit 値を書き換えます。

手順4. EEPROM アドレス「39」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 39 (27h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 27 03 31 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 10 03 FB 0D

手順5. 読み取った設定値の書き換え (各 bit 値を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
39	bit0	アンテナ自動切替	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>
	bit1	接続アンテナ数	接続アンテナ数 (0～7) <u>1 = アンテナ数 2</u> (※1)
	bit2		
	bit3		
	bit4	アンテナ自動切替制御信号	<u>0 = 通常ポート(内蔵 2CH 有効)</u> 1 = 拡張ポート(内蔵 2CH 無効)
	bit5	カスケード接続	<u>0 = 無効</u> 1 = 有効
	bit6	—	—
	bit7	アンテナ ID 出力	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>

※1：内蔵 2CH 有効の場合、接続アンテナ数は 1(アンテナ数 2)以上に設定しないでください。

手順6. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 39 (27h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 27 8F 03 C0 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.4 2CH 型 [1～8CH まで(内蔵 2CH 無効)]

TR3XM-C106 シリーズ 2CH 型機種のアンテナ切替[1～8CH まで(内蔵 2CH 無効)：基本(非カスケード)接続]を設定する手順について説明します。

製品型式とアンテナ切替の対応に関しましては「9.1 アンテナ切替対応表」をご参照ください。

下表の設定への変更例を示します。

設定項目	設定値
アンテナ自動切替	1 = 有効
接続アンテナ数	8
カスケード接続	0 = 無効
アンテナ ID 出力	1 = 有効

- アンテナ自動切替
リーダライタが自動的にアンテナを切り替える機能です。
本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。
- アンテナ ID 出力
リーダライタが RF タグとの交信結果を(上位機器に対して)送信する際に、交信に使用したアンテナ番号を送信データ内に含める機能です。
本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。

9.4.1 汎用ポートの入出力

汎用ポート 4～6 の入出力を設定します。

汎用ポートの入出力設定は、EEPROM アドレス「32」に定義されています。
EEPROM アドレス「32」の値を読み取り、bit3～5 の値を書き換えます。

手順4. EEPROM アドレス「32」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 32 (20h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 20 03 2A 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順5. 読み取った設定値の書き換え (bit3～5 を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
32	bit0	汎用ポート 1 の入出力設定	変更しない
	bit1	汎用ポート 2 の入出力設定	変更しない
	bit2	汎用ポート 3 の入出力設定	変更しない
	bit3	汎用ポート 4 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit4	汎用ポート 5 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit5	汎用ポート 6 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit6	汎用ポート 7 の入出力設定	変更しない
	bit7	汎用ポート 8 の入出力設定	変更しない

手順6. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 32 (20h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 20 38 03 62 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.4.2 汎用ポートの初期値

汎用ポート 4～6 の初期値を設定します。

汎用ポートの初期値は、EEPROM アドレス「33」に定義されています。
EEPROM アドレス「33」の値を読み取り、bit3～5 の値を書き換えます。

手順4. EEPROM アドレス「33」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 33 (21h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 21 03 2B 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 FF 03 EA 0D

手順5. 読み取った設定値の書き換え (bit3～5 を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
33	bit0	汎用ポート 1 の初期値	変更しない
	bit1	汎用ポート 2 の初期値	変更しない
	bit2	汎用ポート 3 の初期値	変更しない
	bit3	汎用ポート 4 の初期値	<u>0</u> 1
	bit4	汎用ポート 5 の初期値	<u>0</u> 1
	bit5	汎用ポート 6 の初期値	<u>0</u> 1
	bit6	汎用ポート 7 の初期値	変更しない
	bit7	汎用ポート 8 の初期値	変更しない

手順6. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 33 (21h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 21 C7 03 F2 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.4.3 アンテナ切替に関する各種設定

アンテナ切替に関する各種設定を行います。

アンテナ切替に関する設定は、EEPROM アドレス「39」に定義されています。
EEPROM アドレス「39」の値を読み取り、必要に応じて各 bit 値を書き換えます。

手順7. EEPROM アドレス「39」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 39 (27h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 27 03 31 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 10 03 FB 0D

手順8. 読み取った設定値の書き換え (各 bit 値を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
39	bit0	アンテナ自動切替	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>
	bit1	接続アンテナ数	接続アンテナ数 (0～7) <u>7 = アンテナ数 8</u>
	bit2		
	bit3		
	bit4	アンテナ自動切替制御信号	0 = 通常ポート(内蔵 2CH 有効) <u>1 = 拡張ポート(内蔵 2CH 無効) (※1)</u>
	bit5	カスケード接続	<u>0 = 無効</u> 1 = 有効
	bit6	—	—
	bit7	アンテナ ID 出力	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>

※1：拡張ポート(内蔵 2CH 無効)の場合、内蔵 CH は 0 (ANT1) に固定されます。

手順9. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 39 (27h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 27 9F 03 D0 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.5 2CH 型 [9CH 以上～16CH まで(内蔵 2CH 有効)]

TR3XM-C106 シリーズ 2CH 型機種のアンテナ切替[9CH 以上～16CH まで(内蔵 2CH 有効) : カスケード接続]を設定する手順について説明します。

製品型式とアンテナ切替の対応に関しましては「9.1 アンテナ切替対応表」をご参照ください。

下表の設定への変更例を示します。

設定項目	設定値
アンテナ自動切替	1 = 有効
接続アンテナ数	16
カスケード接続	1 = 有効
アンテナ ID 出力	1 = 有効

- アンテナ自動切替
リーダライタが自動的にアンテナを切り替える機能です。
本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。
- アンテナ ID 出力
リーダライタが RF タグとの交信結果を(上位機器に対して)送信する際に、交信に使用したアンテナ番号を送信データ内に含める機能です。
本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOP モードなど)時に適用されます。

9.5.1 汎用ポートの入出力

汎用ポート 4～6 の入出力を設定します。

汎用ポートの入出力設定は、EEPROM アドレス「32」に定義されています。
EEPROM アドレス「32」の値を読み取り、bit3～5 の値を書き換えます。

手順7. EEPROM アドレス「32」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 32 (20h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 20 03 2A 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順8. 読み取った設定値の書き換え (bit3～5 を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
32	bit0	汎用ポート 1 の入出力設定	変更しない
	bit1	汎用ポート 2 の入出力設定	変更しない
	bit2	汎用ポート 3 の入出力設定	変更しない
	bit3	汎用ポート 4 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit4	汎用ポート 5 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit5	汎用ポート 6 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit6	汎用ポート 7 の入出力設定	変更しない
	bit7	汎用ポート 8 の入出力設定	変更しない

手順9. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 32 (20h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 20 38 03 62 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.5.2 汎用ポートの初期値

汎用ポート 4～6 の初期値を設定します。

汎用ポートの初期値は、EEPROM アドレス「33」に定義されています。
EEPROM アドレス「33」の値を読み取り、bit3～5 の値を書き換えます。

手順7. EEPROM アドレス「33」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 33 (21h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 21 03 2B 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 FF 03 EA 0D

手順8. 読み取った設定値の書き換え (bit3～5 を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
33	bit0	汎用ポート 1 の初期値	変更しない
	bit1	汎用ポート 2 の初期値	変更しない
	bit2	汎用ポート 3 の初期値	変更しない
	bit3	汎用ポート 4 の初期値	<u>0</u> 1
	bit4	汎用ポート 5 の初期値	<u>0</u> 1
	bit5	汎用ポート 6 の初期値	<u>0</u> 1
	bit6	汎用ポート 7 の初期値	変更しない
	bit7	汎用ポート 8 の初期値	変更しない

手順9. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 33 (21h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 21 C7 03 F2 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.5.3 カスケードポートの接続アンテナ数

カスケードポートの接続アンテナ数を設定します。

カスケードポート 1 および 2 は EEPROM アドレス「42」に定義されています。
EEPROM アドレス「42」の値を「136 (88h)」へ書き換えます。

アドレス	設定項目		設定値
42	bit0	カスケードポート 1 接続アンテナ数	接続アンテナ数 (0～8) 8 = アンテナ数 8
	bit1		
	bit2		
	bit3		
	bit4	カスケードポート 2 接続アンテナ数	接続アンテナ数 (0～8) 8 = アンテナ数 8
	bit5		
	bit6		
	bit7		

※ 内蔵 2CH 有効時、カスケードポート 3 以降の接続アンテナ数は 0 にしてください。

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 42 (2Ah) への書き込み
02 00 4E 03 B4 2A 88 03 BC 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.5.4 アンテナ切替に関する各種設定

アンテナ切替に関する各種設定を行います。

アンテナ切替に関する設定は、EEPROM アドレス「39」に定義されています。
EEPROM アドレス「39」の値を読み取り、必要に応じて各 bit 値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「39」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 39 (27h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 27 03 31 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 10 03 FB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え（各 bit 値を太字／下線の値へ書き換え）

アドレス	設定項目		設定値
39	bit0	アンテナ自動切替	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>
	bit1	接続アンテナ数	変更しない
	bit2		
	bit3		
	bit4	アンテナ自動切替制御信号	<u>0 = 通常ポート(内蔵 2CH 有効)</u> 1 = 拡張ポート(内蔵 2CH 無効)
	bit5	カスケード接続	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>
	bit6	—	—
	bit7	アンテナ ID 出力	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 39 (27h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 27 A3 03 D4 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.6 2CH 型 [9CH 以上 (内蔵 2CH 無効)]

TR3XM-C106 シリーズ 2CH 型機種のアンテナ切替[9CH 以上 (内蔵 2CH 無効) : カスケード接続]を設定する手順について説明します。

製品型式とアンテナ切替の対応に関しましては「9.1 アンテナ切替対応表」をご参照ください。

下表の設定への変更例を示します。

設定項目	設定値
アンテナ自動切替	1 = 有効
接続アンテナ数	16
カスケード接続	1 = 有効
アンテナ ID 出力	1 = 有効

- アンテナ自動切替
リーダライタが自動的にアンテナを切り替える機能です。
本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOPモードなど)時に適用されます。
- アンテナ ID 出力
リーダライタが RF タグとの交信結果を (上位機器に対して) 送信する際に、交信に使用したアンテナ番号を送信データ内に含める機能です。
本設定は、コマンドモード以外のリーダライタ動作モード(連続インベントリモード、RDLOOPモードなど)時に適用されます。

9.6.1 汎用ポートの機能

汎用ポート 1～3 の機能を設定します。

汎用ポートの機能設定は、EEPROM アドレス「30」に定義されています。
EEPROM アドレス「30」の値を読み取り、bit0～2 の値を書き換えます。

手順4. EEPROM アドレス「30」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 30 (1Eh) の読み取り
02 00 4F 02 B4 1E 03 28 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順5. 読み取った設定値の書き換え (bit0～2 を太字／下線の設定値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
30	bit0	汎用ポート 1 の機能	0 = LED 制御信号出力ポート <u>1 = 汎用ポート</u>
	bit1	汎用ポート 2 の機能	0 = トリガー制御信号入力ポート <u>1 = 汎用ポート</u>
	bit2	汎用ポート 3 の機能	0 = 機能選択 <u>1 = 汎用ポート</u>
	bit3	—	—
	bit4	—	—
	bit5	—	—
	bit6	汎用ポート 7 の機能	変更しない
	bit7	—	—

手順6. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 30 (1Eh) への書き込み
02 00 4E 03 B4 1E 07 03 2F 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.6.2 汎用ポートの入出力

汎用ポート 1～6 の入出力を設定します。

汎用ポートの入出力設定は、EEPROM アドレス「32」に定義されています。
EEPROM アドレス「32」の値を読み取り、bit0～5 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「32」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 32 (20h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 20 03 2A 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 00 03 EB 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え (bit0～5 を太字／下線の設定値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
32	bit0	汎用ポート 1 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit1	汎用ポート 2 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit2	汎用ポート 3 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit3	汎用ポート 4 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit4	汎用ポート 5 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit5	汎用ポート 6 の入出力設定	0 = 入力 <u>1 = 出力</u>
	bit6	汎用ポート 7 の入出力設定	変更しない
	bit7	汎用ポート 8 の入出力設定	変更しない

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 32 (20h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 20 3F 03 69 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.6.3 汎用ポートの初期値

汎用ポート 1～6 の初期値を設定します。

汎用ポートの初期値は、EEPROM アドレス「33」に定義されています。
EEPROM アドレス「33」の値を読み取り、bit0～5 の値を書き換えます。

手順1. EEPROM アドレス「33」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 33 (21h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 21 03 2B 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 FF 03 EA 0D

手順2. 読み取った設定値の書き換え (bit0～5 を太字／下線の設定値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
33	bit0	汎用ポート 1 の初期値	<u>0</u> 1
	bit1	汎用ポート 2 の初期値	<u>0</u> 1
	bit2	汎用ポート 3 の初期値	<u>0</u> 1
	bit3	汎用ポート 4 の初期値	<u>0</u> 1
	bit4	汎用ポート 5 の初期値	<u>0</u> 1
	bit5	汎用ポート 6 の初期値	<u>0</u> 1
	bit6	汎用ポート 7 の初期値	変更しない
	bit7	汎用ポート 8 の初期値	変更しない

手順3. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 33 (21h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 21 C0 03 EB 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.6.4 カスケードポートの接続アンテナ数

カスケードポートの接続アンテナ数を設定します。

カスケードポートの接続アンテナ数は、EEPROM アドレス「42～45」に定義されています。
カスケードポート 1 および 2 は EEPROM アドレス「42」に定義されています。
EEPROM アドレス「42」の値を「136 (88h)」へ書き換えます。

アドレス	設定項目		設定値
42	bit0	カスケードポート 1 接続アンテナ数	接続アンテナ数 (0～8) 8 = アンテナ数 8
	bit1		
	bit2		
	bit3		
	bit4	カスケードポート 2 接続アンテナ数	接続アンテナ数 (0～8) 8 = アンテナ数 8
	bit5		
	bit6		
	bit7		

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 42 (2Ah) への書き込み
02 00 4E 03 B4 2A 88 03 BC 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

9.6.5 アンテナ切替に関する各種設定

アンテナ切替に関する各種設定を行います。

アンテナ切替に関する設定は、EEPROM アドレス「39」に定義されています。
EEPROM アドレス「39」の値を読み取り、必要に応じて各 bit 値を書き換えます。

手順4. EEPROM アドレス「39」の読み取り

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 39 (27h) の読み取り
02 00 4F 02 B4 27 03 31 0D
- レスポンス
02 00 30 02 B4 10 03 FB 0D

手順5. 読み取った設定値の書き換え (各 bit 値を太字／下線の値へ書き換え)

アドレス	設定項目		設定値
39	bit0	アンテナ自動切替	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>
	bit1	接続アンテナ数	変更しない
	bit2		
	bit3		
	bit4	アンテナ自動切替制御信号	0 = 通常ポート(内蔵 2CH 有効) <u>1 = 拡張ポート(内蔵 2CH 無効) (※1)</u>
	bit5	カスケード接続	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>
	bit6	-	-
	bit7	アンテナ ID 出力	0 = 無効 <u>1 = 有効</u>

※1：拡張ポート(内蔵 2CH 無効)の場合、内蔵 CH は 0 (ANT1) に固定されます。

手順6. 書き換えた設定値の書き込み

[コマンド／レスポンス例]

- コマンド
アドレス 39 (27h) への書き込み
02 00 4E 03 B4 27 B1 03 E2 0D
- レスポンス
02 00 30 01 B4 03 EA 0D

変更履歴

Ver No	日付	内容
1.00	2022/5/13	新規作成
1.01	2023/2/21	ROM バージョン情報の更新 2.11 カードディテクションモード 注意事項を追加 7.9.14 RSSI 値の読み取り レスポンスを訂正
1.02	2024/7/2	TR3XM-C106F 追加
1.03	2024/9/26	TR3XM-C106F の新規リリース ROM バージョンを 1.010STF00 へ変更
1.04	2025/5/1	TR3XM-C106 シリーズに Ver1.010 の ROM バージョン情報を 追加
1.05	2025/6/19	TR3XM-C106 シリーズに Ver1.020 の ROM バージョン情報を 追加
1.06	2026/3/5	TR3XM-C106-A3540 追加

タカヤ株式会社 RF 事業部

[URL] <https://www.takaya.co.jp/>

[Mail] rfid@takaya.co.jp

仕様については、改良のため予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。